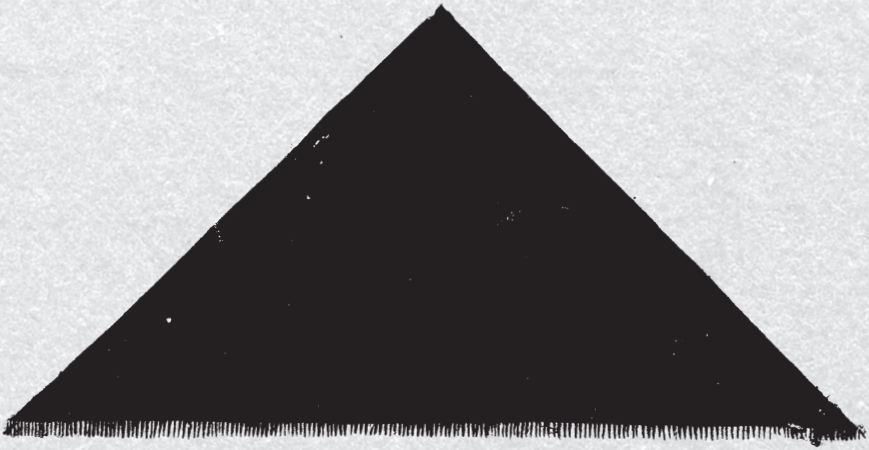
奈良文化財研究所研究報告　第38冊

Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 3

文化財多言語化研究報告3

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

奈良文化財研究所研究報告　第38冊



Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 3

文化財多言語化研究報告 3

奈良文化財研究所
Nara National Research Institute for Cultural Properties

文化財多言語化研究報告 3

目 次

例 言 …… 4

Ⅰ 論考

[1] 日中韓の木簡名称及びその対応関係　方 国花 …… 6

[2] 文化財を「翻訳」する（三）：練習問題と参考資料　吳 修喆 …… 18

[3]「文化財」から「国家遺産」へ：韓国における文化遺産体制の変化　扈 素妍 …… 26

[4] 英語圏の文化財の解説における技術的・文化的変化が及ぼす影響について　Rebekah Harmon …… 40

[5] 英語圏の文化財の解説における技術的・文化的変化が及ぼす影響について（日本語訳）　Rebekah Harmon …… 45

Ⅱ 事業報告

[6] 日本の遺跡情報を国際連携する：ARIADNEとSEADDA　高田 祐一 …… 52

[7] 韓国における「都城」の英訳考：UNESCO世界文化遺産のICOMOS評価書を中心に　扈 素妍 …… 56

Ⅲ 実験

[8] 文化財多言語化のためのPython入門：韓国語の形態素解析　Peter Yanase …… 66

Ⅳ 資料

[9] 文化財中訳スタイル・マニュアル：約物編　吳 修喆 …… 74

[10] 文化財韓訳スタイル・マニュアル：約物編　扈 素妍 …… 80

[11] 文化財英訳スタイル・マニュアル（英語版）　Rebekah Harmon & Peter Yanase …… 87

[12] 文化財多言語化のための英文タイポグラフィ入門　Peter Yanase …… 109

[13] 2022年度文化財関連用語日中対訳集　吳 修喆 …… 116

例 言

・本書は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所が実施する多言語化事業の研究報告である。

・本書は、［Ⅰ論考］［Ⅱ事業報告］［Ⅲ実験］［Ⅳ資料］の４部構成からなる。Ⅰは、文化財多言語化に関する書き下ろしの研究論考などを収録し、Ⅱには大型国際的考古学連携プロジェクトに関する報告と藤原京周辺の UNESCO 世界遺産登録に向けて作成された参考資料を掲載した。Ⅲは韓国語の自然言語処理に関する解説である。そして、Ⅳには本研究所で使用されている英・中・韓のスタイルマニュアルなどがある。

・表紙画像は「舞楽面 按摩」（国立博物館所蔵品統合検索システム *https://colbase.nich.go.jp/collection_items/tnm/C-1149?locale=ja*）を編輯・加工したものである。

・本書の編集は、奈良文化財研究所企画調整部文化財情報研究室多言語チームの協議の上、高田祐一の指導のもと、Yanase Peterが担当した。

I

論考

日中韓の木簡名称及びその対応関係

方 国花†
†慶北大学校人文学術院

キーワード：木簡、多言語化

Wooden Tablets in Japan, China, and Korea: Naming Conventions and Translations

Fang Guohua†
†Institute of Humanities Studies, Kyungpook National University

Keywords: wooden tablets, translation

はじめに

日本では、木片に文字を記したものを広く「木簡」と呼ぶ。韓国でも同じく「木簡」という用語を用いる。しかし、中国では竹に文字を書いたものを「竹簡」、木に文字を書いたものを「木牘」と称し、これを合わせて「簡牘」という。日本ではまだ竹に文字を書いた例が見つかっておらず、木を書写材料とするもの、言わば将棋の駒や曲物などにも、文字が書いてあれば木簡とする。ただし、正倉院などに伝来するもの以外は、基本的に発掘調査によって出土したものを木簡として扱う。

日本の出土木簡は既に 50 万点を超え、古代史を考える上で欠かせない資料となっており、「木簡学」という学問も成立している。一方で、同じく 50 万枚ほどの点数を所有する中国では、「簡牘学」という用語を使用する。（絹に文字を書いた「帛書」と合わせて「簡帛学」と称することもある。）ただ、学界では中国の簡牘学と日本や韓国の木簡学を合わせて「東アジア木簡学」と称することもある（角谷 2014）。本稿では、木製か竹製かを区別せずその総称とする際には「木簡」といい、必要に応じて「簡牘」、「竹簡」などの用語も使用する。

木簡学において、各名称は研究を進める上で大変重要である。日本の木簡は、内容や用途によって木簡を分類し、「文書木簡」や「付札木簡」のような名称をつけている。また、これを細分した名称も使用される。韓国は日本の木簡研究の影

響が強く、似たような名称を使うことが多い。しかし、中国は全く異なる。用途や形態、材質により、「札」、「簡」、「牒」、「両行」、「方」、「版」、「牘」、「槧」、「檄」、「検」、「觚」、「枾（柿）」などの専門用語が使われ、この道の人でなければ、理解できないものばかりである。

紙が普及する前の普遍的書写材料となる木簡は、日本では紙が普及し始めた奈良時代においても木の堅牢性、耐水性、簡便性などの特性が生かされ、多く使われていたが、その起源は何百年も前の中国秦漢時代ないし魏晋時代の簡牘に求められることが多い。また、韓国古代木簡はまだ600点弱で、その点数は少ないものの、7～8世紀を主とする日本木簡と使用年代が近く（6～8世紀）、形態や内容、記載方法も似ていることが多いため、日本古代木簡との比較対象となることが多い。

日中韓における木簡の出土例が増えるにつれ、比較研究の需要も増していく。しかし、現段階での研究をみると、日中または日韓の木簡の比較研究は多く見られるものの、日中韓三国の比較研究はさほど多くない。比較研究を深め、さらに広めるためには、まず各国における木簡・簡牘の名称及びその使われ方をしっかり理解しておく必要があるが、例えば中国の簡牘研究者の多くは、日本の木簡についての知識をあまり持っていない。しかし、中国においても「東アジア木簡学」に対しての関心が高まり、日本や韓国の木簡を研究しようとする人が増えているが、各国における用語に齟齬があり、歯がゆい思いをする人が多いと聞く。同じ漢字文化圏に属し、漢字を使えばなんとか通じるという先入観があるからなおさらである。実際に刊行されている木簡についての論稿やその訳本をみると、対訳の用語がバラバラで、正しい理解に繋がりにくくなっている。

そこで、本稿では文化財多言語化の視点で、日中韓における木簡・簡牘の用語を整理し、その対訳関係を提示する。そうすることで、東アジアレベルでの木簡の比較研究に役に立ちたいと考える。

1 材質別分類及びその名称

既に述べたように、日中韓においては同じく木材を書写材料としながらも、その名称が国によって異なる。表1で示したように、木を材質とするものは、日本や韓国では「木簡」とし、中国では「木牘」としている。竹を材質とするものは、日本ではまだ見つかっていない。韓国では、忠清南道泰安馬島近くの海域から見つかった沈没船で、いつ、どこの誰が何をどれほど送ったかという内容の記された、日本の荷札のような機能をする竹の札が発見されているが、これは「竹簡」

という用語を使えば、中国の竹簡が想起されるため、「竹札」という呼称を用いるとされている（林敬熙 2010）。中国の竹簡は、細長い竹の札を紐で編んですだれのようにしたもので、主に書物を書写するのに用いられる。韓国の竹札はその機能が中国の竹簡と全く異なるため、名称を異にしたのである。ただ、韓国では、この竹札をも含んだ意味で「木簡」と称しており、木簡を竹や木の書写材料の総称とすることが分かる。中国では、木牘と竹簡を合わせて「簡牘」とする。

「簡」は部首が竹冠であり、元は竹製であった。「牘」は「木」を縦に半分割った「片」が部首となっており、元は木製であった。即ち、竹の札が「簡」で、木の札が「牘」であった。そこで、「竹簡」と「木牘」という用語が生まれたわけだが、一方で、「竹牘」と「木簡」という用語もある。「竹牘」の「牘」は、木片という意味ではなく、はばの広いものを指す。反面、「木簡」の「簡」は、はばの狭いものを指す。複数行の文字が書ける幅の広い竹牘は実際に出土例もあるが、あまり普遍的なものではない。（例えば、中国湖北省の鳳凰山 168 号墓で 5 行分の書写面が作られ、4 行の文字が記された前漢時代の幅広の竹牘が出土した。）「木簡」は一行書きの、長さ 1 尺（漢尺の 1 尺の長さは約 23 ㎝）、幅 5 分（約 1 ㎝）の細長い木の札を指すこともあるが、木牘と竹簡の総称とすることもある。しかし、やはり中国では「簡牘」という用語を用いるのが一般的であり、「簡牘」といえば、日本や韓国ではない、中国で使われた竹または木の札を指すということが共通の認識となっている。これは多言語表記の際にも注意すべき点である。

なお、「簡」だけで竹簡と木牘の総称となる場合もある。中国では、秦代に使用された簡牘は「秦簡」、漢代に使用された簡牘は「漢簡」のように、「簡」の前に王朝名を付けることが多い。また、その前に地名を付すことも多い。例えば、湖南省龍山県里耶鎮から出土した秦代の簡牘は「里耶秦簡」、内モンゴル自治区の漢代に張掖郡居延県が置かれた地域から出土した簡牘は「居延漢簡」と呼ばれる。この場合の「簡」は木製と竹製を含んだ総称であり、「簡牘」の略称となる。

2 形状別分類及びその名称

木簡は木や竹をどのような形に加工したかによっても名称が異なる。書写面積を最大限にしたのが「編綴簡」・「冊書」（「冊」は「策」とも書く）である。これは細長い竹の札または木の札を紐で編んで、書ける文字数を増やしたものである。これを中国では「簡冊」・「簡策」とも言うが、日本と韓国では編綴された簡の例が見つかっておらず、「簡冊」や「冊書」のような専門用語よりは、その形状を示

す「編綴簡」という用語を使うことが多いように見える（対応関係は表2参照）。

中国では、竹簡は編綴して冊書の形で使用する場合の書写材料で、書籍や帳簿の書写に用いられるが、竹の生息しない辺境地帯においては仕方なく木の編綴簡を使用したとされる。日本では書籍や帳簿には紙が使われており、竹簡は紙に替わっていたため、編綴簡も竹簡も出土しないとされる。（冨谷2014）

編綴簡と対称となるのが「単独簡」で、これは紐で繋ぎ合わせずに単独で使用する木の札をいう。日本や韓国で使用された木簡は全て単独簡である。その中で、書写面積を多く確保したものが、簡牘学の専門用語では「觚」と称される多面体の木簡である。多面体の形状をする木簡には「檄」と呼ばれるものもあるが、これは普通の簡よりも長く、封泥匣が刻まれているものもある（冨谷 2014）。特殊な形と言え、単なる多面体のものを指す「觚」とは異なる。そこで、韓国や日本の多面体木簡と対応するのは「觚」とすべきである。韓国木簡を中国に紹介した戴衛紅（2017）では、韓国の多面体木簡を「觚形」としている。

多面体木簡の形状は円柱状のものもあれば、3 面または 4 面などの複数の書写面を持つ角柱状のものもある。韓国では、6～7 世紀においては多面木簡または円柱形木簡が多く使用されるが、8 世紀以降になると著しく減少するということから、多面木簡と円柱形木簡は韓国木簡を代表する重要な特徴の一つでされている（尹善泰2007）。

木簡の中で最も普遍的な形状は板状である。板状に切り込みを入れるか下端を尖らせるか穴を開けるなどの加工をしたものが多い。日本では、このような木材の加工の仕方や欠損状態を 3 ケタの数字で表し、18 個の型式番号で日本木簡の形態を分類している（*https://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/?c=how_to_use#legend05* を参照）。韓国でもローマ字や数字などによる形態分類案を試みられているが（例えば李在晥2019や金在弘2022等）、まだ定着しているわけではない。中国簡牘も番号による分類案が提示されているものの（髙村武幸2012）、広く受け入れられているわけではない。ただ、本稿では日中韓の木簡名称を比較するのが主な目的であるため、このような番号などによる形態分類については、これ以上言及しないこととする。

では、再び板状の木簡についてみてみると、基本的に木目に沿って文字を書く縦長の形状であるが、木目が横向きになる横長の形状（「横材木簡」と称する）もある。日中韓において共に確認される例であるが、尹善泰（2007）はこの形状の木簡を「方形木簡」と称する。

中国では、板状の木簡を長さまたは幅によって違う名称をつける。「簡」、「牒」

と「札」は長さ約23㎝、幅約1㎝、厚さ0.2～0.3㎝の1行書きのものを指す。「両行」は長さは変わらず、幅を1.8ないし2.8㎝にした2行分の文字が書けるものを指し、「牘」はもう少し幅の広いものを指す。「方」、「板」と「版」はさらに幅を広げて、縦横の長さがほぼ同じになり、つまり四角に近い形になるものを指す。長さを2尺にしたのは「檄」、3尺にしたのは「槧」であるとされる（大庭1979・1998）。中国戦国時代の礼儀書である『儀礼』に「方」は5行、7行または9行書くと記され、湖南省にある嶽麓書院所蔵の秦簡に「牘」は5行を超えてはならないと書かれ、広さまで規定される。これほど細かく規定するということは、中国において、簡牘の大きさは礼制にかなわなければならず、大変重要であったことが分かる。一方で、日本の木簡にはそのようなきちんとした原則はなかったらしく、長さも幅もまちまちである（鬼頭1990）。韓国木簡も同じである。

なお、木簡を再利用するためにその表面に書かれた文字を刀子（小刀）で削り落としたものを日本では「削屑」と称するが（大庭1998）、中国では漢代からの古典に記された「柝・柿」（「こけら」の字）という用語を使う。一方で、簡牘研究がはじまってからの用語となる「削衣」（銭存訓1957に既にこれについての定義が見られる）もよく使用されている。韓国では、日本の「削屑」という用語の影響を受けて、その漢字音で表記した「삭설（削屑）」という用語を用いることが多い。また、「屑」を意訳した「부스러기」を使い、その後に漢字表記も付した「목간부스러기（木簡削屑）」という用語も使われている（尹善泰2007）。他方で、「屑」という漢字が韓国国内ではあまり使われていないものだとして「削片」という用語を用いる場合もあるが（李鎔賢等2022）、やはり前者の用語の方が一般的である。

このように、国によって木簡の使用された時代が異なり、事情も異なるため、使われている名称にも違いが見られる。表2でまとめたように、日本と韓国は似た形状の木簡が多く出土し、用語も類似している。他方、中国の簡牘学における名称は、古典の影響が強く、礼制の規制により大きさを使い分けるなどしている。つまり、韓国と日本には中国の簡牘文化の一部のみが引き継がれていると言える。

3 内容・用途別分類及びその名称

木簡の各形状の中で最も多くを占めている板状の木簡は、書写する内容やその用途により更に細かく分類されることがある。日本の木簡は、内容により「文書木簡」、「付札木簡」、「その他」に大きく分けられるが、文書木簡は大概短冊形を

しており、付札木簡は大体上下端の両側に切り込みを入れたり、下端を削ってとがらせたりしている（鬼頭 1990）。ただ、これは大まかな傾向であり、全てがこれに当てはまるとは限らない。たとえば、短冊形の付札木簡もある。「その他」に含まれている木簡には「習書・落書木簡」、「呪符木簡」などがあるが、これらの木簡は「習書木簡」と「落書木簡」を別の分類範疇とする場合や、呪符木簡を文書木簡の範疇に入れる場合などがあり、分類方法が一定的ではない。その一方、木簡の機能による新しい分類案も提示されている（渡辺 2014）。しかし、現段階では「文書木簡」、「付札木簡」、「その他」に分けるのが最も一般的な分類法であり、本稿もこれに従う。

日本の木簡は 7 ～ 8 世紀を最盛期とし、その種類もこの時期が最も豊富であるが、木簡を記載内容・用途別に細かく分類し、詳しく説明をしているものとしては、古代木簡の集大成となる木簡学会（2003）を挙げることができる。しかし、本書は従来の分類案と若干違うところに注意が必要である。本書は「荷札」を別の分類範疇とし、狭義の付札を「その他」に入れ、物品のラベルのような役割を果たす広義の付札と区別している。だが、日本の木簡を中国と韓国の木簡と比較するためには、従来の分類案通りにしたほうが便利である。そこで、本稿では大きくは従来の分類案に従いつつ、木簡学会（2003）によるラインアップに基づいて表 3 のような一覧表を作成した。なお、日本の木簡の各名称は、中国と韓国の木簡の名称と全て対応するわけではないため、ここでは対応関係のある中韓木簡の名称及び異なる漢字を用いる対訳のみを一覧表に反映した。

紙幅の関係上、表 3 に示した名称を全て説明することはできず、特に説明を加える必要があるものについてのみ詳述する。

3.1 召喚状・召喚木簡・召文木簡

「召喚状」・「召喚木簡」・「召文木簡」と呼ばれるものは、役所が役人を呼び出す際に使用したものであり、「役所＋召＋役人＋用件＋日付」の書式で書かれることが多い。「召」という字が使われることで、「召文」または「召喚」と称している。「召喚」とは普通裁判所が被告人・証人などに対し、日時・場所を指定して呼び出すことを意味し、韓国でも同じ意味で使用されている。他方、中国では、口頭で人を呼ぶことを「召喚」という。そのため、「召喚状」・「召喚木簡」の漢字表記をそのまま中国語に当てることはできない。康昊は市大樹の論文を翻訳する際に「召見」という用語を用いているが（市 2014）、「召見」には上司が部下を呼び出すという意味があり、まさに召喚木簡の「召喚」と意味が似ているため、訳語と

してぴったりである。ただ、康氏の「召喚木簡」を「召見他人木簡」と訳す部分については、召喚される対象が「他人」となっており、ニュアンスが少し変わってしまう。もし、「召見木簡」とのみ訳すと、呼び出される対象が木簡のように見え、落ち着きが悪い。本木簡が「召文」とも呼ばれる文書木簡であることを考えると、「召見文書簡」と訳すのが良いと考える。韓国語訳も中国語訳と同じ漢字表記を使い、「소견문서목간（召見文書木簡）」にしておく。

3.2 郡符木簡

郡符木簡は、中国と韓国の木簡に同じような例がなく、対訳としてはそのまま「郡符木簡」になるが、「符」の字は簡牘の名称としては「割符」を意味し、「郡符木簡」の「符」とは全く意味が異なる点に注意が必要である。つまり、簡牘の「符」は、1本の竹または木の札をあらかじめ二つに割り、半分ずつを別々に持っていて、関の出入りなどの際に札の側面に入れた切り込みを照合させて、互いを認証するのに使うものである（大庭1998）。他方、「郡符木簡」の「符」は、文書様式の一つで、いわゆる下達文書に用いられる。そして「郡符」は、軍司が郷・里やその他管轄機関に対し命令を下した文書である。そのため、日本木簡に対しての知識をあまり持っていない簡牘研究者は、「郡符木簡」についての詳しい説明がない限り、その用語を理解できないのである。つまり、このような用語の多言語表記は、説明文を加える必要が生じる。

3.3 出挙木簡

「出挙木簡」は、稲や金銭などを貸し付け利息を取っていた、古代の出挙制に関わる木簡のことである。これに該当する木簡が中国や韓国にも出土している。中国では「長沙呉簡」または「走馬楼呉簡」と呼ばれる、湖南省長沙市の古い井戸から出土した三国時代の呉の簡牘群に、利息の付く穀物の貸与と返納に関するものが含まれている。關尾（2014）は、これを出挙に該当するものとしながらも、後代の法制概念である出挙を用いることは控えたいとし、「貸与簡」・「返納簡」と称している。韓国では「佐官貸食記」の文言が記された木簡が百済の旧都となる扶余の双北里遺跡から出土しているが、その内容及び記された文言が日本の出挙木簡と類似し、注目されている。「貸食」という文句は、中国の走馬楼呉簡における、關尾（2014）で「貸与簡」とされる木簡にも共通するため、共に「貸食簡」と称される（戴衛紅 2014）。内容が類似するこれらの木簡は、鄭東俊（2014）でも行われているような日中韓の木簡の比較によって、それぞれの資料の性格を一

層明らかにすることができる。ただ、その名称は国、または研究者によりまちまちである。本稿で試みているような名寄せを通じて、東アジア木簡学を一層広めることができるであろう。

3.4 封緘木簡

紙の文書を挟んで封印するための木簡を、日本では「封緘木簡」という。2 枚の同型の木簡、または、上端から途中までを未使用の割り箸のように表裏 2 枚に剥いだ木簡の間に文書を挟み、その上端ないし上下両端に切り込みを入れ、切り込みのところに紐をかけて縛り、その上から「封」「印」などと墨書し、時には宛先を書いた木簡である（大庭 1998）。似たような木簡が韓国でも発見され、同じ漢字表記を使用し、「봉함목간（封緘木簡）」と呼ばれている。他方、中国の場合はこのような役割を果たす簡牘を「検」と呼ぶ。「検」は用法により「封検」と「書検」に大別できる。「封検」とは、中身が開いたり露われたりしないように封じるための簡牘であり、時には封泥で封印されたものを指す。「書検」とは、文書が送られる官庁等の宛名を書くための簡牘であり、文書を封じる時には、表に宛名も書かれる（大庭 1998）。そうすると、日本の「封緘木簡」は簡牘の「検」の中の「書検」に機能が通じると言える。ただ、「検」は封泥を入れるための匣が付く場合が多く、形態は日本の「封緘木簡」と大きく異なる。

なお、「実物検」とも呼ばれている「封検」は、「楬」と同じように、この簡牘を付けた物品の内容や所属などを示す働きをするもので、「楬」に封泥匣が付いたものともみられている（鷹取 2014）。

3.5 付札木簡

日本の「付札木簡」と同じく、物品のラベルの役割をすると言われている簡牘が「楬」である。「楬」は、多くの場合は上部にまるみをつけ、その部分を墨で塗りつぶしたり、網目状に墨の線をひいたりしている（大庭 1979）。多くは、木の札の上端または下端の両側に切り込みを入れたり、下端を尖らせる形に整形した日本の付札と形態が異なる。他方、韓国の「꼬리표목간（附札木簡）」の形は日本の付札によく似ている。

広義の付札は、普通物品の管理や保管用に付けられる狭義の「付札」（「物品付札」ともいう）と地方からの調・庸などの貢進物に付けられる「荷札」（「貢進物付札」ともいう）に分けられる。（なお、狭義の付札には鍵に付けられる「キーホルダー木簡」と呼ばれるものもある。）

広義の付札はよく、「楬」に該当すると言われているが、鷹取（2014）で指摘されているように、「実物検」にも同じ機能があり、機能面では「実物検」も付札に対応すると言える。中国語訳はラベル・タグを意味する「標簽」を使用した「標簽簡」でも良いが、簡牘専門分野では「簽牌」という用語を使うことが多いため、「簽牌」を推奨する。ただ、「簽牌（日語中稱為“付札木簡”）」のように、元の用語を付けておいたほうが良いと思う。韓国語訳はラベル・タグを意味する「꼬리표」に漢字表記の「附札」を添えるのが一般的である。

狭義の付札は広義の付札の名称が同じであるため、「物品付札」とも呼ばれている。その中国語訳も同じく「簽牌」に「物品」を付した「物品簽牌」に、韓国語訳は「물품꼬리표（物品附札）」にすると良い。

「荷札」は、貢進物に付けられるということで「貢進物付札」とも呼ばれているが、その訳語は表3に掲げたように様々である。韓国では、「荷札」の韓国漢字音を用いて「하찰（荷札）」とすることも多いが、その用途を示した「세금공진용（税金貢進用）꼬리표」という名称にすることもある。中国の簡牘でいえば、荷とともに運ばれる荷札は、倉庫・文書庫に保管する場合に付けられた整理の標識だとされている「楬」（「物品付札」に該当）（富谷2014）とは区別した方が良い。その中国語訳はいろいろあるが、貢進物を意味する「貢品」を付した「貢品簽牌」に「荷札」をかっこ書きで添えた表記が最も良いと考える。

おわりに

以上、本稿では日中韓の木簡の名称及びその対応・対訳関係について述べた。ただ、本稿は日本木簡の立場で書いたものであり（特に表 3)、対等な関係にはなっていないことを断っておく。韓国木簡は日本木簡と使用年代も形態も近く、対照表は比較的に作成しやすかった。他方、中国簡牘は紙木併用時代の日韓木簡と違い、大半は簡牘使用時代のものであり、使用年代と使用背景に大きな差がある。また、名称の付け方も古典文献や簡牘資料に記されているものを中心とするため、同じ俎上に載せるのは容易ではない。そのため、中国語訳は日本語と 1 対 1 の関係にはならなかった。本文でも触れたように、中国語訳は日本の木簡の機能、内容、形態などの面に分けて論じる必要がある 。

日中韓の木簡が研究レベルで比較検討されることが多いが、本稿は多言語表記の視点で専門用語の対応・対訳関係を論じることが目的であり、木簡研究の幅を広げ、さらに深めることに役に立つものと信じている。ただ、本稿では紙幅の関

係上、言及内容が木簡関連用語の一部にとどまることを断っておく。データを拡充していくとともに、木簡の増加により、また研究の進歩により、修正していくことを今後の課題とする。

参考文献

市大樹（康昊訳）（2014）「日本古代木簡的視覚機能」、角谷常子編『東亞木簡學的構建』所収、汲古書院

大庭脩（1979）『木簡』、学生社

大庭脩（1998）『木簡：古代からのメッセージ』、大修館書店

鬼頭清明（1990）『木簡』、ニュー・サイエンス社

金在弘（2022）「韓國 古代 木簡의 分類 方案」（韓国古代木簡の分類方案）『木簡과 文字』（木簡と文字）28号

角谷常子編（2014）『東アジア木簡学のために』、汲古書院

關尾史郎（2014）「穀物の貸与と返納をめぐる文書行政システム一斑」、角谷常子編『東亞木簡學的構建』所収、汲古書院

銭存訓（1957）『中国古代書史』、香港中文大学昊

戴衛紅（2014）「중,한 “대식간（貸食簡）” 연구」（中韓“貸食簡”研究）、『大東文化研究』88号

戴衛紅（2017）『韓國木簡研究』、広西師範大学出版社

鷹取祐司（2014）「古代東アジアにおける付札の展開」、角谷常子編『東アジア木簡学のために』所収、汲古書院

髙村武幸（2012）「中国古代簡牘分類試論」、『木簡研究』34号

鄭東俊（2014）「백제 대식제（貸食制）의 실상과 한계」（百済貸食制の実情と限界）、『역사와 현실』（歴史と現実）91号

冨谷至（2014）『木簡・竹簡の語る中国古代：書記の文化史』（増補新版）、岩波書店

木簡学会（2003）『日本古代木簡集成』、東京大学出版会

尹善泰（2007）『목간이 들려주는 백제 이야기』（木簡が聞かせる百済の物語）、周留城

尹龍九・李鎔賢・李東柱（2022）『韓国木簡総覧』、周留城

李在晥（2019）「한국 출토 목간의 분류와 정리 및 표준화 방안」（韓国出土木簡の分類と整理及び標準化方案）、『木簡과 文字』（木簡と文字）23号

林敬熙（2010）「마도 1 호선 목간의 분류와 주요 내용」（馬島一号船木簡の分類と主要内容）、『태안마도 1 호선 수중발굴조사 보고서』（泰安馬島一号船水中発掘調査報告書）、国立海洋文化財研究所

渡辺晃宏（2014）「墨書のある木製品とその機能：東アジア木簡学の確立のために」、角谷常子編『東アジア木簡学のために』所収、汲古書院

奈良文化財研究所『木簡庫』（*http://mokkanko.nabunken.go.jp/ja/*）

付録：日中韓木簡名称対照表

表1　材質別分類及びその名称

	日本	韓国	中国
木製	木簡	木簡	木牘
竹製	×	竹札	竹簡
総称	木簡	木簡	簡牘

表2　形状別分類及びその名称

日本	実例	韓国	実例	中国	実例
編綴簡 ＜冊書＞	×	편철간（編綴簡） ＜책서（冊書）＞	×	＜簡冊（策）/冊書＞	◎
単独簡	◎	단독간（單獨簡）	◎	單獨簡/單簡	◎
多面体/角柱状/円柱状	○	다면형（多面形）/막대형（棒形）/원주형（円柱形）	◎	多棱形/棱柱形 ＜觚/檄＞	◎
板状	◎	판형（板形）/장방판형（長方板形）/세장형（細長形）	◎	条状・片状/板状 ＜簡・牒・札/両行/牘/方・板・版/槧＞	◎
削屑	◎	목간부스러기（木簡削屑）/삭설（削屑）/삭편（削片）	◎	削衣 ＜柰・柿＞	◎

＊×は実際の用例がないことを示し、○は用例が少ないことを示し、◎は用例多数であることを示す。なお、＜ ＞を付けたのは簡牘学における専門用語を表す。

表3　日中韓木簡の内容・用途別名称対応・対訳表

	日本		韓国	中国
典籍			전적목간（典籍木簡）	典籍簡
文書	文書木簡		문서목간（文書木簡）	文書簡
	様式別	進上状		（物品）献上木簡
		請求状		
		召喚状/召文木簡	소견목간（召見木簡）/ 소견문서목간（召見文書木簡）	召見文書簡
		郡符木簡		
	記録関係	伝票木簡	전표목간（傳票木簡）	單據簡
		帳簿木簡	장부목간（帳簿木簡）	簿籍簡
		兵衛警備/ 門号木簡	문호목간（門號木簡）	
		出挙木簡	대식목간（貸食木簡）	貸食簡/貸與簡/返納簡
	内容・用途別	考課木簡		
		告知札		告示牌 ＜扁書、槧＞
		画指木簡		
		禁制/制札		禁令牌
		題籤軸	제첨축（題籤軸）/ 권축용목간（巻軸用木簡）	
		棒軸	목첨축（木籤軸）/ 봉축（棒軸）	
		封緘木簡	봉함목간（封緘木簡）	＜檢/書檢＞
		過所木簡		過所/通行證 ＜棨/傳＞
		門籍木簡	부신용목간（符信用木簡）	＜符/名籍＞
		門牓木簡		＜符＞
		牓示木簡		牓示牌
		物忌札・蘇民将来札		
		呪符木簡	주술・의례용목간（呪術・儀礼用木簡）/主술목간（呪術木簡）	數術簡/術數簡/符咒牌/ 符咒木簡
付札	付札		꼬리표（附札）	簽牌/標簽簡 ＜楬/実物檢＞
		付札/物品付札	물품꼬리표（物品附札）/ 꼬리표（附札）/	附札/物品簽牌 ＜楬＞
		キーホルダー木簡	열쇠고리목간/ 열쇠 부찰（附札）	鑰匙牌
		荷札/貢進物付札	세금공진용（税金貢進用） 꼬리표/하찰（荷札）	貨札/貨簽/貢品附札/ 貢品簽牌 ＜実物檢＞
その他		習書・落書	습서목간（習書木簡）/ 습서용목간（習書用木簡）	習書簡
		歌木簡	和歌木簡	和歌木簡

＊＜ ＞を付けたのは簡牘学における専門用語を表す。空欄になっている箇所は対応関係のある木簡がまだ発見されていないか、対訳に同じ漢字表記をそのまま使えるものである。なお、太い線で囲ったものは、その分類範疇の総称である。

文化財を「翻訳」する（三）：練習問題と参考資料

吳 修喆†
† 奈良文化財研究所

キーワード：翻訳、校閲

Tips on Translating Cultural Heritage Information 3: Exercise & Reference Materials

Wu Xiuzhe†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

Keywords: translation, proofreading

奈良文化財研究所は、文化庁が 2016 年にオープンしたキトラ古墳壁画保存管理施設の管理運営や壁画公開事業などに協力しています。その中で、年 4 回開催される壁画公開に合わせて、4 言語で配布されるパンフレットを作成しています。パンフレットの日本語版以外の校閲を多言語化チームが担当しています。

前回は、飛鳥資料館第二展示室 パネルテキスト訳文のブラシュアップ作業を、チェックポイントに照らし合わせて説明しました。今回は、キトラ古墳壁画公開パンフレットのために第三者が作成した簡体字訳文の一部を練習問題として出題します。チェックポイントを復習しながら実践してみましょう。

基本的なチェックポイント
- □ 情報に間違いはないか
- □ 施設名など既存の正式な訳語に統一されているか
- □ ネイティブから見て読みやすく自然な言い回しになっているか（ネイティブチェック）
  - □ 現代中国語に使わなくなった単語や見慣れない表現はないか
  - □ 口語的な表現や俗っぽい表現はないか
  - □ 主語の省略などのため、意味が不明瞭な点はないか
- □ 原文の情報以外に中国人向けに補足的な説明は必要か

練習問題

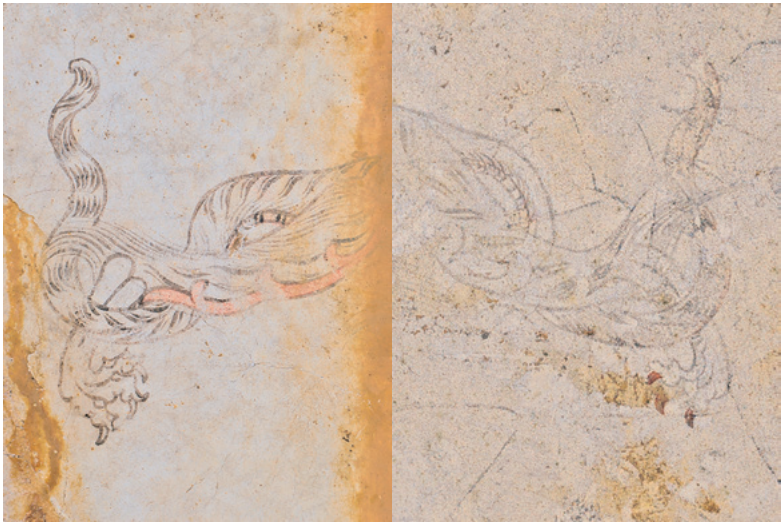
外注訳文を日本語の原文と対照しながら、校閲してみてください。

原文

比較してみましょう
キトラ古墳壁画と高松塚古墳壁画の白虎

とてもよく似たそれぞれの白虎は、同じような手本をもとに描かれたと考えられています。

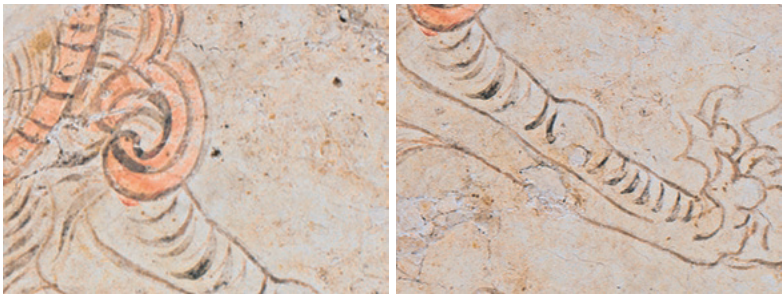
後脚に絡まって真上に跳ね上がる尾の表現は、当時の中国で最新のものでした。700年頃までは、中国・朝鮮半島では尾を後ろにまっすぐ伸ばす図像が多く使われていました。



左：キトラ古墳 白虎（尾部）　右：高松塚古墳 白虎 模写（尾部）

高松塚古墳の白虎は線の濃淡があまり見られず、脚の表現なども自然で、丁寧に描かれているのが特徴です。それに対して、キトラ古墳の白虎は線に濃淡や強弱のある力強い姿が特徴です。また、高松塚古墳の白虎の爪は赤く塗られていますが、キトラ古墳では赤く塗られていないという違いもあります。左側の写真で探してみましょう。

さらに、高松塚古墳では見られない刻線がキトラ古墳壁画の白虎の前脚にはっきりと見られます。この刻線は下絵を漆喰に転写するときについた痕跡と考えられます。



キトラ古墳 白虎の拡大写真
（左：脚の付け根部分／右：前脚部分）

外注訳文

试比较
Kitora 古坟壁画和高松冢古坟壁画的白虎

两座古坟各自的白虎非常相似，被认为是参考同样范本绘制的。绕在后脚处朝上翘起的尾巴，是当时中国最时新的画法。在 700 年前，中国和朝鲜半岛多采用尾巴朝后伸直展开的图像。

左：Kitora古坟 白虎（尾部） 右：高松冢古坟 白虎 临摹（尾部）

高松冢古坟的白虎几乎看不到线条的浓淡变化，脚部的画法等也很自然，其特点是描绘得极其细致。对比而言，Kitora 古坟的白虎的特征是线条浓淡及强弱变化、姿态富有力量。除此以外的不同之处是高松冢古坟的白虎的虎爪涂成了红色，但Kitora 古坟没有涂红。请看左图。
此外，在 Kitora 古坟壁画的白虎前脚可以清楚看到高松冢古坟所没有的刻线。这个刻线应当是将底稿转印到灰泥上时留下的痕迹。

Kitora古坟 白虎的扩大图像
（左：脚跟部位/右：前脚部位）

ヒント：重大な誤訳が一箇所あります。また、日中同形異義語による誤訳があります。

翻訳・校閲の際に使えるサイト

答え合わせまでのインターバルとして、ここで、筆者が文化財多言語化業務でよく使うオンライン辞書やデータベースを紹介します。どれも無償で利用できるので、ぜひ使ってみてください。

1 術語在線（*https://www.termonline.cn/index*）

『術語在線』は、中国全国科学技術名詞審定委員会が運営するプラットフォームで、科学技術系用語（文化財関連でいえば、調査技術、保存科学、情報技術など）を翻訳する時に重宝するサイトです。日中対訳がまだない、または多種の訳し方が存在する場合は、まず原文の英訳を探し出し、英語経由で検索すると、公的に推奨される中国語訳にたどりつけます。

図1 『術語在線』の検索画面

2 楽詞網（*https://terms.naer.edu.tw/*）

『楽詞網』は、台湾で使われている学術用語のデータベースです。用語の検索だけでなく、データセットのダウンロードもできます。雙語詞彙（英語とその対訳）や両岸対照名詞（台湾と中国大陸で使われている用語の比較）などを調べることができます。

図2 『楽詞網』のダウンロードページ

3 異体字三銃士

文化財の名称や解説などには、しばしば漢字の異体字が見られますが、多言語化する際は、異体字を目標言語における常用・正規漢字にする必要があります。

3.1 字海/叶典（*http://yedict.com/*）

『字海/叶典』は、中国大陸の有志者たちが運営する漢字情報サイトですが、おびただしい数の文字を網羅しているため、まさに「漢字の海」といえます。異体字を画数、構成、部首などで検索すると、簡体字の常用字が表示されます。

図3 『字海/叶典』の検索画面

3.2 教育部異体字字典（*https://dict.variants.moe.edu.tw/*）

『教育部異体字字典』は、台湾の教育研究院が運営するオンライン異体字字典です。字義や典拠など豊富な情報を提供していますので、非常に参考になります。異体字で検索すると、繁体字の正字が表示されます。

図4 『教育部異体字字典』の「単字検索」画面

3.3 書同文漢字網（*https://hanzi.unihan.com.cn/*）

『書同文漢字網』は、北京書同文数字化技術有限公司が運営するウェブサイトで、収録漢字はCJK統合漢字拡張Aの範囲内のものだけですが、手書き認識、簡繁漢字変換、年号紀年変換、中日韓漢字字形比較など様々な便利ツールを無償で利用できます。

図5 『書同文漢字網』のホームページ

練習問題の答え合わせ

凡例
紫色　言い回し修正
青色　読みやすくするために追加した語句
赤色　誤訳修正
緑色　俗っぽい表現の修正
下線　語順の調整

外注訳文

试比较
Kitora 古坟壁画和高松冢古坟壁画的白虎

两座古坟各自的白虎非常相似，被认为是参考同样范本绘制的。绕在后脚处朝上翘起的尾巴，是当时中国最时新的画法。在 700 年前，中国和朝鲜半岛多采用尾巴朝后伸直展开的图像。

左：Kitora 古坟 白虎（尾部）　右：高松冢古坟 白虎 临摹（尾部）

高松冢古坟的白虎几乎看不到线条的浓淡变化，脚部的画法等也很自然，其特点是描绘得极其细致。对比而言，Kitora 古坟的白虎的特征是线条浓淡及强弱变化、姿态富有力量。除此以外的不同之处是高松冢古坟的白虎的虎爪涂成了红色，但 Kitora 古坟没有涂红。请看左图。
此外，在 Kitora 古坟壁画的白虎前脚可以清楚看到高松冢古坟所没有的刻线。这个刻线应当是将底稿转印到灰泥上时留下的痕迹。

Kitora 古坟 白虎的扩大图像
（左：脚跟部位/右：前脚部位）

修正案

让我们比较一下

Kitora 古坟壁画和高松冢古坟壁画中的白虎

这两座古坟的白虎非常相似，一般被认为是参考类似范本绘制的。虎尾缠绕后肢并向上翘起的画法，在当时的中国也是最新的。直到公元700年左右为止，在中国及朝鲜半岛的白虎图像中，虎尾多呈向后伸直状。

Kitora 古坟 白虎（尾部） 高松冢古坟 白虎 临摹（尾部）

高松冢古坟白虎图的特色是描绘得十分细致，几乎看不到线条的浓淡变化，腿部的画法等也很自然。相较之下，Kitora 古坟的白虎线条富有浓淡及强弱变化，风骨遒劲有力。除此以外，高松冢古坟白虎的虎爪涂有红色，Kitora 古坟的白虎则无。请参照左图。

此外，Kitora 古坟壁画白虎图的前肢部分有清晰可见的刻线，这也是高松冢古坟白虎图所没有的。该刻线可能是将底稿转印到灰泥上时留下的痕迹。

Kitora 古坟 白虎 局部放大
（左：前肢与躯干连接处/右：前肢）

誤訳に関する説明

・原文は「700 年頃までは」ですが、外注訳文の「在 700 年前」は、日本語での意味が「700年前」となっています。初歩的なミスと言わざるを得ません。

・「脚」は日中同形異義語です。『新聞用語集』（日本新聞協会、2007 年）によると脚は「主として太ももから下の部分、動物の脚部、物を支える部分」と説明されています。修正案では文脈に沿って「前肢」「后肢」「腿部」と訳しました。一方、中国語における「脚（jiǎo）」は主に足首から先の部分、日本語では一般用語の「足」に該当します。確かに日本語の記事でも時として「脚」と「足」の線引きが曖昧ですので、このような場合は、画像を見て事実確認をしたほうがいいでしょう。パンフレットの翻訳を依頼するときは、テキストだけでなく、レイアウト見本の PDF も同時に送付するのが一般的ですが、翻訳者も不明な点があれば、ぜひ依頼先に現物の画像など参考資料を取り寄せてください。

「文化財」から「国家遺産」へ：韓国における文化遺産体制の変化

扈 素妍†
†奈良文化財研究所

キーワード：国家政策、考古学

From “Cultural Properties” to “National Heritage:” On the Ongoing Transformation of Korea’s Cultural Heritage System

Ho Soyeon†
†Nara National Research Institute for Cultural Properties

Keywords: national policies, archaeology

はじめに

2022年の4月11日、韓国の様々新聞は一斉に「文化財」という法律用語が変更される予定であるという記事を報道した[1]。その内容は、1962年、韓国の「文化財保護法」が成立して以来、60年間使用されてきた法律用語の「文化財」が、「国家遺産」へ変更される予定であるということであった。このような変更の流れは、文化財委員会と無形文化財委員会が合同文化委員長団会議を通じて文化財名称及び分類体系の全面的な改善案を確定・発表し、文化財庁へ伝え、文化財庁がこれを受け入れて国家遺産基本法の制定などの関連法令を整備する手順で行われたと記事化された。

記事の内容を総合すると、文化財庁と文化財委員会が2005年から「文化財名称及び分類体系」の改善のため、数次にわたって研究・議論を繰り広げ、2022年の1月に試案を作成し、各界の意見を集めながら、公論化を進めてきた。さらに、大

[1] 「‘문화재’ 공식명칭 안쓴다… ‘유산’ 으로 대체」『ハンギョレ』2022年4月11日付。「‘문화재’ 명칭을 ‘유산’ 으로…60년 만에 바꾼다」『京郷新聞』日付前同。「'문화재' 대신 '국가유산' 도입 ... 60년 만 개편」『韓国日報』日付前同。4月11日付の新聞紙上、この変更について報道している記事は46件確認できる（"문화재""국가유산"というキーワードでNAVERで検索した結果のみ）。その翌日にも関連記事は続いた。

体の記事にはこの変更に際して、専門家のみならず国民全般の了解を得ていたことを示すため、2022年3月に行った世論調査の結果を提示している。世論調査では、国民の76.5％、専門家の91.8％が「変更が必要である」と答え、「遺産」の採用賛成は国民が90.3％、専門家は95.8％であったという。しかし、通称「国家遺産」という用語への賛成意見の比率は、国民の87.2％に対して、専門家は52.5％にとどまった。

これを見ると変更自体はほぼ16年間、韓国の文化財関連機構の間で議論及び研究されてきたものであり、国民や専門家も概ね賛成している案件である。そのため、変更は確定してこれからは法律を制定する段階に取り組んでいくのであろう。それは、今後の韓国の「文化財」、いや、「国家遺産」の用語翻訳も変化を余儀なくされることを意味する。今回の変更は、単に「文化財」という言葉を「国家遺産」と変更することを意味するだけでなく、これまでの文化財の意味や、範疇、分類にも変化がもたらされ、「文化財」自体に対する認識変化が求められることを意味する。今まで韓国の「文化財」保護法は日本の「文化財保護法」を援用し、用語の意味や範疇、分類まで日本と近似したため、ほぼ一対一で翻訳することができた。しかし、今回の変更が法令として制定されると、韓国の「国家遺産」を日本語に翻訳する際、用語選定において認識のズレが発生する。そのズレを埋めて新しい用語を選定することはまだ先の話であろう。今回は、このズレを理解するため、まずは韓国の歴史における文化財保護法の変化の様子を辿り、そして、これからの変更内容を簡略に紹介したい。

韓国史における文化財保護法

周知の通り、韓国で文化遺産・文化財に対する法的な保護の始まりは、植民地期であった。特に1910年4月、統監府期に制定された「郷校財産管理規程」からだという[2]。「文化財の管理を目的とした韓国最初の近代的法令」[3] といえるこの法令は、高麗から朝鮮王朝期までの地方に設置された文廟と、それに附属する官

[2] 実際の始まりについては、様々な議論があって、法令に保護に関する具体的な内容が含まれていることから1911年の「寺刹令」からとみる見解、一方、同じ考えでより直接的に建物・遺物の保護を指定した「古跡及び遺物保存規則」をその始まりとみる研究もある。しかし、「文化的価値を帯びた財貨に対する国家的管理と統制が本格化」した時点を考慮すると、「寺刹令」と「郷校財産管理規程」を共にその始発点とみるべきであるという見解に同意し、本稿では同法をその始まりとして提示した。이현경・손오달・이나연「문화재에서 문화유산으로: 한국의 문화재 개념 및 역할에 대한 역사적 고찰 및 비판」『문화정책논총』33-3（2019）9頁。

[3] 呉世卓「日帝の植民地朝鮮に対する文化財政策」『茨城大学政経学会雑誌』78（2008）11頁。

立学校の性格を持つ郷校の財産を勝手に処分できないものにした。さらに、財産管理のため原簿を作成することを命じたものであった[4]。

同年8月に合併が行われ、統監府が総督府になった後、「朝鮮総督府警務総監府事務分掌規程」によって遺失物・漂流物・埋蔵物が警察の所轄になり、文化遺跡の発掘と埋蔵物の処理も警察の事務となった。翌年6月3日には制令第七条「寺刹令」が発布され、寺刹の併合・移転・廃止の際、また、「寺刹ニ属スル土地、森林、建物、石物、古文書、古書画其ノ他ノ貴重品」を処分する際には総督の許可が必要となった[5]。さらにその翌月に発布された朝鮮総督府令第84号の「寺刹令施行規則」では、全国の重要寺院の住職は総督の許可なしでは就任できないこと、その上、上記の貴重品に「梵鍾、経巻、仏器、仏具」まで含めて寺院の財産目録書を作成し、総督に提出することが住職に命じられた[6]。

以上のような「郷校」と「寺刹」の財産の管理は、朝鮮では伝統的に地域社会で支配力を保持していた儒学者と仏教勢力を統制することによって、彼らの支配力を確保しようとした意図があったという[7]。また、これらの法令によって作成された「郷校」と「寺刹」の財産目録は、総督府が韓半島の遺物を略奪しやすくする役割を果たした[8]。

5年後には、文化財保護に関する日本本土の制度が植民地朝鮮に移植されるが、それが朝鮮総督府令第52号の「古蹟及遺物保存規則」である。この法は、1902年、すでに統監府期から始まった韓半島における遺跡と古建築調査、民俗調査をその基盤として[9]、1919年には朝鮮総督府博物館の創設に伴って陳列品の蒐集と、そのため盛んになっていた盗掘や出土品の違法売買の状況下で発布された[10]。この法令によって、「古蹟」と「遺物」の範疇が定められ、それらを発見した人は「変更ヲ加フルコトナク三日以内ニ口頭又ハ書文ヲ以テ其ノ地ノ警察署長」[11]に届出をするように規定された。こうして「古蹟」と「遺物」に対する統制に取り組んだ総督府は、ここから全国の発掘現場を直接統制し、出土した遺物

[4] 呉は、この法令に韓国の儒林、すなわち、儒学者たちの財産を圧迫し、その勢力への弾圧と郷校の影響下にあった民族文化の抹殺という目的もあったと評価した。同前、11頁。

[5] 『朝鮮総督府官報』227、1911年6月3日付、22～23頁。

[6] 第二条と第七条による。『朝鮮総督府官報』257、1911年7月8日付、59頁。

[7] 이현경・손오달・이나연前掲論文、9頁。

[8] 同前。

[9] 同前、10頁。

[10] 呉前掲論文、12頁。

[11] 『朝鮮総督府官報』1175、1916年7月4日付、33頁。

は朝鮮総督府博物館に収蔵及び展示された[12]。

3.1運動後の1933年、いわゆる文化統治期に、それまでの日本本土の文化財保護法の発展に応じて、「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」が制定される[13]。この法令で、日本本土の「国宝」に値する朝鮮の遺物を「宝物」と指定することが決められ、それまでは「古蹟」と「遺物」といった、主に古建築と遺物に限定されていた文化財の範疇が、「宝物」「古蹟」「名勝」「天然記念物」といったカテゴリへ拡張された[14]。さらに、「歴史ノ証徴又ハ美術ノ模範」とすべきものを「宝物」に、「学術研究ノ史料」とすべきものを「古蹟」「名勝」「天然記念物」と指定する[15]と明記され、文化財選定の基準が提示された。一方、文化財を財産として統制しようとする総督府の意図が鮮やかに現れる部分もいくつか見られる。たとえば、第四条で「宝物ハ之ヲ輸出又ハ移出スルコトヲ得ズ但シ朝鮮総督ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限りニ在ラズ」の部分や、第九条で宝物の所有者に「李王家、官立又ハ公立ノ博物館又ハ美術館ニ其ノ宝物ヲ出陳スル義務アルモノトス」と規定した部分がそれである。これによって、総督府は文化遺産保護をより徹底的にでき、文化遺産に対する統制を強化したと評価されている[16]。

このように、総督府の文化財保護制度は、韓半島における最初の「近代的文化財管理体系」であったが、その目的は未来に残すべき「遺産」の管理ではなく、植民地における効率的で強制的な「財産」の管理であった[17]。

開放後、韓半島は政治イデオロギーによって南北で分断し、その中で国家・国民としてのアイデンティティーを確立することが、政治における重要案件として浮上した。そのため、当時李承晩政権は、「民族文化」を中心とした近代国家建設の歯車の一つとして、国家儀礼の創設に踏み出した。文化財保護及び活用の動きもまた、このような営みの中で進められた。たとえば、韓国戦時には新聞などのメディアを通じて文化財の保護は国民の道徳的義務であるという言説を構築し、文化財を保護することが「国家の精神を保護」、文化財を救うことは「民族」を救

[12] そのためこの法令を、総督府が同化政策と略奪を直接的で主導的な方式で統制するために法的体制を樹立した過程として評価する研究が多い。
이현경・손오달・이나연前掲論文、10頁。

[13] 日本本土の「史蹟名勝天然記念物保存法（1919）」「国宝保存法（1929）」「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律（1933）」の内容を導入した。前同、11頁。

[14] 第一条による。『朝鮮総督府官報』号外、1933年8月9日付、1頁。

[15] 第一条による。前同。

[16] 이현경・손오달・이나연前掲論文、11頁。

[17] 前同、11～12頁。

うことと等しいと訴えた[18]。また、1952年には「国宝古蹟名勝天然記念物臨時保存委員会」を設置し、戦争中破壊された文化財の補修に取り組んだ。この他にも、文教部は文化財の海外展示を企画し、アメリカのワシントンなどで実施した。しかし、以上の努力は、国内の貧困問題や政治的な混乱の中、期待のように功を奏することはなかった[19]。

韓国で本格的に文化財保護法が制定されたのは、朴正熙独裁期であった。まず1960年11月10日、国務令第92号で公表された「文化財保存委員会規定」で、最初に「文化財」という言葉が法定用語として登場した。2年後の1月10日、法律第961号「文化財保護法」が制定され、「文化財」という用語が韓国の文化遺産を指す言葉として一般化され、その分類体系が「有形文化財」「無形文化財」「記念物」「民俗資料」と設定された[20]。1962年の「文化財保護法」での文化財とは次のように定義されていた。

本法において文化財とは、次に掲げるものをいう。

1. 建造物、典籍、古文書、絵画、彫刻、工芸品その他の類型の文化的所産で、韓国の歴史上又は芸術上の価値が大きいものとこれに準ずる考古資料（以下有形文化財という）
2. 演劇、音楽、舞踊、工芸技術その他の無形の文化的所産として韓国の歴史上又は芸術上の価値が大きいもの（以下無形文化財という）
3. 貝塚、古墳、城址、宮趾、窯址、遺物包含層、その他の史跡、景勝地、動物、植物、鉱物として韓国の歴史上、芸術上、学術上又は観賞上の価値が大きいもの（以下記念物という）
4. 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣及びこれに使用される衣服、器具、家屋、その他の物として国民生活の推移を理解する上で不可欠なもの（以下民俗資料という）

この「文化財保護法」は前述したように、日本で1950年に制定された「文化財保護法」を援用したもので、その内容には植民地期の「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」も含まれていた。

[18] 정수진「근대 국민국가와 문화재의 창출」『한국민속학』46（2007）358～359頁。

[19] 이현경・손오달・이나연前掲論文、13頁。

[20] 이은하「문화재 명칭 및 분류체계 개선에 따른 기대효과」『문화재 명칭 및 분류체계 개선 정책 토론회』（文化財庁、2022）19頁。

一方、朴正熙政権は民族文化を国の近代化と経済発展を成し遂げる基盤としてみなし、文化財保護政策を政権の正当性と維持を裏付けるものとして積極的に推し進めた[21]。しかし、そもそも保護の目標が国家アイデンティティーの確保とそれによる国民精神の強化、究極的には国家発展、その中でも経済発展であったという限界があった。また、植民地期の「朝鮮宝物古蹟名勝天然記念物保存令」を継承する部分から、国家主導で行われ、国民は保護の主体から外されていた[22]。

1980年代には、アジアン競技大会とソウルオリンピックの開催と相まって、文化財を通じて国際社会に韓国を宣伝する多様な試みがあった。そのため、1985年には、朝鮮王宮と宗廟を国宝と宝物と指定して、文化財補修整備及びその周辺のランドスケープを整える事業を積極的に推進し、韓国、特にソウルを訪れる外国人観光客と世界中のメディアに伝えようとした[23]。また、1988年にはユネスコ世界文化遺産及び自然遺産保護に関する協約である世界遺産協約に加入した[24]。

1990年代にも、このようなグロバール化の中で韓国文化のアイデンティティーを確立しようとする文化財政策は引き続き推進され、強化していく。1991年には「ソウル定都600年事業」を企画し、朝鮮王宮を中心とした遺跡復原事業や歴史再現行事などを行った[25]。そして、1995年には旧朝鮮総督府の建物を撤去した[26]。1999年には「文化財保護法」の改正があった。そこで、「文化財」の定義に変化があるが、1962年のそれで「本法において文化財とは、次に掲げるものをいう」となっていた部分が「この法で『文化財』とは人為的・自然的に形成された国家的・民族的・世界的遺産として歴史的・芸術的・学術的・景観的価値が大きい次のものをいう」へ変更された。また、各文化財の分類体系もより具体化し、有形文化財には「書籍」が、記念物に「洞窟・地質・生物学的生成物及び特別な自然

[21] 1968年には文化財補修5ヶ年計画が推進、70年代には60年代に比べて文化財管理局の機構が拡大・改編され、その予算規模も10倍以上増加し、現在も韓国の古都として認識される慶州古都開発事業・漢陽都城復原事業などを行った。이현경・손오달・이나연前掲論文、14～15頁。

[22] 前同、16頁。

[23] 文化財庁「文化財庁50年史」（文化財庁、2011）315頁。

[24] 강경환、김정동「유네스코 세계유산 제도의 우라나라 문화재 정책에의 수용과 발전방안에 대한 시론적 연구」『문화재（MUN HWA JAE - Annual Review in Cultural Heritage Studies）』43（국립문화재연구소、2010）59頁。

[25] 권혁희「1990년대 서울시의 전통 문화정책과 민속재현 죽체에 관한 분석-각 구별 전개과정과 무형문화재 지정 양상을 중심으로」『인문콘텐츠』37（2015）161-162頁。이현경, 손오달, 이나연前掲論文、18頁より再引用。慶（マ）福（マ）宮 復元 건물 배치도 규모 성격 확인」『연합뉴스』1990年11月28日付、「景福宮이 원형대로 복원 된다」『연합뉴스』1991年4月24日付。

[26]「옛 총독부 첨탑철거 개시」『연합뉴스』1995年8月7日付。

現象」が追加された[27]。その上、文化財を指定する主体が拡大され、1962年の法令には国家が設置した「文化財委員会」であったが、1999年度の改正では「国家」「特別市長・広域市長または道知事（以下“市・道知事”とする）」が加わった[28]。このような変化の理由としては、まず1995年に仏国寺・石窟庵などの世界遺産に指定されたことで、ソウルのみならず地方の文化遺産活用政策が推進されたことがあげられる。また、世界遺産指定によって国家的プライドを鼓吹し、韓国を「文化大国」として成長させようとした熱望が反映され、1997年に「文化遺産憲章」を制定した[29] ことにも関連があると考えられる。

2000年代にも以上のような文化財という概念の外延は拡張し続き、その管理対象・範疇・方式・主体の多様化が進んだ。まず、2010年の「文化財保護法」改正では、管理対象の拡大を確認できる。この改正によって、「無形文化財」へ「遊び・儀式」が、「記念物」へ「特別に記念できる施設物」が、また、「地形」も追加された。さらに、それまで「民俗資料」であったカテゴリが「民俗文化財」へ改められた[30]。2016年には「文化財保護法」改正で、無形文化財の定義が、「数世代にわたって伝承されてきた無形の文化遺産」と変化したことによって[31]、その範疇が拡大された。また、同年施行された「無形文化財保全及び振興に関する法律」から、無形文化財に関する保護及び活用を促す姿勢を確認できる。この他にも文化財庁の「文化財保存管理及び活用に対する基本計画」「文化財保存・管理・活用基本計画2017-2021」などの文化財保存のみならず文化福祉や産業化・地域再生までを視野にいれた文化財保存・活用計画[32] や、「文化財基金法（1999）」「古都保存法（2004）」「文化遺産信託法（2006）」「文化財修理法埋蔵文化法（2010）」「新羅王京法（2019）「世界遺産法（2020）」「歴史文化圏法（2020）」などの法律制定と施行で、文化財の管理主体および方式が拡大されてきた[33]。

以上のような文化財庁の計画や法律の制定は、文化財に対する社会の認識が普

[27] 法律第5982号「文化財保護法」（施行1999.7.1）（https://www.law.go.kr/LSW/lsInfoP.do?lsiSeq=58886、2022.11.15閲覧）

[28] 同上。

[29] 이현경・손오달・이나연前掲論文、18頁。

[30] 法律第10000号「文化財保護法」（施行2010.2.4）（https://www.law.go.kr/LSW/lsInfoP.do?lsiSeq=102447、2022.11.16閲覧）。この法案は、法文の全部改正とされていて、その文面において、漢字語をハングル化しているなど、法案全体に変化があった。

[31] 法律第13249号「文化財保護法」（施行2016.3.28）（2015.3.27一部改正）（https://www.law.go.kr/LSW/lsInfoP.do?lsiSeq=169514、2022.11.16閲覧）。

[32] 이현경・손오달・이나연前掲論文、20頁。

[33] 이은하前掲資料、20頁。

遍化・多様化・一般化していくなかで、国家が民間の文化財管理への直接参与を誘導するために企てられた。そして、このような状況は国家が文化財の価値を一方的に与える方針から、多様な社会主体の協力の中で「文化遺産」が生成されるように変化したことをうかがわせる[34]。

現行文化財政策と「国家遺産」政策案

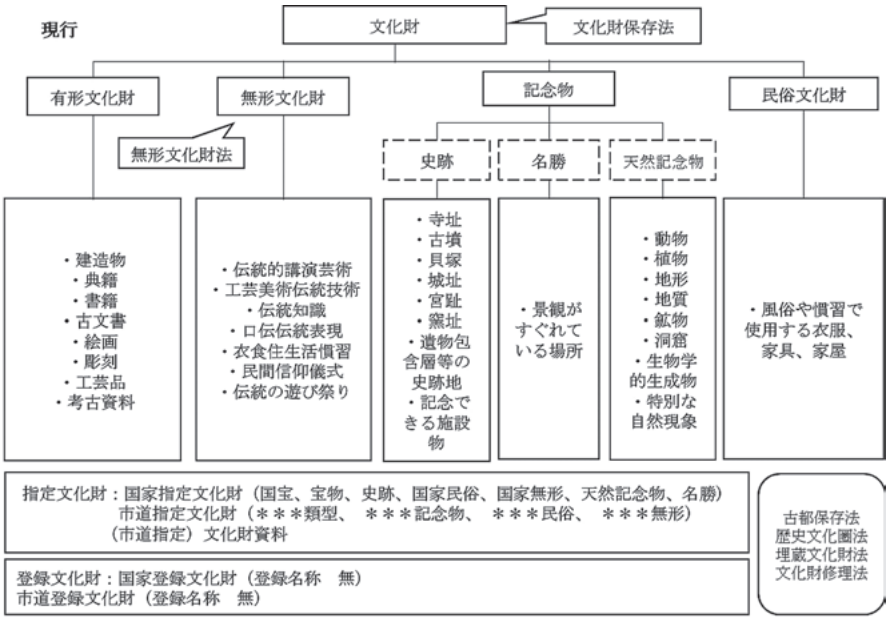


図1　황권순「文化財名称及び分類体系改善方向」（5頁）の現行文化財分類体系

[34] 이현경・손오달・이나연前掲論文、21頁。

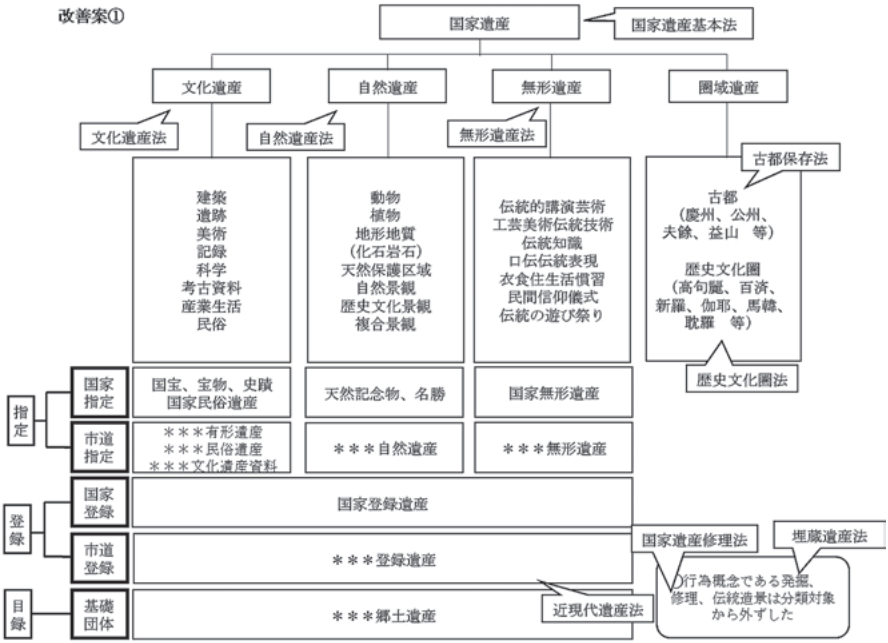


図2　황권순「文化財名称及び分類体系改善方向」(6p) の国家遺産分類体系の改善案①

図1と2は2022年の3月31日、文化財庁と韓国文化財政策研究院で開催した「“文化財名称及び分類体系、未来志向的改善”文化財名称及び分類体系改善政策討論会」の資料を筆者が日本語に翻訳したものである。この資料は、文化財庁政策総括課の황권순課長が、文化財庁を代表して「文化財名称及び分類体系改善方向」という題目で発表したものである。発表では、名勝や分類体系の改善を推進した理由として次の4つがあげられている。①、現行の「文化財」という用語は日本の「文化財保護法」を援用した結果であるということ、②、「財」という字を使うことによって過去遺物に財貨的な性格を持たせて財産として認識させること、③、自然や人に対して「文化財」と名付けることは不適切な表現であること、そして、④、今の体系では「文化遺産」の用語を混用している上、ユネスコの分類体系である「世界遺産（文化遺産、自然遺産、複合遺産)、無形遺産、記録遺産」の体系を相違し、一貫的な基準が必要であるということである[35]。

[35] 황권순「文化財名称及び分類体系改善方向」『“文化財名称及び分類体系、未来志向的改善” 文化財名称及び分類体系改善政策討論会』(2022) 4頁。

変更の推進は、2005年から文化財庁や国立文化財研究所で論議されてきたものであり、2022年に入っては地方自治体の公務員を対象として会議を開催した。それから、文化財委員会から意見収斂、文化財分野専門言論人を対象とした諮問会議、文化財委員会などの専門家と国民を対象にアンケートを行うなど、積極的に挑んできた[36]。

その方針は、「財貨概念の『文化財』から脱却し、歴史・精神までを含む『遺産』概念」へ変更することである。ここでより詳しい内容の変化を確認するため、図1と2を比較する。まず、各用語の変更として、「文化財」→「国家遺産」、「有形文化財」→「文化遺産」、「記念物」→「自然遺産」、「無形文化財」→「無形遺産」へ変化したことが窺える。さらに、「民俗文化財」は「文化遺産」に属することになり、その代わりに「圏域遺産」という定義が設けられた。以上の用語変更は、前述したユネスコの分類体系に類似していて、これから世界文化遺産への登録拡大を図っていることが読み取れる[37]。

しかし、ユネスコの国際規範にはあらゆる遺産を総称する用語が定まれていない上、動産遺産と不動産遺産、無形遺産を別途の協約によって規律する体系になっているため、そのまま韓国の分類体系に適用することはできない[38]。そのため、改善案では韓国の「文化遺産」の総称として「国家遺産」を設定した。この時、「国家」は「国立」や「中央政府」を意味するのではなく、「一国家全体という意味で、我がギョレ〔民族〕が作り上げた遺産を通称する概念」という意味を帯びる用語として使用するという[39]。また、「圏域遺産」といったカテゴリを新しく設置する理由は、地域別・圏域別の歴史空間を活性化して地域の均衡的発展にも役立たせるという思惑によるものである[40]。そこには2000年に慶州が「慶州歴史遺跡地区（Gyeongju Historic Areas）」として、2015年には広州市・夫餘郡・益山市などの地域が「百済歴史遺跡地区」としてユネスコ世界文化遺産と登録されたことが影響されていると考えられる。

---

[36] 同上。

[37] 이은하前掲資料、28頁。

[38] 同上、26頁。

[39] 「‘문화재’ 대신 ‘국가유산’ 도입 … 60년 만 개편」『韓国日報』2022年4月11日付。この記事を見ると、황권순は11日のソウルの国立古宮博物館での文化財名称改善案の記者会見で「国家」という言葉に使用についてこのように答えた。また、資料（황권순前掲資料、12頁）の中では英国の「The National Heritage Act（国家遺産法）」「The National Heritage Memorial Fund（国家遺産記念基金）」などの例と、国家で政策を担当する行政機構や国家事業関連名称に「国家」という言葉を使用している例を挙げて「文化財」に変えて「国家遺産」という用語を使うことに正当性を与えた。

[40] 同上、28頁。

ところが、この資料からみると、改善案には③まであるが、「国家遺産」「文化遺産」「自然遺産」「無形遺産」の言葉は共通していて、②では「国家遺産」の下を「文化遺産」「自然遺産」「複合遺産」と分類し、「文化遺産」の下に「有形遺産」と「無形遺産」を置いて、「古都」「歴史文化圏」は「有形遺産」に属しているなどの差異点がある。③は、分類体系は②とほぼ一緒であるが、「有形遺産」の下部が①の「文化遺産」と同一であり、「古都」「歴史文化圏」は明記されていない。ここで改善案①を翻訳して掲載する理由は、専門家対象のアンケート調査結果をみると、42.8％で最も適合する案として選ばれたためである[41]。しかし、この討論会後、4月11日に行われた記者会見と同時に行われた「未来志向的国家遺産保護と価値増進」を促す決意案の提出を報道した記事を見た限り、実際に決意案に載ったものは、「文化遺産」「自然遺産」「無形遺産」の三つの分類からなる体系である[42]。他方、①～③までの改善案では、現行の指定・登録遺産に加えて「目録遺産」というカテゴリーが新設されている。その趣旨は、今まで管理の死角にあった郷土遺産などの非指定文化財を目録にしてモニタリングし、保護することであった[43]。そして、これらの改善の基盤になる「国家遺産基本法（仮）」は2022年の下旬にその制定案を備えていく予定となっている[44]。

この討論会と記者会見後、「国家遺産体制」を導入する動きが活発になり、8月11日には国会議員たちと、韓国文化財政策研究員政策チーム長・文化財委員会委員長及び副委員長などの専門家を含めた政策の担い手たちが、「国家遺産基本法」などの立法を念頭において討論会「日本式文化財体制60年、国家遺産体制へのパラダイム転換」を開催する。ここで、仁荷大学校社会教育科教授の정상우が「国家遺産体制導入に伴う基本法制定及び法体系整備」を、韓国文化財政策研究院の政策研究チーム長조일형が「国会遺産体制導入に伴う政策効果分析」を発表した。

정상우の発表内容は、3月の討論会で発表した황권순と이은하のそれと類似したもので、日本と韓国の文化財保護法の類似性、ユネスコ分類体系と現行韓国のそれとの差異があり、その整合性確保のために変更が不可欠であると主張するものである。また「文化財」という用語の限界についての指摘も、황권순とほぼ同様な内容である。ところが、この討論会は「国家遺産基本法」の立法を通じて「国

[41] 황권순前掲資料、11頁。

[42] 前掲『韓国日報』記事。「60년 써온 '문화재' 명칭 '국가유산' 으로 바뀐다」『中央日報』2022年4月12日付。「문화재서 국가유산으로…60년만에 명칭 바뀐다」『毎日経済』2022年4月12日付。等。

[43] 前掲『中央日報』記事。

[44] 황권순前掲資料、5頁。

家遺産体制」の導入を図るものであったため、3月の討論会ではほぼ触れていない基本法制定の必要性について詳しく述べている。

そこで、その必要性については「憲法的次元」「文化財保護法の限界」「沿革的次元」「体系正当性次元」「未来環境変化」「国民の受容性」に分けて説明している。まず「憲法的次元」としては、憲法第9条によって国家は伝統文化保護の責務があること、さらに、福祉・教育などの分野でも憲法に基づいて基本法が制定されたこと、その上、文化財保護政策のパラダイム転換をもたらし、東アジアの文化戦争に対する対応できることが期待できることを取り上げている。つぎに「文化財保護法の限界」では、保護法の頻繁な改正による体系の複雑性、文化財保護法が事実上は「指定文化財法」であるため保護範囲に限界があること、文化財保護原則が硬直化していること、文化財行政と乖離が生じていること、地方自治団体または民間の文化財保護に限界をもたらしていることを取り上げた。「沿革的次元」としては、文化財庁所管の法令が増加する一方で、多様な立法の受容が存在することが論じられた。そして「体系正当性次元」については、文化財行政との整合性を確保すること、下位遺産体系の根拠を固めて今後の個別分野を発展させようとする際に起こり得る総合性、脈絡性の欠如に対して備えられると述べた。また、「未来環境変化」ということは、基本法の制定によって、都市化及び地方消滅・高齢化・人口減少などの社会環境変化や文化財のブランド化などの経済環境の変化、またユネスコの各種協約などといった国際環境の変化に備えることができ、文化財保護原則の再成立が可能になるということである。「国民の受容性」の部分は3月に文化財庁で行ったアンケートを援用している[45]。

そして、基本法の制定方向について「保護原則」「分類体系」「指定登録体系拡大」「保護及び活用体系」に分けて説明している。「保護原則」をみると、現行では「原型維持」が原則であるが文化遺産憲章では「元通りの姿と元通りの価値」を保護の対象とすることになっていて、基本法でも「姿と価値」を保護することが原則であると述べている。また、「持続可能な保護」「地域アイデンティティ及び発展の基盤」などを原則とすると明記している[46]。

その後「分類体系」では、次の図を提示してその筋を明らかにしている。

[45] 정상우「国家遺産体制導入に伴う基本法制定及び法体系整備」『日本式文化財体制60年、国家遺産体制へのパラダイム転換』（韓国文化財政策研究院、2022）18～20頁。

[46] 同上、21頁。

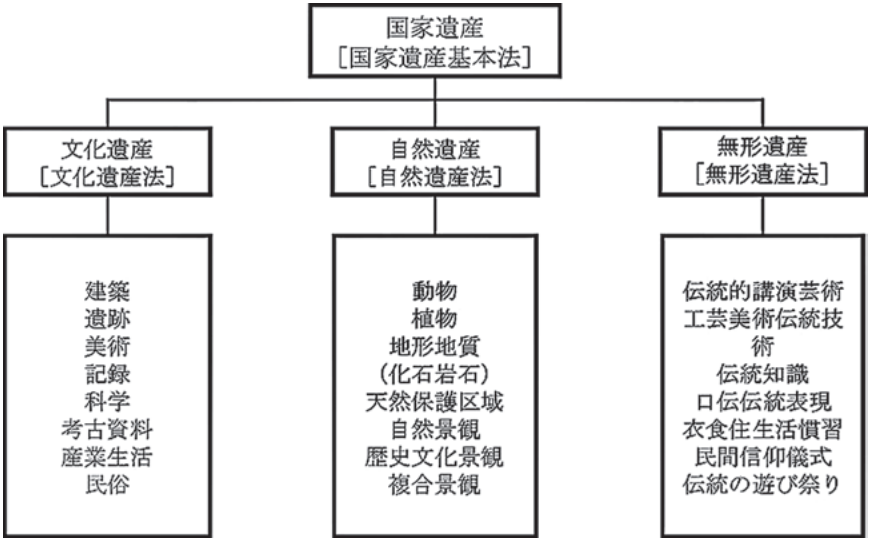


図3　정상우「国家遺産体制導入に伴う基本法制定及び法体系整備」（21ｐ）の国家遺産体制の分類体系

この図をみると、前掲の改善案①から「圏域遺産」が外されただけで、骨子は同様であることが読み取れる。次に、「指定登録体系拡大」では、現行の体制は指定文化財を重点的に保護することに対して、国家遺産体制では非指定文化財まで目録化して保護することが明らかになり、これもまた３月の討論会資料と同様である。

조일형の発表は、主にこの体制を導入することでえられる経済的・社会的効果についてのものである。結論としては、導入の結果を産業連関で分析すると「生産誘発効果」は4,151億ウォン、「付加価値誘発効果」は1,938億ウォン、「就業誘発効果」は2,702名という経済的効果を上げる[47]ことが予想され、文化享有の機会が拡大し、国民便宜が増進され、地域共生発展を促進し、国家の位相が高まり、国家アイデンティティの強化をもたらす社会的効果を期待できる[48]という内容である。

[47] 조일형「国会遺産体制導入に伴う政策効果分析」、前同、39頁。

[48] 前同、40～43頁。

むすびにかえて

2022 年 3 月の討論会資料によると、「未来の社会は文化の社会」で「大韓民国は世界級の文化強国」であり、以上の改善を通じて「国家の遺産を全国民が享有し、世界人が享有できる国際的文化資産を保存及び活用して、世界を先導する文化強国としての位相を固める」[49] ことを目標としている。もちろん、これは文化遺産の重要性を強調するためのレトリックでもあるであろう。しかし、これから近代及び現代遺産が増えていくことや、地域社会における文化遺産の活用などを考えると、今の段階で「文化財」の名称とその分類体系を捉え直し、変更に挑んでいることはむしろ遅れているようにも見えるのである。

9 月 26 日には、韓国の「国民の力」党の배현진議員が、国会で「国家遺産基本法」制定案をはじめとする 13 個の法律を発表した。この法案は「国家遺産基本法」を中心として「文化遺産」「自然遺産」「無形遺産」を規定する 3 つの類型別総括法を裁定・改正するもので、既存財貨の概念を遺産概念へ拡張しようと合わせ、8 個の連携法律の用語修正を求めるものである[50]。

このように、韓国で国家遺産体制への変化は運び出しつつある。まだ、法案の可決はなされておらず、この移行にどのくらいの時間がかかるかは分からないが、移行するということは決定された状態と言えるであろう。本稿は、このような状態で、これから韓国の文化遺産を翻訳・通訳にあたる人々、ひいては韓国の文化遺産関係業務に携わる人々に、韓国の文化遺産という認識やその分類体系が如何に構築されてきたのか、また、これからどう変化するのかを提示し、その理解に役立つことを目的として作成した。

[49] 이은하前掲資料、29 頁。

[50]「배현진, 문화재분류체계 개편 13개 법률 제·개정안 발의」『環境と造景』2022 年 9 月 26 日付。

The Impact of Cultural and Technological Shifts on English Texts Related to Cultural Heritage

Rebekah Harmon†
† WritingWise

Keywords: translation, technology, museums

英語圏の文化財の解説における技術的・文化的変化が及ぼす影響について

Rebekah Harmon†
† WritingWise

キーワード：翻訳、技術、博物館

Introduction

Museums and academics have published a wealth of resources concerning best practices for museum label writing in English. While this is useful on a practical level, language and culture are always changing, and the idea of what makes a good label has evolved as well. Despite this, very few publications describe how English-language usage and terminology in museum texts have changed over time. This article is a small step toward filling that gap with a particular emphasis on changes relevant to Japanese-to-English translation. In the interest of space, the scope of this article is limited to a few key shifts spurred by diversifying social discourses and the impact of new technologies. To better elucidate these shifts, the first part of this article presents a brief overview of how early museum labels developed.

1 Early Public Museums and Labels

In the eighteenth and nineteenth centuries, museum labels were mostly written for social elites (Shaffer, 2017). Visitors were expected to be knowledgeable about the objects, and descriptions were not lengthy. As a case in point, a catalogue from the Musée du Luxembourg in 1774 simply lists the name of the artist, the painting,

the dimensions, and the subject of the painting (McClellan, 1988).

The early twentieth century brought improved literacy rates and greater interest in educating the general public (Ingleby, 2020). In 1903, a conference was held in Mannheim, Germany, entitled "Museums as Places of Popular Culture." A published synopsis of the conference states its objective was "to discuss in what ways museums could bring themselves into touch with the working class" (p. 610). At the conference, a German curator recommends writing museum labels that resemble textbook entries. This seems to have been part of a larger trend, as by the mid-twentieth century, most museums in the US and Europe had adopted textbook-like labels authored by academics.

2 The Diversification of Social Discourses

These textbook-style labels came under criticism during the 1970s. While museums generally agreed that it was good to provide ample information, existing labels were filled with technical jargon, were difficult for visitors to understand, and were, in many cases, habitually ignored (Fragomeni, 2010). Shorter, more direct labels began to appear (Serrell, 1996), with demands for more conversational tones arising in the 1980s (McManus, 1989; Ravelli, 1996).

At the same time, feminist theory and postcolonial theory were gaining traction in academic circles, and scholars started to criticize museums for displaying texts that presented subjective or even controversial interpretations of history in an authoritative, fact-like manner (Vergo, 1989). Audiences began to demand that subjective statements be supported by evidence. This extended to value judgements on objects as well. If a curator said an object was "good" or a "masterpiece," they now needed to include statements supporting that judgement (Interdivisional Committee on Interpretation, 2010).

Changes arising from feminist theory included calls for neutral language in titles and descriptions of artworks, regardless of whether they depicted men or women. This included moving away from androcentric language that described women in terms of their relationships to men (e.g., "wife of") rather than a woman's name, or nouns that implied a male gaze (e.g., "portrait of a beauty") rather than neutral nouns (Clover et al., 2018; Machin, 2008).

Likewise, postcolonial critiques coupled with more recent changes in the international normative framework surrounding minorities and Indigenous peoples have also impacted cultural heritage institutions in manifold ways, including the terms they use (Coxall, 2000). For example, several European institutions

removed the word "ethnography" from their names and replaced it with "world cultures" or simply "cultures" from the 1990s to 2010s. One reason given for this change was to overcome the "traditional dualism of Self/Other assumed within the concept of ethnography" (Pagani, 2017).

In another example, the Minneapolis Institute of Art's policy on texts now includes the following clause:

> *When identifying objects, ideals, materials, and so on, we will. . . seek non-Eurocentric terms to replace such labels as "pre-Columbian" and "Oriental"* (Interdivisional Committee on Interpretation, 2010, p. 8).

And in the Netherlands, the Tropenmuseum recently published a guide on English terminology that recommends avoiding region-specific terms like "Western," that mean different things to different people, and instead suggests being as specific as possible when referring to countries or groups (Tropenmuseum, 2021, p. 143). An interesting philological exercise in this regard is to examine the different definitions provided for the word "*seiyō*" in a Japanese dictionary and the word "West" in an English dictionary.

Though this article's discussion of cultural shifts ends here, numerous other cultural developments are likely to impact English going forward, such as recent movements for gender-inclusive language. In the next section, I examine technological shifts, another sphere that has distinctly altered English texts concerning cultural heritage and one which also continues to evolve.

3 Changes from Technological Advances

New technologies have revolutionized the museum experience as a whole, particularly through innovations like the first audio guide in 1952 (Shaffer, 2017) and now-pervasive interactive panels and screens. Museums have adapted their texts to accommodate technological advances as well, and digital content continues to influence the way global cultural heritage is discussed in English.

To start with a historical example, the advent of widespread photography altered the way museum catalogues were written and arranged. A 1911 catalogue from The Metropolitan Museum of Art on "pottery, porcelain and faïence" contains a few black-and-white photos and describes each piece in detail, including the colors of the clay and glazes (Pier, 1911). A catalogue on Chinese porcelain from 1974 includes more photography, but most of it is black and white. The titles and

materials' descriptions frequently mention the colors of various elements with terms like "black-painted decoration" and "painted in iron red" (Le Corbeiller, 1974). Contrast this with a catalogue on Oribe ceramics published with color photographs in 2003—virtually all the colors have been removed from the object titles, and material lines simply read "glazed stoneware," presumably because the viewer can quite clearly see the colors in the photographs (Murase, 2003). The removal of colors from object names and material lines is not limited to this case alone, but has become common practice in many English-language museums.

More recently, "viral content" has been effecting changes in the English lexicon. A good example of this is a meme that went viral around 2015 describing *kintsugi* as a philosophical stance celebrating beauty in the broken. The meme became so well known that in 2021 and 2022, Tuttle Publishing released books titled *Kintsugi* without additional explanation, simply because the term had become so widespread among crafting and DIY audiences (Uchimura et al., 2022). Terms like *sashiko* and *boro* also appear in Tuttle's published titles as a result of interest generated by internet blogs and videos related to the trend of "upcycling" old clothes.

Lastly, in the broader field of East Asian cultural heritage, the most viewed video on YouTube concerning lacquerware at the time of this writing is a video uploaded by the UK's Victoria and Albert Museum on Korean lacquerware techniques. Over the past few years in particular, Korean culture has experienced a boom on digital platforms, and there is even an English-language Wikipedia page for *najeonchilgi*, referring to lacquerware with mother-of-pearl inlay. For translators, it is worth considering how such global trends may affect the way we discuss cultural heritage in English in the future.

Conclusion

Museum texts are notoriously difficult to write (Blunden, 2006), and translating texts on cultural heritage presents unique challenges. Though brief, this article introduced a few key cultural and technological shifts that have impacted English texts in the hopes of aiding those engaged in museum writing and translation. As a closing thought, digital platforms have the power to introduce new words and cultural concepts into English with impressive speed and are already changing the way English-speakers discuss and perceive global cultural heritage. While such rapid change may be frustrating in some regards, translators and curators alike can presumably look forward to a richer English lexicon that allows for more

equitable discussions on global culture.

References

Blunden, Jennifer. (2006). Dumbing down for museum audiences—necessity or myth? *The Fine Print* 3, 27–33.

Clover, Darlene & Taber, Nancy & Sanford, Kathy. (2018). Dripping pink and blue. *Andragoška Spoznanja* [Studies in adult education and learning] 24. 11–28. *https://doi.org/10.4312/as.24.3.11-28*

Coxall, H. (2000). "Whose story is it anyway?" Language and museums. *Journal of Museum Ethnography*, 12, 87–100. *http://www.jstor.org/stable/40793646*

Fragomeni, D. (2010). The evolution of exhibit labels. *Faculty of Information Quarterly*, 2(1), 1–11. *https://hdl.handle.net/1807/80213*

Ingleby, Matthew. (2020, June 10). Charles Dickens and the push for literacy in Victorian Britain. *The Conversation*. *https://theconversation.com/charles-dickens-and-the-push-for-literacy-in-victorian-britain-139245*

Interdivisional Committee on Interpretation. (2010). "Interpretation at The Minneapolis Institute of Arts: Policy and practice." The Minneapolis Institute of Arts. *https://www.museum-ed.org/wp-content/uploads/2010/08/mia_interpretation_museum-ed.pdf*

Le Corbeiller, Clare. (1974). *China trade porcelain: Patterns of exchange*. The Metropolitan Museum of Art.

Machin, Rebecca. (2008). Gender representation in the natural history galleries at the Manchester Museum. *Museum and Society,* 6(1), 54–67. *https://journals.le.ac.uk/ojs1/index.php/mas/article/view/112*

McClellan, A. L. (1988). The Musée du Louvre as revolutionary metaphor during the terror. *The Art Bulletin*, 70(2), 300–313. *https://doi.org/10.2307/3051121*

McManus, P. M. (1989). Oh, yes, they do: How museum visitors read labels and interact with exhibit texts. *Curator: The Museum Journal*, 32, 174–189. *https://doi.org/10.1111/j.2151-6952.1989.tb00718.x*

Murase, Miyako. (Ed.). (2003). *Turning point: Oribe and the arts of sixteenth-century Japan*. The Metropolitan Museum of Art.

Museums as places of popular culture. (1904). *Science*, 19(485), 610–612. *http://www.jstor.org/stable/1630861*

Pagani, Camilla. (2017). Exposing the predator, recognizing the prey: New institutional strategies for a reflexive museology. *ICOFOM Study Series*, 45, 71–83. International Council of Museums. *https://doi.org/10.4000/iss.341*

Pier, Garret Chatfield. (1911). *Catalogue of the collection of pottery, porcelain and faïence.* The Metropolitan Museum of Art.

Ravelli, L. J. (1996). Making language accessible: Successful text writing for museum visitors. *Linguistics and Education*, 8(4), 367–387. *https://doi.org/10.1016/S0898-5898(96)90017-0*

Serrell, Beverly. (1996). *Exhibit labels: An interpretive approach*. Rowman Altamira.

Shaffer, William R. (2017). *Exhibition design and the evolution of museum-goer experience, 1924–2016*. [Master's thesis, Cooper Hewitt, Smithsonian Design Museum; and Parsons School of Design]. Smithsonian Research Online. *https://doi.org/10.5479/si.parsons/10088/35449*

Tropenmuseum. (2021). Words matter: An unfinished guide to word choice in the cultural sector. *https://www.tropenmuseum.nl/sites/default/files/2021-04/words_matter.pdf.pdf*

Uchimura, W., & Watts, A. (2022). *The craft of translating books about handicrafts* [Webinar]. Society of Writers, Editors, and Translators. *https://youtu.be/GHhGRgkqVLs*

Vergo, Peter. (1989). *New museology*. Reaktion Books.

Victoria and Albert Museum. (2017, July 24). *How was it made? Korean inlaid lacquer* [Video]. *https://www.youtube.com/watch?v=dT8yXhCtfRM*

英語圏の文化財の解説における技術的・文化的変化が及ぼす影響について（日本語訳）

Rebekah Harmon†
† WritingWise

キーワード：翻訳、技術、博物館

The Impact of Cultural and Technological Shifts on English Texts Related to Cultural Heritage (Japanese Translation)

Rebekah Harmon†
† WritingWise

Keywords: translation, technology, museums

序論

英語圏では文化財の解説の書き方について、最良の事例を取り上げた資料が博物館や学者によって数多く執筆、発行されている。実務上では役立つが、言語は文化と共に常に変化していくため、英語圏における作品・文化財の解説の理想的な在り方も、それに伴い変化し続けている。ただし、作品・文化財の解説の歴史的な変化と全体像を包括しながら俯瞰した論文はあまり見受けられない。本文の目的は、日英翻訳との関連において、文化財解説における技術的・文化的な変化がどのように展開されたかを主として論じることである。また、社会的言説の多様化および新技術がもたらした変化の一部を紹介することである。これらの変化を分かりやすく示すため、まずは歴史的背景として、草創期の博物館の解説の発展を説明する。

1 草創期の公共博物館とその解説

18 世紀および 19 世紀に欧米の博物館・美術館の解説は、主に上流階級の人々のために書かれた（Shaffer, 2017）。見学者は、作品についてある程度知識を持つことが前提とされ、書かれる解説は意外な程に至って簡潔であった。例として、

リュクサンブール美術館が 1774 年に来客に提供した図録には、作者・作品の名称、寸法および画題のみが掲載されていた程である（McClellan, 1988）。

20 世紀初頭に入ると、識字率が上昇して、社会教育への関心が高まった（Ingleby, 2020）。1903 年にドイツで「Museums as Places of Popular Culture」（大衆文化の場の博物館・美術館）という会議が開かれ、当時の新聞に、目標は「博物館が労働者階級とつながる方法を討論すること」とされた（p. 610）。そこで、ドイツの研究員が教科書的な解説を載せることを勧めた。これは目立った動向の兆候のようで、20 世紀半ばになると、欧米の博物館のほとんどは専門家が書いた教科書風の解説を採用していた。

2 社会的言説の多様化がもたらした変化

1970 年代から教科書風の書き方の解説が批判の対象となった。大量の情報を提供するのが良いことだと認識されていた一方で、専門用語が多く理解しにくいため、解説を無視する来館者は少なくなかった（Fragomeni, 2010）。このような事情から、短くて分かりやすい解説の作成が求められ（Serrell, 1996）、1980 年代には会話的な文調や口語体的な書き方も推奨された（McManus, 1989; Ravelli, 1996）。

この動きと同時に学界ではフェミニズム理論とポストコロニアル理論が進み、博物館が歴史について主観的な書き方、時として議論的な解釈を事実の様に提供してきたことが批評及び批判の対象となった（Vergo, 1989）。主観的な文章を書く場合、裏付けも書くことが求められるようになった。この考え方が作品の価値判断の範囲にまで適用され、解説で「good」（佳品）や「masterpiece」（傑作）などという言葉が使用される場合、その具体的な理由も入れることが一般的となった（Interdivisional Committee on Interpretation, 2010）。

フェミニズム理論から生じた例として、画題上の性別の区別に関わらず、性別の区別を誇示せず避け、中性的な印象を持たせた書き方やトーンが求められるようになった。画題が女性の場合、作品名称や解説に名前の代わりに男性との繋がりや関連性を強調する言葉（「～の妻」等）や、中性の名詞の代わりに男性の目線を仄めかす単語（「美人」等）は避けられている（Clover et al., 2018; Machin, 2008）。

また、ポストコロニアル理論やマイノリティと先住民に関わる国際的な枠組みの変化は、言語の説明を含めて欧米の博物館の方針に幅広い影響を与えた

（Coxall, 2000）。具体例として、1990年代から2010年代にかけて、欧州では博物館名に「ethnography」（民族誌学）を使用せず、「world cultures」（世界の文化）や「cultures」（文化）を使用する実例が複数出た。理由として、民俗誌学の前提となっていた「我々」対「彼ら」という二元性を乗り越えるために機関名を変更した、と挙げられている（Pagani, 2017）。

他ケースでは、アメリカのミネアポリス美術館の解説方針では、次のことが定められている。

> 作品、理想、材質等を示す場合［中略］「pre-Columbian」［先コロンブス期的］や「Oriental」［東洋的］のような形容語句の代わりに、ヨーロッパ中心主義を反映しない言葉を必要とする
> （*Interdivisional Committee on Interpretation*, 2010, p. 8）

さらに、オランダの熱帯博物館（Tropenmuseum）が英単語の手引き書を発行した。その中で、「Western」（西洋）等、国によって意味が異なる地域の呼び方を避け、特定の国名またはグループを示すことを推奨している（Tropenmuseum, 2021, p. 143）。文献学的実験として、国語辞典での「西洋」と英英辞典での「West」の定義を比較してみると、興味深い考察が可能かもしれない。

ジェンダー・インクルージョン等の運動が及ぼす影響により、英語解説は今後も変わっていくと推定されるが、本文の文化的変化に関する話はここで終わる。次は、技術的な進歩がもたらした変化を取り上げ、それにより博物館・美術館が発表、展示する英文に確実な影響をどう及ぼして、現在も問われ、変化を続けているかという問題について述べる。

3 技術の進化がもたらした変化

1952年の世界初の博物館オーディオガイド（Shaffer, 2017）から現代のタッチパネルやディスプレイまで、技術の進化が博物館・美術館への来館者の経験を抜本的に変革した。新しい技術は、博物館・美術館に対して変化へ適応した解説の作成を求め、文化遺産に関する英単語や表現を変えてきた。

まずは歴史的な実例として、英語圏でカラー写真の普及が図録へ及ぼした影響を、取り上げてみる。アメリカのメトロポリタン美術館の1911年の陶磁の図録をみれば、数少ない白黒写真に隣接して、粘土や釉薬の色を含めた作品の詳しい説

明が掲載されている（Pier, 1911）。また、同美術館の1974年の中国磁器の図録を確認すると、数枚の写真が入るが白黒写真で、依然として作品の名称や材質の説明に色の説明が入っている例が多い（「black-painted decoration」や「painted in iron red」）（Le Corbeiller, 1974）。これらに対して、2003年の織部焼の図録ではカラー写真が多く、作品の名称や材質の説明から色に関する記載がほとんど消えている（「glazed stoneware」等）（Murase, 2003）。これは織部焼の図録に限ったものではない。現在では、英語圏の博物館・美術館が使用する作品名称や材質説明の多くから彩色に関する言及が消えている。

もっと最新の現象として、いわゆる「バイラルコンテンツ」の力も英語を変えている。具体例として、2015年から、日本の金継ぎに関するミームがSNSで流行りになった。割れや欠けた箇所に修復を施した故に美しい、という美的・芸術的価値を伝えるメッセージが人気を博した。その影響で、工作やDIYの世界で「kintsugi」という言葉がよく知られるようになり、アメリカのTuttle社が2021年および2022年と立て続けに「kintsugi」をタイトルにした本を出版した（Uchimura et al., 2022）。さらに、最新の古着をアップサイクルする流行が追い風となって、Tuttle社は「sashiko」（刺し子）と「boro」（襤褸）をタイトルにした本も出版した。

本稿を執筆した2022年時点で、東アジアの文化財まで考察範囲を拡大すると、漆工品についてYouTubeで再生回数が最も多いのは、イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館が投稿した韓国の漆工工程に関する動画である。特に近年においては英語圏で韓国の人気が急上昇し、英語版のWikipediaでは「najeonchilgi」（螺鈿漆器）のページまで存在している。

翻訳者にとって、今後、世界の文化財に関わる英単語がどう変化をしていくか、注視し検討する価値は十分にあると言える。

結論

英語圏で美術館・博物館用の文章作成作業は困難と認識され（Blunden, 2006）、文化財の解説を英訳することには、それ特有の問題も付随している。本文では、簡潔ながらも、文化財解説の執筆や多言語化に携わる方々へ、参考までに、英語圏で博物館・美術館の解説に影響を与えた主な変化を紹介しようと試みた。デジタルプラットフォームは、急激な速さで新しい言葉と文化的概念を英語という言語領域に導入する力を備えている。上記に示したように、英語圏では世

界の文化財の捉え方と語り方が既に変化している。翻訳者や研究員にとって困難な面もあるが、より豊かな語彙を使用し広めていくことにより、世界文化をより開放的で自由に、そして客観的に語り合う時代が到来するという希望的観測もある。

謝辞

本稿の和訳にあたり、有益な助言を賜り、また丁寧に編集してくださった髙橋いつか氏に深謝いたします。

参考文献

Blunden, Jennifer. (2006). Dumbing down for museum audiences — necessity or myth? *The Fine Print* 3, 27–33.

Clover, Darlene & Taber, Nancy & Sanford, Kathy. (2018). Dripping pink and blue. *Andragoška Spoznanja* [Studies in adult education and learning] 24. 11–28. *https://doi.org/10.4312/as.24.3.11-28*

Coxall, H. (2000). "Whose story is it anyway?" Language and museums. *Journal of Museum Ethnography*, 12, 87–100. *http://www.jstor.org/stable/40793646*

Fragomeni, D. (2010). The evolution of exhibit labels. *Faculty of Information Quarterly*, 2(1), 1–11. *https://hdl.handle.net/1807/80213*

Ingleby, Matthew. (2020, June 10). Charles Dickens and the push for literacy in Victorian Britain. *The Conversation. https://theconversation.com/charles-dickens-and-the-push-for-literacy-in-victorian-britain-139245*

Interdivisional Committee on Interpretation. (2010). "Interpretation at The Minneapolis Institute of Arts: Policy and practice." The Minneapolis Institute of Arts. *https://www.museum-ed.org/wp-content/uploads/2010/08/mia_interpretation_museum-ed.pdf*

Le Corbeiller, Clare. (1974). *China trade porcelain: Patterns of exchange*. The Metropolitan Museum of Art.

Machin, Rebecca. (2008). Gender representation in the natural history galleries at the Manchester Museum. *Museum and Society,* 6(1), 54–67. *https://journals.le.ac.uk/ojs1/index.php/mas/article/view/112*

McClellan, A. L. (1988). The Musée du Louvre as revolutionary metaphor during the terror. *The Art Bulletin*, 70(2), 300–313.

McManus, P.M. (1989). Oh, yes, they do: How museum visitors read labels and interact with exhibit texts. *Curator: The Museum Journal*, 32, 174-189. *https://doi.org/10.1111/j.2151-6952.1989.tb00718.x*

Murase, Miyako. (Ed.). (2003). *Turning point: Oribe and the arts of sixteenth-century Japan*. The Metropolitan Museum of Art.

Museums as places of popular culture. (1904). *Science*, 19(485), 610–612. *http://www.jstor.org/stable/1630861*

Pagani, Camilla. (2017). Exposing the predator, recognizing the prey: New institutional strategies for a reflexive museology. *ICOFOM Study Series*, 45, 71–83. International Council of Museums. *https://doi.org/10.4000/iss.341*

Pier, Garret Chatfield. (1911). *Catalogue of the collection of pottery, porcelain and faïence*. The

Metropolitan Museum of Art.

Ravelli, L. J. (1996). Making language accessible: Successful text writing for museum visitors. *Linguistics and Education*, 8(4), 367–387. *https://doi.org/10.1016/S0898-5898(96)90017-0*

Serrell, Beverly. (1996). *Exhibit labels: An interpretive approach*. Rowman Altamira.

Shaffer, William R. (2017). *Exhibition design and the evolution of museum-goer experience, 1924–2016*. [Master's thesis, Cooper Hewitt, Smithsonian Design Museum; and Parsons School of Design]. Smithsonian Research Online. *https://doi.org/10.5479/si.parsons/10088/35449*

Tropenmuseum. (2021). Words matter: An unfinished guide to word choice in the cultural sector. *https://www.tropenmuseum.nl/sites/default/files/2021-04/words_matter.pdf.pdf*

Uchimura, W., & Watts, A. (2022). *The craft of translating books about handicrafts* [Webinar]. Society of Writers, Editors, and Translators. *https://youtu.be/GHhGRgkqVLs*

Vergo, Peter. (1989). *New museology*. Reaktion Books.

Victoria and Albert Museum. (2017, July 24). *How was it made? Korean inlaid lacquer* [Video]. *https://www.youtube.com/watch?v=dT8yXhCtfRM*

Ⅱ

事業報告

日本の遺跡情報を国際連携する：ARIADNEとSEADDA

高田 祐一[†]
† 奈良文化財研究所

キーワード：データ連携、国際連携、プラットフォーム

International Collaboration for Japanese Archaeological Site Information: ARIADNE and SEADDA

Yuichi Takata[†]
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

Keywords: data linkage, international cooperation, data platforms

はじめに

日本には膨大な埋蔵文化財情報・考古学情報が蓄積されている。これを第三者からもさらに評価されるようになるには、世界から簡単にアクセスできる環境を提供することで認知・評価につながる。デジタル時代においては、グローバルなプラットフォームでデータを流通させていくことが必須となる。本稿では、国際プロジェクトであるARIADNEとSEADDAについて、これまでの経過を報告する

ARIADNE

1 ARIADNEへの参画

2017年2月、イギリスのヨーク大学考古学情報サービス（Archaeology Data Service、以下、ADS）にて、考古学情報の国際発信に関するセミナーが開催された。セミナーでは、考古学情報を国際的に共有し連携するための具体的な方法について議論された。意見交換において、ADSのJulian Richards教授からARIADNEを介した考古学情報の日欧でのデータ連携が提案され、奈良文化財研究所（以下、奈文研）のARIADNE参画に繋がった。

ARIADNE[1]は、多国間での考古学情報を統合し、相互連携によって多くの人

[1] *https://ariadne-infrastructure.eu/*

が情報にアクセスしやすくするシステムの構築、コミュニティの組成に取り組んでいるEUの事業である。第一期は、2013年から2017年に実施された。第二期計画（2019年1月から2022年12月がプロジェクト期間）であるARIADNEplusでは、EU23ヵ国41の機関に加え、日本（奈文研）・アメリカ・アルゼンチン・イスラエルの4ヵ国からも参画している（図1）。ARIADNEは、入手しにくい文化財報告書、画像、地図、データベース、その他の種類の考古学的情報について、国境を超えてオンラインでアクセス可能な考古学リポジトリの構築を実現した。現在、346万のデータセットがカタログ化されている（2023年1月16日時点）。ARIADNEplusは、EUによる研究及び革新的開発を促進するための欧州研究・イノベーション枠組み計画であるHorizon 2020のプロジェクトである。

2022年12月15日、第二期計画の最後となる総会がフィレンツェで開催された。今後のさらなるデータ拡充やFAIR原則でのベストプラクティスの共有などの取り組みを継続できるよう、2023年にARIADNE RI AISBLとしてベルギーに法人を設立することが議論された。

図1　ARIADNE Plus第1回会議（2019年2月、フィレンツェ）

2 ARIADNEへデータ連携

2.1 ARIADNE Portalへのデータ連携概要

2022年2月、ARIADNE Portalに日本の遺跡データを連携した。遺跡・文化財は「時間」「空間」「モノ」で検索することが可能である。遺跡情報を相互検索の枠組みに登録することで、「時間」「空間」「モノ」を検索キーとして、世界の遺跡・文化財を検索できる。ヨーロッパから日本の遺跡を統合検索することが可能となった。日本には膨大な調査蓄積があるが、情報アクセスにハードルがあるため、海外からは利活用しにくい状況であった。ARIADNE plusへの参画により簡

単に情報検索できるようになり、情報アクセスの利便性が向上した。無償で使用できるため、市民も簡単にアクセスでき、研究者にとっては学術研究で利活用できる。

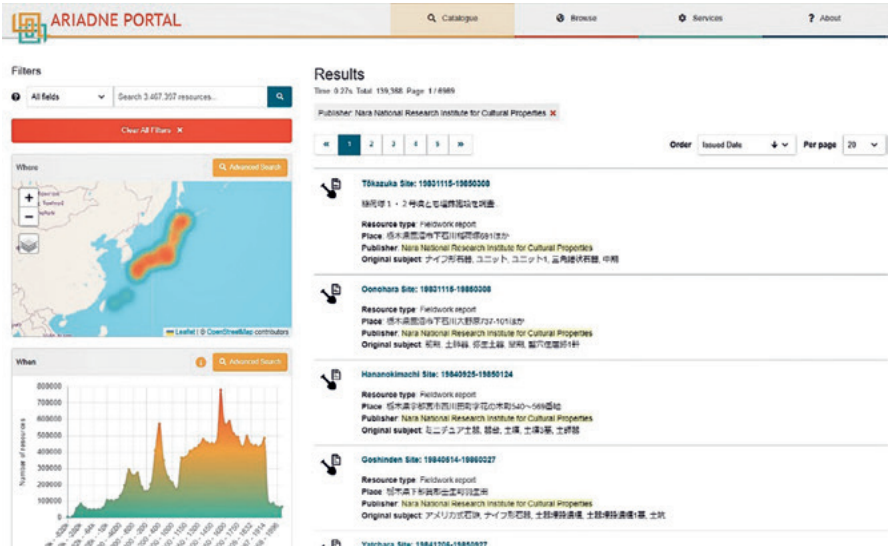


図2　ARIADNE Portalでの日本データ表示状況（14万件の遺跡データ）

ARIADNE Portal

URL：*https://portal.ariadne-infrastructure.eu/*

連携データ件数：139368件

連携データの種類：日本の遺跡データ（遺跡抄録）

連携データの対象：日本全国のデータ、発行機関約1500

連携データの内容：遺跡名、位置情報、時代、出土遺物・遺構、報告機関、報告書書誌へのリンク（全国遺跡報告総覧へのリンクURL）

データの英語化状況

遺跡名：ルールにより自動変換したもの

文化財用語：遺跡総覧に対訳があるものは英語で、ないものは日本語のまま

時代：新たに英語化

2.2 日英対訳

言語の壁の問題を解決するために、日英対訳などシソーラスが必要となる。そのため、奈文研では文化財関係用語シソーラスが構築しており、今回の連携にも

活用された。具体的に言うと、当プロジェクトでは、Getty AAT[2] へのマッピング作業を行った。

SEADDA

SEADDA（Saving European Archaeology from the Digital Dark Age）[3] は、考古学データのアーカイブ化、再利用、オープンアクセス化などを目指す枠組みであり、COST（European Cooperation in Science and Technology）の枠組みの一つである。SEADDA は 2019 年 3 月から 2023 年 3 月がプロジェクト期間である。SEADDA には EU 各国に加え、International Partner として 4 ヵ国が参画し、日本（奈文研）もその一つである。

その一環として、2021 年の Internet Archaeology の 58 号では、各国の考古学デジタルアーカイブに関する状況が報告された。これを読んでいただければ、考古学の歴史や、国家との関係（中央集権 / 地方分権）、調査の主体（公共団体 / 民間主導）などの差によってアーカイブのあり方にも差があることを把握できる。

Digital Archiving in Archaeology: The State of the Art

https://intarch.ac.uk/journal/issue58/

おわりに

他国や他機関とデータ連携していくには、データ品質の向上と一定の標準化は不可欠である。国内データを取りまとめて、別プラットフォームに繋いでいく組織も必要である。世界的な流れにコミットしていくことで、ガラパゴス化を抑止し、海外からも使ってもらえる調査成果として位置づけていくことが可能となる。

[2] Getty Art & Architecture Thesaurus
米国のゲッティ研究所（Getty Research Institute）が運営する文化に関する用語のシソーラス。

[3] *https://www.seadda.eu/*

韓国における「都城」の英訳考：UNESCO世界文化遺産のICOMOS評価書を中心に

扈 素妍†
†奈良文化財研究所

キーワード：UNESCO、ICOMOS、翻訳

On the English Translation of “doseong” in Korea: Focusing on UNESCO Advisory Board Evaluations

Ho Soyeon†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

Keywords: UNESCO, ICOMOS, translation

はじめに

1995年、石窟庵と仏国寺・海印寺蔵経板殿・宗廟がUNESCO世界文化遺産に登録された。その後、韓国では世界に韓国の文化遺産の価値を伝えるために積極的に文化財政策を施し、UNESCO世界文化遺産登録にも励んできた。そのため、2010年代にも南漢山城（2014）・百済歴史遺跡地区（2015）など、韓国の遺跡がUNESCO世界文化遺産に登録されつつある。このような積極的な世界遺産への登録の動きは韓国だけではなく、日本や中国、また、アジア全体の姿勢であった。それは世界遺産へ登録されることで得られる経済的利益や、衰退する地域社会の活気づけ、国家アイデンティティの強化が期待されるためである。

ところで、UNESCO世界文化遺産へ登録されるためには、当該遺産が世界遺産として如何なる価値があるのか、その登録の意義を英語で書く必要がある。ただUNESCO世界文化遺産評価委員は皆英語のネイティブではないため、簡潔で、解りやすい英文にしなければならない。さらに、それを念頭において、各国の文化の特有な概念や用語を英語でどう表現すればいいのかも考慮しなければならない。

「都城」もそのような用語の一つで、「都城」という漢字語自体は中国・韓国・日本で考古学・歴史学の専門用語として使われている。しかし、各国において、また、時期によってその用語がいつも同じものを意味するわけではなく、専門家

によってもその定義が異なる場合がある。その上「都城」は東アジアの古代の政治体系、社会情勢、建築様式などと関連し、重要な用語であるため、特に古代の遺跡・遺産を英語で説明しようとする際、それをどう翻訳するかは難題である。殊にその性質が他の「都城」とは異なる場合は一層ややこしくなる。本稿は、そのような場合に備えて、「都城」という用語が、韓国では如何に翻訳されているのかについて事例を紹介するものである。

韓国の考古学・歴史学における「都城」の英文訳用例

韓国の考古学・歴史学における「都城」の英訳文に表れる用例は次の通りである。まず、古朝鮮・新羅・百済・高句麗の首都に関する論文の場合、「都城」や「都邑」という漢字語を使用し、その英文タイトルでは「Royal City」「Capital」「Capital City」と訳した用例が確認できる[1]。

ところで、そもそも、韓国の考古学学界における「都城」の定義は、韓国の『韓国考古学事典』[2] によると、「王が日ごろ居住する宮城と官府及びその周辺をとり囲んだ城郭であり、軍事的目的の他に政治・経済・社会・文化の中心役割を担っていた」[3] 場所とされている。一方、同事典で「邑」については、「文明の発達につれて流通経済の発展は人口の集中化現象を伴い、従って都市が形成」されるが、この「都市に城壁を巡らした」ものを指すと定義されている[4]。以上を総合してみると、韓国の考古学・古代史で「都城」や「都邑」という言葉を使う際には、「城」の存在が前提条件になっていることがうかがえる。

一方、馬韓などの中央集権国家になる前段階の複合的な族長制度の社会における首都のような場所については、「中心地」という言葉を使った用例が確認できる。この場合、英文抄録では「socio-political center（capital）」と訳した事例が確認できる[5]。

[1] ①박순발「고구려의 도성과 묘역（高句麗の都城と墓域）」『한국고대사탐구』12（2012）の英文タイトル→On the Capital of Koguryo and its Cemetery
②권순홍「『三國史記』의 도성 관련 용어 분석（『三國史記』の都城関連用語分析）」『한국사학보』82（2021）の英文タイトル→Analysis of Terms Related to Royal City in Samguk Sagi
③윤내현「고조선의 도읍 위치와 그 이동（古朝鮮の都邑位置とその移動）」『고조선단군학』7–7（2002）の英文タイトル→Location and Transfer of GO-CHOSUN’s Capital など。

[2] 国立文化財研究所編『韓国考古学事典』（国立文化財研究所（韓国）、2001）。

[3] 同上、290頁。

[4] 同上。

[5] 최몽룡「馬韓：研究現況과 課題」『馬韓·百濟文化』22（圓光大學校 馬韓·百濟文化研究所、2013）など。

UNESCO世界文化遺産のICOMOS評価書（Advisory Body Evaluation）などに表れる「都城」「首都」の英訳用例―韓国・北朝鮮を中心に―

※註の頁数は、各遺跡に対するICOMOS評価書の頁数である。また、引用文等における下線は筆者によるものである。

1 古代遺跡

まず、韓国と北朝鮮でUNESCO世界文化遺産に登録されている遺跡の中で、「都城」という用語や飛鳥・藤原京との関連性が高いと考えられる古代遺跡の例を紹介する。ユネスコ世界文化遺産に登録された韓国の古代遺跡は、「慶州歴史遺地区（Gyeongju Historic Areas）」と「百済歴史遺跡地区（Baekje Historic Areas）」がある。この中で、新羅の首都は一貫して慶州であったが、「高句麗や百済のように王京を取り囲む羅城はない、一方、四方へ山城を築造して都城の防衛を試みた」[6] とされている。

一方、百済の場合、河北慰礼城→河南慰礼城→漢山→漢城→熊津→泗沘へ変遷されたが、泗沘は確かに羅城の存在が確認できる。しかし、熊津は軽部慈恩が植民地期に調査して提示した「羅城存在説」について議論がある状態である[7]。しかし、熊津の場合も山城は存在していたため、「都城」と表記している。

このように、慶州や熊津には羅城はなかったが、羅城があった泗沘などと同じく、英文のタイトルでは「capital」という言葉を使っている。例えば、「百済の熊津遷都と防備体制の対する研究」という論文の英文タイトルが「A Study on the defensive system and the transfer of the capital to Woongjin of Paekche」であることから確認できる。

さらに、上記の「慶州歴史遺地区（Gyeongju Historic Areas）」と「百済歴史遺跡地区（Baekje Historic Areas）」のユネスコHP（英語）を確認すると、「慶州」は「the capital city of the Silla Dynasty」、「熊津」は「the capital, Ungjin」で、「泗沘」は「the capital, Sabi」となっている。また、「百済歴史遺跡地区」の位置を紹介する文章のなかでは、そこが「the remains of three capital cities collectively represent the later period of the Baekje Kingdom」であると述べられている。ここで、「three capital cities」になっていることから、羅城がな

[6] 前掲『韓国考古学事典』、292頁。

[7] 이병의「百濟의 熊津 遷都와 防備 體制에 대한 研究（A Study on the defensive system and the transfer of the capital to Woongjin of Paekche）」公州教育大学校教育大学院修士学位論文（2002）。

かった「熊津」や羅城があった「泗沘」を使い分けずに「capital」または「capital city」という英語を使用していることがうかがえる。

その上、「慶州歴史遺地区」のICOMOS評価書には「History and Description」の「History」の部分で、「先史時代から現在の慶州の町の周辺には人が住んでいた。新羅は紀元前57年に半島南東部の覇者になり、首都として慶州を選んだ。その後、隣国間の内部闘争が長く続いた」[8] と、慶州が新羅の「capital」となったことを簡略に説明している。

また、「百済歴史遺跡地区」のICOMOS評価書中、「Brief description」では、百済歴史遺跡地区の構成と意義を次のように説明している。

> それらの遺跡〔百済歴史遺跡地区を構成する8つの遺跡のこと―筆者註〕は、熊津首都（公州）に関連する松山里の公山城と王家の墓と、泗沘首都（扶餘）と関連する扶蘇山城・官北里遺跡・定林寺址・陵山里古墳群・羅城、そして、第二の泗沘首都に関連する王宮里の王宮と益山の弥勒寺である。これらの遺跡は、百済が中国から都市計画、建設技術、芸術、宗教の原則を受け入れたことと、百済がそれらを改良し、その後、日本と東アジアへの流通したことを証明するものである[9]。

これをみると、「熊津（公州）」「泗沘（扶餘）」「第二の泗沘」という地域名の性格について、「capital」という言葉を使用して、これらの政治的中心地としての性格を示していることが読み取れる。この「the Ungjin capital Gongju」「the Sabi capital Buyeo」「the secondary Sabi capital」という表現は、この評価書

[8] 「There has been human settlement at and around the site of the present-day town of Kyongju from the prehistoric period. The Shilla clan became the rulers of the south-eastern part of the peninsula in 57 BCE. They chose Kyongju as their capital. There followed a long period of internal struggles between rival kingdoms.」116頁。

[9] 「They are the Gongsanseong fortress and royal tombs at Songsan-ri related to the Ungjin capital Gongju; the Busosanseong Fortress and Gwanbuk-ri administrative buildings, Jeongnimsa Temple, royal tombs in Neungsan-ri and Naseong city wall related to the Sabi capital Buyeo; the royal palace at Wanggung-ri and the Mireuksa Temple in Iksan related to the secondary Sabi capital. Together these sites testify to the adoption by the Baekje of Chinese principles of city planning, construction technology, arts and religion; their refinement by the Baekje and subsequent distribution to Japan and East Asia.」

に繰り返されている[10]。また、熊津以前の首都であった「漢城」[11]や中国の「洛陽」[12]について説明するところでも、「capital」を付してその地域の性格を表している。ここで、「capital」は「Ungjin」「Sabi」「the secondary Sabi」という地名に馴染みのない読み手のために、そこが当時の首都の役割をしたことを分かりやすく、また簡潔に説明する機能を担っていると考えられる。

一方、UNESCO世界文化遺産に登録されている北朝鮮の古代遺跡である「高句麗古墳群（Complex of Koguryo Tombs）」のICOMOS評価書には、「THE PROPERTY」の「History」に、次のような用例が出てくる。

> 要衝の地である平壌は、古代韓国（古朝鮮）の首都として長い間、政治、経済、文化の中心地であった。そのため、高句麗は首都をここに移し、発展に多大な努力を払った[13]。

> この王国で最もよく知られている文化遺産は、石で造られ、石または土の塚で覆われた何千もの墓である。高句麗が首都を平壌に移すと、多くの壁画を含む土墳墓が普及したが、王国の他の地域にも存在していた[14]。

ここでは「古代韓国（古朝鮮）の首都」と表現されているが、実際に古朝鮮の首都の位置や様式については、議論がある[15]。すなわち、ここでの「the capital」

---

[10]「The property」「Description」中
「The nominated component properties are the Gongsanseong fortress and royal tombs at Songsan-ri related to the Ungjin capital Gongju; the Busosanseong Fortress and Gwanbuk-ri administrative buildings, Jeongnimsa Temple, royal tombs in Neungsan-ri and Naseong city wall related to the Sabi capital Buyeo; the royal palace at Wanggung-ri and the Mireuksa Temple in Iksan related to the secondary Sabi capital.」113頁、など。

[11]「The Ungjin capital Gongju was built by the Baekje from 475-538 CE 130km south of Seoul after the capture of their earlier capital Hanseong by the Goguryeo.」113頁。

[12]「In the later Sabi period the royal palace at Wanggung-ri illustrates the rectangular planned layout of the East Asian royal palace of the 6th-7th century, similar to Luoyang, capital of the Northern Wei Dynasty.」116頁。

[13]「Pyongyang, situated in a strategic location, had long been the political, economic and cultural centre, as the capital of ancient Korea (Kojoson) which is the reason why the Koguryo kingdom moved its capital here and made great efforts in developing it.」60頁。

[14]「The best known cultural heritage remains of this kingdom are thousands of tombs, built of stone and covered by stone or earthen mounds. Earthen mound tombs, including many with murals, were prevalent once Koguryo moved its capital to Pyongyang – but existed in other parts of the kingdom as well.」58頁。

[15] 송호정「고조선（古朝鮮）의 위치（位置）와 중심지（中心地）문제에 대한 고찰（Historical Research

は、様式など考慮せずに、「政治、経済、文化の中心地（the political, economic and cultural centre）」としての機能を表す言葉として使われたことが読み取れる。

以上を総合すると、韓国と北朝鮮では、古代における首都に関する説明を英文に訳す時、そこが「都城」として相応しい様式なのかという問題より、「政治、経済、文化の中心地（the political, economic and cultural centre）」という機能を説明する政治史的な用語としての「capital」、または「capital city」を使用したことが確認できる。

2 朝鮮王朝期の遺跡

韓半島の近世に当たる朝鮮王朝期の遺跡も UNESCO 世界文化遺産に登録されている。その中の「昌德宮（Changdeokgung Palace Complex）」の評価書では、「History and Description」の「History」で、昌德宮（Changdeokgung）の歴史を、「朝鮮王朝初期には、首都が開城と漢陽（現在のソウル）の間を何度も移った。父、定宗の意志に従い、この王朝の三代目の統治者である太宗（1400-18）は、1405年に首都を漢陽に戻した。既存の景福宮が不吉であると考えて、彼は昌德宮（輝かしい美德の宮殿）と名付けた新しい宮殿の建立を命じた」[16] と、説明している。ここにおいても、特に政治的中心地という機能として「the capital」という言葉を使っていることがうかがえる。

さらに、「朝鮮王陵（Royal Tombs of the Joseon Dynasty）」の評価書においては、陵の位置や様式について説明した後、その陵にまつわる儀式について述べる部分で次のように説明している。

> 王家の墓に関連する先祖の儀式は、神聖なものと見なされている。儀式は朝鮮後期から大韓帝国の短期間（19世紀後半から20世紀初頭）まで行われていた。日本の植民地支配下と韓国戦争中には、儀式は中断されていたが、朝鮮王朝と関連した儀式を維持する手段としてその後（1966年）復活した。儀式の場所は、王が敬意と尊敬を表すために父親の墓に密接にアクセスする必要

on Gojoseon’s Historical Geography)」『한국고대사연구』58（2010）、など。

[16]「In the early years of the Choson Dynasty in Korea, the capital moved many times between Gaeseong and Han yang (present-day Seoul). In obedience to the will of his father, Chongjong, the third ruler of this dynasty, T’aejong (1400-18), moved the capital back to Hanyang in 1405. Considering the existing Kyongbokkung Palace to be inauspicious, he ordered a new palace to be built, which he named Ch’angdokkung (the Palace of illustrious Virtue).」

があることを考慮して首都のソウルに近いという理由で選ばれた[17]。

この部分では、「the capital＝Seoul」となっている。ここで、ソウルは現在の韓国首都の地名のみならず、元々「首都」を意味するハングル語であるため、朝鮮王朝期の首都をソウルと表記する用例も多い。ここにおいて「the capital」は、一国の首都という象徴性を強調する役割を果たしていると考えられる。

そして、「南漢山城（Namhansanseong）」の場合は、その歴史的特殊性が「emergency capital（非常時の首都）」としての役割を果たしたことにあるため、評価書にも何度もその言葉が登場している。例えば、「1 Brief description」、「2 The property」の「Description」、「3 Justification for inscription, integrity and authenticity」「Comparative analysis」と「Justification of Outstanding Universal Value」、「7 Conclusions」、「8 Recommendations」の項目で「emergency capital」という言葉が繰り返されている[18]。

[17] The ancestral rites associated with the royal tombs are considered sacrosanct. They were practiced until the late Joseon period and into the short period of the Daehan Empire (late 19th-early 20th century). Under Japanese colonial rule and during the Korean War, they were stopped, but revived afterwards (1966) as a means to preserve the ritual practices associated with the Joseon Dynasty. Sites were chosen for their proximity to the capital, Seoul, which reflects the need for kings to have close access to their fathers' graves in order to pay due respect and honour.

[18]「Brief description」中
「Namhansanseong was designed as an emergency capital for the Joseon dynasty (1392-1910), in a mountainous site 25 km south-east of Seoul. A city that has always been inhabited, and which was the provincial capital over a long period, it contains in its fortifications evidence of a variety of military, civil and religious buildings. It has become a symbol of Korean sovereignty.」183頁。
「The property」の「Description」中
「The fortress city was designed in its present form by the Joseon dynasty, in the early 17th century, as an emergency capital for Seoul, located 25 km to the north-west in the lowlands. It could accommodate a population of some 4,000 people, and fulfilled important administrative and military functions. It was the regional capital of the Gwangju district from 1624 to 1917.」60頁。
「Justification for inscription, integrity and authenticity」「Comparative analysis」中
「From the 14th century on, the Joseon dynasty made quite frequent use of the mountain fortress, but they remained relatively modest in size, and their military effectiveness was often limited. The Japanese invasion marked a turning point, with the use of firearms and the appearance of a real threat to Korean independence. Namhansanseong bears witness to this change both in terms of its size (as it became a proper town and an emergency capital) and its quality, with the definition of a new fortification model which represents a synthesis of various foreign influences. From this point on, the Joseon dynasty built a considerable number of relatively large fortified towns in the mountains.」
「Amongst the fortified sites that have been recognised in Korea (about 250 sites), Namhansanseong stands out because of its dimensions, its large number of functions, and the fact that it is an emergency capital.」
「These are indeed walled towns with ramparts, often on elevated land or utilising naturally defensible positions; they accommodate large urban ensembles that are generally well preserved, along with administrative and religious buildings. Without weakening the specific characteristics of the fortified

ところが、一ヶ所だけ「emergency capital」ではなく、「a royal emergency city, close to the capital of the Joseon dynasty」と表現されている部分がある。それは、「17 世紀に設計された南漢山城の都心組織は、朝鮮王朝の首都（the capital）に近い、王室の緊急都市（a royal emergency city）の傑出で、保存状態の良い例と考えられる」[19] と、南漢山城がユネスコの評価基準（Criterion（iv））の「（a）人類の歴史における重要な段階を示す、ある種の建物、建築または技術のアンサンブルまたは景観の優れた例であること」に満たすものであると説明する部分である。ここで「a royal emergency city」と表現したのは、おそらく、その後に続く「close to the capital of the Joseon dynasty」で「the capital」が使われているため、用語重複で説明が紛らわしくなることを避けるためであると推測できる。

その上、南漢山城は、1624 年から 1917 年まで広州地方の地方首都であったことを説明するため「the provincial capital」[20] と「the regional capital」[21] という言葉が使われている。すなわち、政治的中心地という機能を表す言葉として「capital」に、その性格を明確にするため、「emergency」や「provincial」「regional」を付けて敷衍していることを確認できる。

以上から、ここにおいても「capital」は政治的中心地という機能を表す言葉として使われ、「capital」がもつ特殊な性格があれば「emergency」や「provincial」「regional」を付けて敷衍していることが分かる。

---

ensemble of Namhansanseong, they set it into perspective and give it all its meaning in the context of Eastern Asia, where it expresses both a conceptual advance in fortification and a vision of the emergency capital that are specific to the property.」186 頁、など。

[19]「Criteria under which inscription is proposed」の中
「Designed in the 17th century, the organisation of the urban centre of Namhansanseong constitutes an outstanding and well-preserved example of a royal emergency city, close to the capital of the Joseon dynasty.」188 頁。

[20]「Justification of Outstanding Universal Value」中
「Permanently inhabited, the city was the provincial capital over a long period, and it includes within its fortifications evidence of a wide variety of military, civil and religious buildings.」187 頁。
「Description of the attributes」中
「A city that has always been inhabited, and that was the provincial capital over a long period, it includes inside its fortifications evidence of a wide range of military, civil and religious buildings.」189 頁。

[21]「The property」の「Description」中
「The fortress city was designed in its present form by the Joseon dynasty, in the early 17th century, as an emergency capital for Seoul, located 25 km to the north-west in the lowlands. It could accommodate a population of some 4,000 people, and fulfilled important administrative and military functions. It was the regional capital of the Gwangju district from 1624 to 1917.」183 頁。

おわりに

以上を総合すれば、韓国と北朝鮮では、UNESCO 世界文化遺産に登録するために、「都城」かそうでないかなどの議論の余地がある部分には触れず、その地域が歴史的に政治と文化の中心で、行政的役割を担っていたという機能的意義が重視されていた。そのため、「capital」または「capital city」を使用して、読み手が理解しやすく、簡潔に内容を伝えようとしたと考えられる。このような事例を踏まえて、これから日本や韓国で UNESCO 世界文化遺産への提出書類を作成する時に役立つことができるならば幸いと思う。

III

実験

文化財多言語化のためのPython入門：韓国語の形態素解析

Peter Yanase†
†奈良文化財研究所

An Introductory Course on Python for Translating Cultural Heritage Information: Korean Morphological Analysis

Peter Yanase†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

はじめに

文化財情報のデジタル化とインターネット経由での公開が日々進んでいる中、公開情報をいかに多言語化するかという大きなハードルがデータ管理者を悩ませている。海外向けのサイトを作ったのはいいものの、肝心な検索システムが日本語のままだったりするのはよく見かける光景である。そのため、情報学の専門家たちがここ数十年、専門用語（キーワード）を自動で抽出した多言語辞書データの開発に勤しんでいるが、残念ながら文化財の分野では進展がなかなか見られない。

その一方、近年はPython、R、Rubyなど、比較的に容易に操れるプログラミング言語が広く使われるようになり、数ラインのコードを書くだけで誰もが簡単に自然言語処理が行えるようなってきた。また、同時に、データのオープン化も各国で進み、あらゆる言語で、法的な縛りが大幅に緩和されたテキストデータが入手できるようになった。今はもう自分がぶつかった情報学的な問題を誰かが代わりに解決してくれるのを待つしかない時代ではなくなった。

さて、自然言語処理の多くの場合は分析対象となるコーパスをまず文章、文、単語の順番に区切り、その次または同時に品詞付けを行う。そのため、多くの有志者・研究者がこのような処理ができるツールや辞書データを開発してきた。たとえば、日本語の場合は、MeCab、Janome、ChaSen、JUMAN、KyTeaなどの形態素解析ツールとIPAdic、NAIST-jdic、UniDicなどの形態素解析辞書が存在する。様々なソリューションが開発されているのはもちろん喜ばしいものの、使い分けには一定のリテラシーが必要である。

日本語の解析ツールと辞書であれば、日本人なら特別な知識がなくても、それぞれの解析結果を見比べ、どれが自分の用途に最も合っているのか、比較的に簡単に判断できるであろう。しかし、これは外国語になるとハードルが一気に上がる。なぜなら、なじみがない外国語専用ツールを外国語で書かれているドキュメンテーションを見ながら動かし、外国語で出された解析結果を比較しないといけないからである。

そこで、今回はプログラミング初心者に優しいと評判となっている Python 言語で使える韓国語の自然言語処理ができるライブラリーモジュールを三つ、専門用語・キーワードの抽出に焦点を絞り、簡単に紹介したいと思う。

今回紹介するのは、文境界判定器モジュールの Kss の Python 版、自然言語処理ツール Kiwi の Python ラッパーである kiwipiepy と、自然言語処理ツールキットの KoNLPy の三つである。

環境構築の代わりに

職場や学校のパソコンにセキュリティー上様々な制限がかけられ、自由にソフトウェアをインストールしたり、設定を変えたりすることはできないのが一般的である。そういう場合、Google 社が提供する Web ブラウザー上で使える Python プログラミング環境である「Google Colaboratory」(以降 Colab) が便利である。Colab は Google のアカウントさえあれば、誰でも無料ですぐ使える。パソコンに何もダウンロードやインストールせず、ブラウザー上コードを書き、実行できる。しかも処理スピードもかなり早い。また、Colab が（あえてその環境を構築しない限り）パソコンのファイルに直接アクセスできないのも心強い。ハードディスクのファイルを使ってプログラミングを実行したい場合、まずファイルをアップロードしないといけない。何より、パソコンにインストールされている OS などに依存しないため、Colab を使えば、本記事で紹介する手順はどの環境でも同じになる。

1 使い方

1.1 インストール

Colab なら、３つのモジュールとも pip コマンドを実行するだけで簡単にインストールできる。

Kssの場合は以下のとおりである。

```
pip install kss
```

kiwipiepyの場合は次のようである。

```
pip install kiwipiepy
```

KoNLPyの場合は以下になる。

```
pip install konlpy
```


1.2 インポート

Kssの場合はこれを入力する。

```
import kss
```

kiwipiepyの場合は以下となる。

```
from kiwipiepy import Kiwi
```

KoNLPyにはHannanum、Kkma、Komoran、MecabとOktの５つの形態素解析ツールが含まれ、使用したいものをクラスとしてインポートする必要がある。全部をインポートするなら以下のようになる。

```
from konlpy.tag import Kkma, Hannanum, Komoran, Okt, Mecab
```

Mecab（韓国語版）自体はKoNLPYに含まれていないので、Mecabを使うなら、それが含まれているKssをKoNLPYと一緒にインストールするといい。他のやり方もあるが、これが一番楽である。（Kssをインポートする必要はない。）

1.3 文境界判定

以下は処理対象の文字列の変数を「string」、処理結果の変数を「sentences」と称す。

Kssでのやり方は次のとおりである。

```
sentences = kss.split_sentences(string, backend="mecab")
```

mecabとは別にpecabというバックエンドも用意されているが、mecabの方

が圧倒的に早い。

kiwipiepyでは以下のように入力する。

```
sentences = [sentence.text for sentence in \
               Kiwi().split_into_sents(string)]
```

KoNLPYに含まれているツールの中、Kkmaにしか文境界判定ができない。

```
sentences = Kkma().sentences(string)
```


1.4 単語のトークン化と品詞判定

以下は処理結果の変数を「tokens」と称す。

kiwipiepyの場合は次のように行う。

```
tokens = [(token.form, token.tag) for token in \
            Kiwi().tokenize(string)]
```

KoNLPYに含まれているそれぞれのツールの場合は、以下のようになる。

```
tokens = Kkma().pos(string)
```

```
tokens = Hannanum().pos(string, ntags=22)
```

```
tokens = Komoran().pos(string)
```

```
tokens = Okt().pos(string)
```

```
tokens = Mecab().pos(string)
```

1.5 名詞の抽出

kiwipiepyで固有名詞、普通名詞、代名詞などをまとめて抽出するにはまずそのリストを作成しなければならない。（各種品詞の略語はドキュメンテーションの最後に書いてある。）

```
noun_types = ["NNG", "NNP", "NNB", "NR", "NP"]
```

各種の名詞のリストを作成したら、それをフィルターとして使える。

```
nouns = [token.form for token in Kiwi().tokenize(string) if \
    token.tag in noun_types]
```

KoNLPYに含まれているそれぞれのツールの場合は次のようにする。

```
nouns = Hannanum().nouns(string)
```

```
nouns = Kkma().nouns(string)
```

```
nouns = Komoran().nouns(string)
```

```
nouns = Okt().nouns(string)
```

```
nouns = Mecab().nouns(string)
```


2 比較

2.1 文境界判定

文境界判定のテストには以下のテキストを使った。

> 헤이조쿄는 남북으로 긴 장방형 모양으로 중앙의 주작대로(朱雀大路)를 축으로 우쿄(右京)와 사쿄(左京)로 나뉘어 사쿄의 경사진 면에 게쿄(外京)가 설치되어 있었다. 동서축에는 이치조(一条)에서 구조(九条)까지의 이름이 붙은 대로(시조十条에 대해서는 후술), 남북축에는 주작대로와 사쿄 1방(坊)에서 4방, 우쿄 1방에서 4방의 큰길이 설치되었던 조방제(条坊制) 형태의 도시계획을 갖추고 있었다. 각 길의 너비는 약 532미터이고, 길로 에워싸인 부분(방)은 도랑과 쓰이지(築地)에 의해 구획되었고, 나아가 그 안에 동서남북으로 3개의 길로 구획이 나뉘어 있었다. 헤이조쿄 전체 규모는 동서 길이 약 4.3km(게쿄를 포함하면 6.3km), 남북 약 4.7km(북변의 방은 제외)에 달했다.

上記のテキストをKss、kiwipieとKoNLPYの三つとも正しく4つの文（センテンス）に分けた。ただし、KoNLPYは文の境目を正しく判断したものの、テキストには本来スペースがなかったところに半角スペースを入れた。韓国語においてスペースは文章の意味を変えるほど重要な役割を持っているため、KoNLPYを使った文境界判定はやめた方が無難である。

また、今回はBBSやブログの投稿のような句読点の使い方が独特なテキストの

処理は試していない。そのようなテキストの処理が必要な場合は改めてそれぞれのモジュールの性能を比較するとよい。(ドキュメンテーションを見る限り、そのような文章はKssの方が得意なはずである。)

2.2 名詞抽出

名詞抽出のテストには以下のテキストを使用した。

> 헤이조쿄는 남북으로 긴 장방형 모양으로 중앙의 주작대로(朱雀大路)를 축으로 우쿄(右京)와 사쿄(左京)로 나뉘어 사쿄의 경사진 면에 게쿄(外京)가 설치되어 있었다.

上記の一文に含まれているハングルで書かれている名詞は以下の13語である。

> 헤이조쿄, 남북, 장방형, 모양, 중앙, 주작, 대로, 축, 우쿄, 사쿄, 면, 게쿄, 설치

テスト用のテキストをそれぞれのツールで処理し、上記の名詞のリストと比較したら以下のような結果が得られた。

```
kiwipiepy:
FP(偽陽性): []
FN(偽陰性): ['대로']

Kkma:
FP(偽陽性): ['우', '쿄', '로', '게']
FN(偽陰性): ['대로']

Hannanum:
FP(偽陽性): ['주작대로(朱雀大路)', '우쿄(右京)', '사쿄(左京)', '게쿄(外京)']
FN(偽陰性): ['주작', '대로', '우쿄', '게쿄']

Komoran:
FP(偽陽性): []
FN(偽陰性): ['우쿄', '사쿄', '게쿄']

Okt:
FP(偽陽性): ['를', '로']
FN(偽陰性): ['대로']

Mecab:
FP(偽陽性): ['朱雀', '大路', '右', '京', '左', '京', '게', '쿄', '外', '京']
FN(偽陰性): ['대로', '게쿄']
```

まとめ

今回は文化財多言語化の過程における韓国語の自然言語処理に役立つ Python モジュールをを三つを簡単に紹介した。むろん、それぞれには今回言及しなかった機能や詳細な設定が存在するが、基本的な使い方は紹介できたかと思う。最後にはそれぞれを使ってみて思ったことを簡略にまとめる。

Kss は文境界判定に特化した分、コマンドが分かりやすく、スピードが速く、正確である。

kiwipiepy は文境界判定に加え、単語のトークン化と品詞付けもでき、名詞の抽出の実験では最も正確な判断をした。しかし、Python 初心者には少し使いにくい。

KoNLPY の文境界判定は使わない方が無難であるが、形態素解析ツールは複数用意され、コマンドが統一されて分かりやすい。

用途にもよるので、一概にどれがいいとは言えない。また、それぞれの強みを生かすため、組み合わせて使ってもよい。

参考文献

Ko, Hyunwoong, Sang-kil Park. Kss: A Toolkit for Korean sentence segmentation (v. 4.5.1) [Source Code]. *https://github.com/hyunwoongko/kss*

Lee, Minchul. kiwipiepy (v. 0.14.1) [Source Code]. *https://github.com/bab2min/kiwipiepy*

Park, Eunjeong L. and Sungzoon Cho. “KoNLPy: Korean natural language processing in Python,” Proceedings of the 26th Annual Conference on Human & Cognitive Language Technology, Chuncheon, Korea, Oct 2014.

KoNLPy (v. 0.6.0) [Source Code]. *https://github.com/konlpy/konlpy*

Ⅳ

資料

文化財中訳スタイル・マニュアル：約物編

吳 修喆†
† 奈良文化財研究所

Style Manual for Chinese Texts on Cultural Heritage: Punctuation

Wu Xiuzhe†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

凡例
(1) 本マニュアルは、奈良文化財研究所の多言語チームが推奨している文体や文法などのルールを記録したものである。
(2) 本マニュアル（約物編）は以下の規定・書籍を参考にした。
「GB/T 15834-2011 标点符号用法」中華人民共和国国家質量監督検験検疫総局・中国国家標準化管理委員会公布、2011年12月
「重訂標點符號手冊修訂版」教育部国語推行委員会編著、2008年12月
日本エディタースクール 2011『標準 校正必携 第8版』日本エディタースクール出版部
講談社校閲局 2013『日本語の正しい表記と用語の辞典』講談社
(3) 使用する例文はすべて奈良文化財研究所の出版物による。個別の出典は省略した。
(4) 基本的なルールは簡体字文・繁体字文共通であるが、異なる用法を有する項目では繁体字の例文を挙げた。

1 記述記号

1.1 区切り記号

1.1.1 句点、ピリオド　。.

横書き・縦書きに関わらず、中国語フォントの句点（中国語では「句号」と呼ぶ）に統一する。一部の繁体字フォントでは、句読点の位置が縦中央となる。

例①　奈良文化財研究所は、文化財を総合的に研究するための機関です。
（简）奈良文化财研究所是一个综合性的文化财研究机构。
（繁）奈良文化財研究所是一個綜合性的文化財研究機構。

1.1.2 読点、コンマ　、，

長文・複文の区切り（例①）は、横書き・縦書きに関わらず、中国語フォントによる全角コンマに統一する。ただし、複数列挙の場合（例①下線部）または箇

条書きの漢数字の後ろ（例②）に置くものは、読点（頓号）のままにする。隣接数字で大まかな範囲を表すとき、各数字の間に読点を置く（例③）。

例①　社寺、民家、近現代建築などの各時代の建物のみならず、時として土木遺産など、人工的な不動産物件を調査研究対象としています。

调查研究的对象不仅限于各个时代的神社、寺庙、民居、近现代建筑等，有时候还包括“土木遗产”等不可移动的人工建造物。

例②　第一、車寄

第二、掌典詰所

第一、门廊

第二、掌典（祭祀官）守候处

例③　三四回

三、四次

1.1.3 コロン、セミコロン　：；

中国語フォントによる全角のものに統一する。会話文の発話者や引用文の作者などを提示する場合は、言う・書くの動詞と会話文・引用文の間にコロンを置く（例①）。列挙や箇条書きの前に置く読点はコロンにし（例②）、改行しない箇条書きの項目を区切るための読点はセミコロンにする（例②下線部）。

例①　このような場合、「自分が確認したので、もう他の人は、確認のためにこの山道を登り下りする必要がない。世間のお役にたった。」と自分に言い聞かせています。

这种时候，我就会对自己说：“我来爬一次，其他人就不需要再爬上来确认了，这是为大家做了贡献。”

例②　主な活動としては、①外部からのお問い合わせについての対応、②文化財担当者等研修の企画調整、③『奈文研論叢』の編集があげられます。

主要活动包括：①处理外部咨询；②企划和协调面向文化财负责人等的研修课程；③编辑《奈文研论丛》。

1.1.4 中黒、中点　・

複数列挙の場合は中国語フォントによる読点（頓号）に統一する（例①）。中訳において、漢字圏以外の人名は漢字に音訳し、「名・姓」のように中黒を置く（例②）。漢数字の小数点に用いられる中点はそのままにする（例③）。中国語では、書名と編名、詩体名とタイトルなどの間に中点を置く（例④）。

例①　平城京の中央北端につくられた古代日本の政治・経済・文化の中心。

平城宫建于平城京北部中央位置，是古代日本的政治、经济、文化中心。

例②　ドナルド・キーン（Donald Keene）

唐纳德・基恩

例③　約三・六メートル

约三・六米

例④　周礼・考工記　沁园春・雪

《周礼・考工记》《沁园春・雪》

1.1.5 疑問符、感嘆符　？！

疑問符・感嘆符など感情または口調を表すものは全角のものに統一し、感情の度合いに合わせて一つ以上つける場合は、最多で三つまでとする。日本語原稿の場合、段落途中で使われる疑問符・感嘆符の後ろに全角スペースを入れる習慣があるが、中国語ではその必要がない。

例①　奈良時代を体験!!　人面墨書土器を描こう

体验奈良时代！！一起来画人面墨绘陶器吧！

1.1.6 斜線、逆斜線　／＼

日本語文章の斜線や逆斜線は半角スラッシュに統一する。

例①　大阪毎日新聞　昭和13年7月30日奈良版「銅に代わって―陶磁器の賞牌登場／松田正柏氏の研究」

《以陶瓷制品代替铜制奖牌/松田正柏的研究》（《大阪每日新闻》1938年7月30日奈良版）

1.2 くり返し符号　々〃ゝゞヽヾなど

中国語の正規表現では、くり返し符号は使用しない。日本語のくり返し符号は、形態に関わらず、必要に応じてくり返す部分の漢字を書き出すこととする。

例①　玄宮楽々園

玄宫乐乐园

1.3 つなぎ記号

1.3.1 ハイフン・ダーシなど連字符　- = ー—

人名に使われるハイフン・二重ハイフンは、中訳の際、いずれも半角ハイフンに統一する（例①）。文の末尾などに置く連字符（例②）は六点リーダーにする。主題と副題を区別するために使われる全角ダーシ・二倍ダーシなどは、主題と副題の間に置く二倍ダーシに統一する（例③）。また、オノマトペの長音記号も二倍ダーシにする（例④）。

例①　クロード・レヴィ＝ストロース（Claude Lévi-Strauss）
克洛德・列维-斯特劳斯

例②　木簡たちは、今度はどんな一面を、私たちに見せてくれるだろうか—
这些木简们今后将会向我们展示怎样的一面呢……

例③　「未来につなぐ平城宮跡—保存運動のあけぼの—」
《以平城宫遗址牵引未来——保存运动的曙光》

例④　ウーウー
呜——呜——

1.3.2 波線　～ ~

文章の中で範囲を表示する波線は、漢数字の場合は「至」に訳す（例①）。アラビア数字（例②）またはアルファベットの場合（例③）はダーシまたは半角波線にする。

例①　数十～数百年を通した年輪幅のパターン
数十至数百年的年轮宽窄模式

例②　2月・4月・7月・11月の第2月曜日（祝日の場合は翌日）、12/29~1/1
2月、4月、7月、11月的第二个周一（如遇节假日则顺延至次日），12/29－1/1

例③　井戸内の遺物は上からa～eの五層に分けて取り上げた。
井内遗物从上之下分为a~e五层，分层提取。

1.3.3 リーダー　… ……

中訳では六点リーダー（省略号 / 削節号）に統一する。文末のリーダーの後ろに句点がある場合は句点を省略する（例①）が、疑問符や感嘆符は保留する（例②）。

例①　果して手習いの成果は…。

习字的最终成果是……

例② まさか、古代の西大寺のお坊さんたちは、木簡などの証拠が残らぬように気を配りながら、コッソリと…!?

难道，是古代西大寺的僧侣们为了不留下木简之类的证据，悄悄地……！？

2 括弧類

2.1 引用符、括弧（角・亀甲・中・大） ‘ “ ” ( ) 〔 〕 [ ] { } 【 】

欧文と共通の引用符と括弧類（山括弧を除く）は中訳でもそのままにする。二個以上並ぶ時は読点で区切らない。中国語では、亀甲括弧は作者の時代、角括弧は作者の国籍を表記するのによく用いられる（例②）。

例① “第一次大極殿”“第二次大極殿”

“第一次大极殿”“第二次大极殿”

例② **［日］菅原道真 〔唐〕李白**

2.2 山括弧、二重山括弧 〈〉《》

見出しや箇条書きの番号に用いられる山括弧（例①）はそのままにしても構わないが、二重山括弧は中国語の文章において、もっぱらタイトル・書名の表記に用いられるため、使用を避ける。強調に用いられる山括弧（例②）または二重山括弧（例③）は、二重引用符に統一する。

例① 〈連載〉《1》《2》

〈连载〉〈1〉〈2〉

例② 現状で、最も実物の〈再現度〉の高いレプリカといえよう。

可以说，这是目前“还原度”最高的复制品。

例③ 《木簡》x《年輪年代学》、その行き着く先の未来や如何に!?

“木简”×“树轮年代学”，将会走向怎样的未来呢！？

2.3 鍵括弧、二重鍵括弧 「」『』

引用・強調を表す場合の鍵括弧（「」の中にさらに引用・強調があれば『』を使用）は、繁体字文ではそのままにし、簡体字文では中国語フォントによる二重引用符（“ ”の中にさらに引用・強調があれば‘ ’を使用）に統一し、二個以上並ぶときは読点で区切らない（例①）。タイトルの表記は、繁体字文では文章・個別な芸術作品に山括弧、書籍・戯曲・映画・音楽アルバムなど作品集に二重山括弧を

用いるが、簡体字文では基本全部二重山括弧に統一する（例②）。

例①　「古墳」「墓」「名勝地」「旧跡地」「宮跡」の保存に関する建議

（简）关于保存“古坟”“墓葬”“名胜”“古迹”“宫殿遗址”的建议

（繁）關於保存「古墳」「墓葬」「名勝」「古蹟」「宮殿遺址」的建議

例②　村上隆「『富本銭』の材質に関する材料科学的研究」『文化財論叢Ⅱ』2002。

（简）村上隆《“富本钱”材质的材料科学研究》，《文化财论丛II》2002。

（繁）村上隆〈「富本錢」材質的材料科學研究〉，《文化財論叢II》2002。

3 数学記号、学術記号、商用記号、その他しるし物　＋×≥%©→★♪など

中訳でもそのまま使用する。

文化財韓訳スタイル・マニュアル：約物編

扈 素妍†
† 奈良文化財研究所

Style Manual for Korean Texts on Cultural Heritage: Punctuation

Ho Soyeon†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

凡例
(1) 本マニュアルは、奈良文化財研究所多言語チームが推奨している文体や文法などのルールを記録したものである。
(2) 本マニュアル（約物編）は以下の規定・書籍を参考にした。
「한글 맞춤법」文化体育観光部告示第 2017-12 号（2017.3.28 施行）（*https://kornorms.korean.go.kr/regltn/regltnView.do* 2022.12.21 閲覧）
『2015 국립중앙박물관 전시품명칭용례집』（국립중앙박물관、2015）
(3) 使用する例文はすべて奈良文化財研究所の出版物による。個別の出典は省略した。
(4) 韓国語には全角の文字・記号・数字は使用しないため、韓国語訳における全ての約物は半角にすることを前提とする。

1 記述記号

1.1 区切り記号

1.1.1 句点、ピリオド　。.

韓国語では「。」を使用しないため、横書き・縦書きに関わらず、ハングルフォントの句点（마침표 , 온점）である「.」に統一する。「.」の後ろに再び文章が来る場合、「.」の後ろに半角スペースを入れる。

例①　奈良文化財研究所は、文化財を総合的に研究するための機関です。
訳例　나라문화재연구소는 문화재를 종합적으로 연구하기 위한 기관입니다.

1.1.2 読点、コンマ　、,

韓国語では文章の構成要素としてスペースを入れる方針が定められているため、読点（쉼표）・コンマは主に①名詞の列挙や順序を示す言葉の使用、②「곧」

（すなわち）、「다시 말해」（言い換えれば）のように繰り返して説明する副詞の前に、③文章の前部で助詞なしで登場した提示語・主題語の後ろに、④一つの文章に同じ意味の語句が繰り返される時に、⑤倒置文などに使われる。

以上で使用される場合、横書き・縦書きに関わらず、ハングルフォントによる半角コンマ（쉼표, 반점）である「,」に統一する。また、「,」の後ろに半角スペースを入れる。

例①　平城京は東西約 4.3km・南北約 4.8km の範囲を中心に、東側に東西約 1.6km・南北約2.1km の張り出し部分（外京）があり、北辺西側にも北辺坊とよぶ区画がありました。

訳例　헤이조경은 동서로 약 4.3km 남북으로 약 4.8km 크기의 지역을 중심으로, 동쪽에는 동서로 약 1.6km 남북으로 약 2.1km 의 돌출된 부분 (외경) 이 있었으며, 북측 가장자리의 서쪽에도 북변방 (北辺坊) 이라고 하는 구역이 있었습니다.

例②　第一、木簡
第二、古文書

訳例　첫째로, 목간
둘째로, 고문서

例③　三四回

訳例　3, 4 번

1.1.3 コロン、セミコロン　：；

韓国語ではセミコロンを文章記号としてほとんど使わないため、韓国語語文規範ではコロン（쌍점）「:」の使い方のみが規定されている。韓国語でコロンは、①用語に対する説明、②演劇などで登場人物の会話内容を示す時、③時・分・秒、巻・章・節の区切りの際、④「対」の代わりに使用する。文化財翻訳ではこの中で①が最も必要な用法で、日本語原文内容には含まれていない情報や定義などを伝える時に使用する（例①）。使用する時は、ハングルフォントの半角にして、「:」の後ろに半角スペースを入れる。

例①　また、近年では、地中レーダー（GPR）探査も実用化されている。

訳例　또한 , 최근에는 땅 속 레이더（GPR: 지표투과레이더）탐사도 실용화되어 있다.

1.1.4 中黒、中点　・

韓国語で中黒・中点（가운데점）は、①列挙された語句を一定の基準で束ねて表記する場合、②対となる語句の間、③共通成分を略して一つの語句にする場合に使用する。一方、韓国語では一般的な列挙の場合は中黒を使わずに、「,」を使う（例①）。また、②や③の場合も「・」の代わりに「,」を使える。

以上の用途に符合して中黒を使う時は、ハングルフォントの半角中点「･」に統一する（例②③）。

例①　平城京の中央北端につくられた古代日本の政治・経済・文化の中心である。

訳例　헤이조경 중앙 북단에 위치한 고대 일본의 정치 , 경제 , 문화의 중심지이다.

例②　緑・黄・青などの釉薬をかけた中国の陶器「唐三彩」をモデルに日本で「奈良三彩」が作られたのも、このような交流の成果でした。

訳例　초록・노랑・파랑 등의 유약을 바른 중국 도자기인「당삼채 (唐三彩)」를 모델로 일본에서「나라삼채 (奈良三彩)」가 만들어졌던 것도 이러한 교류의 성과입니다.

例③　第32・33・34巻

訳例①　제 32･33･34권

訳例②　제 32, 33, 34권

1.1.5 疑問符、感嘆符　？！

疑問符（물음표）、感嘆符（느낌표）など感情または口調を表すものはハングルフォントに沿って半角のものに統一する。また、段落途中で使われる疑問符・感嘆符のうしろに半角スペースを入れる。

例①　奈良時代を体験!!　人面墨書土器を描こう

訳例　나라시대를 체험! 인면 묵서 토기를 그려보자!

1.1.6 斜線、逆斜線　／＼

韓国語での斜線（빗금）「/」は、①対比される二つ以上の語句を束ねて表す、②基準の単位に当たる数量を表示する、③詩の行が変わる部分を表示するために使用する。使用するには、半角スラッシュ「/」に統一する。①と②の場合は「/」の後ろにスペースを入れない。③の場合は、原則的に「/」の後ろに半角スペースを入れる。

一方、韓国語では逆斜線をほぼ使用しないため、特に規定はない。日本語原文で逆斜線がある場合は、その使い方に応ずる韓国語の記号を選ぶか、そのまま使う場合は半角にする。

例①　『妙音寺／妙音時洞穴』
訳例　『묘온지 절(妙音寺)/묘온지 절 동혈(妙音時洞穴)』

1.2 くり返し符号　々〃ゝゞヽヾなど

韓国語では、くり返し符号というものがなく、使用しない。そのため、日本語のくり返し符号は形態に関わらず、その単語の意味を翻訳するか、固有名詞の場合くり返す部分の漢字を日本語発音のハングル読みで書き出すこととする。

例①　玄宮楽々園
訳例　겐큐라쿠라쿠엔(玄宮楽々園)

1.3 つなぎ記号

1.3.1 ハイフン・ダーシなど連字符　- = ー—

韓国語でハイフン（붙임표）「-」は、①順次に繋がる内容を一つに束ねて列挙する時、②二つ以上の語句が密接に関連していることを示すために使用する。また、ダーシ（줄표）「—」は、①副題を表記する時に、その前後につけて使う（例①）。一方、人名を表記する時にハイフンや二重ハイフンは使用しないため、適宜ハングル表記を探して表記する（例②）。日本語原文のままにハイフンと二重ハイフンを使用する時は、ハングルフォントの半角にする。

例①　「未来につなぐ平城宮跡—保存運動のあけぼの—」
訳例　《미래로 이어지는 헤이조궁터—보존 운동의 여명—》

例②　クロード・レヴィ＝ストロース（Claude Lévi-Strauss）
　訳例　클로드 레비스트로스

1.3.2 波線　～ ~

文章の中で範囲を表示する波線（물결표）は、韓国語でも期間・距離・範囲を表すために使う（例①）。また、破線のかわりにハイフンを使用することもできる。波線やハイフンを使用する時は、ハングルフォントの半角にする。

例①　12/29~1/1
　訳例①　12/29~1/1
　訳例②　12/29-1/1

1.3.3 リーダー　… ……

韓国語訳でのリーダー（줄임표）は原則的に六点リーダー、もしくは六点の句点（마침표）を使うが、三点リーダーの使用を許容されている場合は使っても問題ない。また、リーダーの後ろに句点がある場合は、ハングルフォントの句点（마침표, 온점）をつける（例①）。この場合は、リーダーの後ろにスペースを入れない。しかし、リーダーの後ろに文章が続く場合はリーダーの後ろに半角スペースを入れる。

例①　果して手習いの成果は…。
　訳例　연습의 성과는 과연…….

2 括弧類

2.1 引用符、括弧（角・亀甲・中・大）　‘ “” () 〔〕 [] {} 【】

韓国語では、“”は①会話文、②言葉や文章を直接引用する時に使用する。また、‘ は主に引用文の中の引用文を示す時に使用する。() の使い方は、日本とほぼ同様であるが、表記するときはハングルフォントの半角にする。二個以上並ぶ時はその間に半角スペースを入れる（例①）。〔〕は、[] と併用できる。[] は①括弧（）の中に括弧を使う時に外の括弧として使用（例②）、②固有のハングル言葉に対応する漢字語を併記する時に使用、③原文に説明や論評を付け足す時に使用する。

{}は①列挙された項目中一つを選べられると示す時に、②同じ範疇に属する多様な要素を束ねて縦で見せる時に使用する。

一方、韓国語では「【】」の使用に関する規定はない。日本語原文で「【】」がある場合は、その使い方に応ずる韓国語の記号を選ぶか、そのまま使う場合は半角にする。

例①　“第一次大極殿”“第二次大極殿”
訳例　“제 1차 다이고쿠덴”“제 2차 다이고쿠덴”

例②　707年（慶雲4）
訳例①　707년［케이운（慶雲）4］
訳例②　707년〔케이운（慶雲）4〕

2.2 二重鍵括弧、二重山括弧　『』《》

韓国語では、二重鍵括弧（겹낫표）と二重山括弧（겹화살괄호）を書籍の題目や新聞の名前を表記する時に使用する（例①）。そのため、日本語原文で『』《》を別の用度で使った場合は他の括弧を使用することを勧める。使用する時は、ハングルフォントの半角にする。

例①　『大阪毎日新聞』
訳例　『오사카 마이니치신문』
訳例　《오사카 마이니치신문》

2.3 山括弧、鍵括弧　＜＞「」

韓国語では、山括弧（홑화살괄호）と鍵括弧（홑낫표）を小見出し、絵や音楽曲のような芸術作品の題目、商号、法律、規定などを示す時に併用する（例①）。また、山括弧と鍵括弧の代わりに‘’の使用も許容されている。日本語原文で引用・強調を表すために鍵括弧「」を使った場合は、韓国語訳する際には、“”を使い、“”の中にさらに引用・強調があれば‘’を使用することを勧める。使用する時は、ハングルフォントの半角にする。 また、二個以上の記号が並ぶときは、閉ざす括弧と次の開く括弧の間に半角スペースを入れる（例②）。

例①　緑・黄・青などの釉薬をかけた中国の陶器「唐三彩」をモデルに日本で

「奈良三彩」が作られたのも、このような交流の成果でした。

訳例　초록・노랑・파랑 등의 유약을 바른 중국 도자기인「당삼채 (唐三彩)」를 모델로 일본에서「나라삼채 (奈良三彩)」가 만들어졌던 것도 이러한 교류의 성과입니다.

例②　村上隆「『富本銭』の材質に関する材料科学的研究」『文化財論叢Ⅱ』2002。

訳例①　무라카미 타카시（村上隆）＜“후혼센（富本銭)”의 재질에 관한 재료과학적 연구＞,《문화재논총Ⅱ》2002。

訳例②　무라카미 타카시（村上隆）「『후혼센（富本銭)』의 재질에 관한 재료과학적 연구」『문화재논총Ⅱ』2002。

3 数学記号、学術記号、商用記号、その他しるし物　＋×≥%©→★♪など

韓国語訳でもそのまま使用するが、すべてハングルフォントにして半角で統一する。

Style Manual for English Texts on Cultural Heritage (English ed.)

Rebekah Harmon†, Peter Yanase‡
† WritingWise
‡ Nara National Research Institute for Cultural Properties

文化財英訳スタイル・マニュアル（英語版）

Rebekah Harmon†, Peter Yanase‡
† WritingWise
‡ 奈良文化財研究所

This manual documents the general guidelines regarding the development of English texts concerning cultural heritage as recommended by the multilingualization team of the Nara National Research Institute for Cultural Properties (NABUNKEN).

1 Normative References

1.1 Style Manuals

Follow the latest edition of the *Chicago Manual of Style* (*CMOS*), the *Monumenta Nipponica Style Sheet* (*MNSS*), and the *Japan Style Sheet*, in that order, for items not covered in this manual.

1.2 Dictionary

Use the online version of *Merriam-Webster.com Dictionary* (*MWD*) (*https://www.merriam-webster.com/*) for all spellings and non-technical definitions.

1.3 Glossaries

For general terms related to Japanese art, see *Japanese to English Translation at the Tokyo National Museum* (*https://webarchives.tnm.jp/research/details?id=2041*). For Nara period *ritsuryō* state agencies see "A Japanese-English Glossary of Terminology Related to the Central Government During the Nara Period" (*https://sitereports.nabunken.go.jp/en/article/15041*).

2 Romanization

2.1 Romanization of Japanese

2.1.1 General Rules of Romanization

Refer to the chart below for romanization.

a（ア）	i（イ）	u（ウ）	e（エ）	o（オ）
ka（カ）	ki（キ）	ku（ク）	ke（ケ）	ko（コ）
sa（サ）	shi（シ）	su（ス）	se（セ）	so（ソ）
ta（タ） tsa（ツァ）	chi（チ） ti（ティ）	tsu（ツ） tu（トゥ）	te（テ） tse（ツェ）	to（ト） tso（ツォ）
na（ナ）	ni（ニ）	nu（ヌ）	ne（ネ）	no（ノ）
ha（ハ） fa（ファ）	hi（ヒ） fi（フィ）	fu（フ）	he（ヘ） fe（フェ）	ho（ホ） fo（フォ）
ma（マ）	mi（ミ）	mu（ム）	me（メ）	mo（モ）
ya（ヤ）		yu（ユ）		yo（ヨ）
ra（ラ）	ri（リ）	ru（ル）	re（レ）	ro（ロ）
wa（ワ）				
ga（ガ）	gi（ギ）	gu（グ）	ge（ゲ）	go（ゴ）
za（ザ）	ji（ジ）	zu（ズ）	ze（ゼ）	zo（ゾ）
da（ダ）	ji（ヂ） di（ディ）	zu（ヅ） du（ドゥ） dyu（デュ）	de（デ）	do（ド）
ba（バ）	bi（ビ）	bu（ブ）	be（ベ）	bo（ボ）
pa（パ）	pi（ピ）	pu（プ）	pe（ペ）	po（ポ）
kya（キャ）		kyu（キュ）		kyo（キョ）
sha（シャ）		shu（シュ）	she（シェ）	sho（ショ）
cha（チャ）		chu（チュ）	che（チェ）	cho（チョ）
nya（ニャ）		nyu（ニュ）		nyo（ニョ）
hya（ヒャ）		hyu（ヒュ） fyu（フュ）		hyo（ヒョ）
mya（ミャ）		myu（ミュ）		myo（ミョ）
rya（リャ）		ryu（リュ）		ryo（リョ）
gya（ギャ）		gyu（ギュ）		gyo（ギョ）

ja	（ジャ）		ju	（ジュ）	je	（ジェ）	jo	（ジョ）
bya	（ビャ）		byu	（ビュ）			byo	（ビョ）
pya	（ピャ）		pyu	（ピュ）			pyo	（ピョ）

The chart is adapted from *Kenkyusha's New Japanese-English Dictionary* (5th ed.)

Use "n" *not* "m" before a "b," "m," or "p."

漢文	*kanbun*	*not*	*kambun*
天平	Tenpyō	*not*	Tempyō
天武	Tenmu	*not*	Temmu

Use an apostrophe after an "n" when the following syllable starts with a "y" or a vowel.

万葉集	Man'yōshū	*not*	Manyōshū
純一郎	Jun'ichirō	*not*	Junichirō
善意	*zen'i*	*not*	*zeni*

To mark a geminate consonant, double the first character of the relevant consonant.

毬杖	*gicchō*
木簡	*mokkan*
骨董品	*kottōhin*
漆器	*shikki*
実測図	*jissokuzu*

Use macrons to indicate adjacent vowels forming a long sound that do not extend beyond morpheme boundaries. As a rule of thumb, a new Chinese character usually overlaps with the start of a new morpheme.

新嘗祭	Nīnamesai
委員会	*iinkai*
鳳凰	*hōō*
鳥居	*torii*
シーサー	*shīsā*

呉音　*goon*
灯篭　*tōrō*
象形銅器　*shōkei dōki*

2.1.2 Word Division

Divide romanized Japanese according to units of meaning and grammar. Further divide overly long chains of letters for ease of reading.

放射性炭素年代測定　*hōshasei tanso nendai sokutei*
年輪年代学　*nenrin nendaigaku*
キトラ古墳天文図星座写真資料　Kitora kofun tenmonzu seiza shashin shiryō

2.1.3 English Words of Japanese Origin

Many Japanese words, such as “bonsai,” “rickshaw,” “origami,” or “Bunraku” have entered the English language. Treat these as English translations, not romanizations, of the relevant Japanese words. Follow the spelling and capitalization seen in the *MWD* and do *not* italicize. When multiple variants are listed in the *MWD*, follow the entry with the definition of the word. Consider whether the readership would be familiar with the anglicized term, if not, consider romanizing and explaining the Japanese term or using an alternative translation.

Frequently appearing English words of Japanese origin:

aikido, adzuki bean, anime, banzai, bento box, bonsai, Bunraku, Bushido, daikon, daimyo, dashi, dojo, enoki mushroom, emoji, fugu, fusuma, futon, geisha, geta, genro, ginkgo, Go, haiku, harakiri, hibachi, hiragana, ikebana, Imari, inro, judo, jujitsu, Kabuki, kakemono, kaki, kami, kamikaze, kana, kanji, karaoke, karate, katakana, katana, kendo, kimono, koi, kombu, koto, makimono, manga, matcha, matsutake, medaka, miso, mochi, netsuke, ninja, Noh, nori, nunchaku, obi, origami, pachinko, ramen, Romaji, sake, salaryman, samurai, sashimi, satori, senryu, seppuku, shamisen, shiatsu, shiitake, Shinto, shogun, shoji, sudoku, sukiyaki, sumi-e, sumo, surimi, sushi, tanka, tatami, tempura, teriyaki, tofu, tokonoma, torii, tsunami, typhoon, udon, ukiyo-e, umami, urushi, wakame, wasabi, yakuza, zaibatsu, Zen, zori

2.1.4 Pluralization

Never pluralize romanized Japanese words. As a general rule, do *not* pluralize English words of Japanese origin.

	Many geisha and samurai read *kusazōshi*.
not	Many geishas and samurais read *kusazōshis*.

2.2 Romanization of Chinese

Use Hanyu Pinyin *without* diacritics.

2.3 Romanization of Korean

Use the Revised Romanization of Korean system, as adopted by the South Korean government since 2000. For details, refer to the website of the National Institute of Korean Language (*https://www.korean.go.kr/front_eng/roman/roman_01.do*).

2.4 Romanization of Sanskrit

Use the International Alphabet of Sanskrit Transliteration with diacritics. Do *not* pluralize transliterated Sanskrit terms but pluralize English words of Sanskrit origin that appear in the *MWD*, such as “deva,” “guru,” or “Buddha.”

五智如来		the Five Tathāgata Buddhas
	not	the Five Tathāgatas
二十四諸天		the Twenty-Four Devas
	not	the Twenty-Four Deva

3 Italicization and Capitalization of Non-English Terms and Names

3.1 General Rules

Italicize but do *not* capitalize Japanese or any other non-English terms.

tachi, kosode, makie, tantō, gigaku, bugaku, sugoroku, gicchō, gogok, shoujuan

Capitalize but do *not* italicize proper names.

Reiwa, Ainu, Shikoku, Sekino Tadashi, Izanaikan

3.2 Ceramics

Italicize only non-English parts of translated terms. Capitalize but do *not* italicize proper nouns inside the terms. Do *not* italicize English words of Japanese origin, such as “raku.” Follow the established capitalization of “Jōmon.”

縄文土器	Jōmon ware
弥生土器	Yayoi ware
須恵器	*sue* ware
土師器	*haji* ware
唐三彩	Tang *sancai*
有田焼	Arita ware
楽焼	raku ware

4 Abbreviations

4.1 General Rules

Use periods with abbreviations that end in a lowercase letter. Do *not* add space between the period and the next letter of the abbreviation.

et al., ibid., p., pp., i.e., e.g., etc., a.k.a., a.m., p.m., Dr., Ms.

Do *not* use periods with abbreviations that include at least two capital letters.

PhD, US, UNESCO, NICH

4.2 Names

Use periods for initials, and add a space after every initial. However, do not add periods or spaces when the full name is abbreviated.

	C. R. Darwin
but	CRD

5 Names, Epithets, Art Names, and Titles

5.1 Names of People

5.1.1 General Rules

Romanize names according to the rules of the given language. For Japanese, Chinese, and Korean names, the family name should precede the given name.

平田篤胤	Hirata Atsutane	*not*	Atsutane Hirata
棚田嘉十郎	Tanada Kajūrō	*not*	Tanada Kajuro

For people known by several different names, use the one that is most widely used in English literature.

孫文	Sun Yat-sen	*not*	Sun Wen
小泉八雲	Lafcadio Hearn	*not*	Koizumi Yakumō

5.1.2 Names of Historical and Semi-Legendary Figures

Do not hyphenate "*no*" in historical names, epithets, and titles.

蘇我倉山田石川麻呂	Soga no Kurayamada no Ishikawamaro
平将門	Taira no Masakado
中大兄皇子	Prince Naka no Ōe

Treat epithets and titles as personal names when they are used as such.

紫式部	Murasaki Shikibu
清少納言	Sei Shōnagon

As a general rule, identify historical and semi-legendary figures by the name they are known by in their region of origin. The Japanese name may be used when the figure only achieved renown in Japan and their name in their region of origin is unclear.

鑑真	Jianzhen
曇徴	Damjing
道鏡	Dōkyō

5.1.3 Kabuki Actors

For Kabuki actors, use uppercased roman numerals to indicate their generation in a lineage.

初代　市川團十郎	Ichikawa Danjūrō I
五代目　市川團十郎	Ichikawa Danjūrō V
七代目　片岡仁左衛門	Kataoka Nizaemon VII

5.1.4 Ukiyo-e Designers

As a general rule, omit the name of the school to which the designer belongs to. From the second generation onward, use uppercased roman numerals to indicate the designer's generation.

喜多川歌麿	Utamaro
二代目　喜多川歌麿	Utamaro II
葛飾北斎	Hokusai
二代目　葛飾北斎	Hokusai II
五代目　歌川国政	Kunimasa V

5.2 Titles

5.2.1 General Rules

Capitalize a title when it is used as part of a person's name. Do *not* capitalize titles that appear on their own or when a title appears in front of a name as an appositive.

岸田総理	Prime Minister Kishida
西太后	Empress Dowager Cixi
博物館の館長	the executive director of the museum
清の皇帝	the Qing emperor
小泉純一郎・菅直人元首相	former prime ministers Koizumi Junichirō and Naoto Kan

5.2.2 Japanese Imperial Titles

Use the following translations for the various imperial titles:

王、皇子、親王	Prince
皇女、内親王、女王	Princess
皇后	Empress

天皇	Emperor / Empress Regnant

Use hyphens in emperors' names that include the prefix "*go*" (as in "later") and capitalize both elements. For abdicated emperors, use the term "retired." When referring to several past *tennō* that includes empress regnants as well, refer to them collectively as "sovereigns."

後桜町天	Empress Regnant Go-Sakuramachi
後白河院	Retired Emperor Go-Shirakawa
光格上皇	Retired Emperor Kōkaku

6 Schools and Lineages

Use established terms whenever possible. When relevant, include information about what the school or lineage specializes in.

狩野派	the Kanō school of painting
木挽町狩野家	the Kobikichō branch of the Kanō school
楽家	the Raku family of potters

Omit the term "generation" when describing generational heads of schools and lineages whenever possible.

樂家第七代	the seventh head of the Raku family
木挽町狩野家第四代	the fourth head of the Kobikichō branch of the Kanō school

7 Names of Deities, Semi-Deified Beings, Legendary Creatures, etc.

Identify deities, semi-deified beings, legendary creatures and the like by the names used in the regions where they originate from to put them into a global context. Add descriptors at first mention, e.g., "the buddha Amitābha," "the bodhisattva Avalokiteśvara." When established English translations exist, use those instead.

大日如来	Vairocana	*not*	Dainichi Nyorai
地蔵菩薩	Kṣitigarbha	*not*	Jizō
鳳凰	*fenghuang*	*not*	*hōō*

朱雀	Vermilion Bird	*not*	Suzaku

You can include the Japanese name in parenthesis on first mention if needed.

朱雀	Vermilion Bird (Jp. Suzaku)
鳳凰	*fenghuang* (Jp. *hōō*)

If you need to use the Japanese name, include the non-Japanese name in parenthesis on first mention.

朱雀	Suzaku (Vermilion Bird)
鳳凰	*hōō* (Ch. *fenghuang*)
地蔵菩薩	Jizō (Sk. Kṣitigarbha)

Use the follwing abbreviations for these four languages:

Chinese:	Ch.
Japanese:	Jp.
Korean:	Kr.
Sanskrit:	Sk.

8 Religions, Religious Groups, Schools of Thought, and Their Followers

Capitalize the names of religions, religious groups, schools of thought, and the terms referring to their followers and practitioners. Note that the terms for lay people adhering to specific doctrines and ordained members of the clergy often differ.

Religion:	*Follower/practitioner*:
Shinto	Shinto practitioner
Buddhism	Buddhist
Tendai Buddhism	Tendai Buddhist
Shugendō	Shugendō practitioner
Christianity	Christian
Islam	Muslim
Confucianism	Confucian

Neo-Confucianism	Neo-Confucian
Taoism	Taoist

9 Names of Places

9.1 Japanese Place Names

9.1.1 General Rules

For geographical names that appear in the *MWD*, follow the given spelling.

九州	Kyushu
北海道	Hokkaido
新潟	Niigata
本州	Honshu
東京	Tokyo
大阪	Osaka
京都	Kyoto

9.1.2 Topographical Names

Replace suffixes indicating topographical features with their English equivalents whenever possible. However, in accordance with the policies of the Geospatial Information Authority of Japan, if a Japanese person would have difficulty recognizing a place name without the topographical feature's suffix in Japanese, add the English term to the end of the full name after the romanized Japanese. Also retain the original Japanese place name and add an English term if the original name does not indicate the type of topographical feature described. Follow the flow-chart provided by GSI when in doubt.[1]

Replace:

多摩川	Tama River
富士山	Mount Fuji
東京湾	Tokyo Bay
那珂川	Naka River

[1] See *Chimei tō no eigo hyōki rūru no gaiyō* for the chart and *Chimei tō no eigo hyōki kitei* for a detailed explanation, both available at the GSI website (*https://www.gsi.go.jp/top.html*).

Add:

荒川	Arakawa River
霞ヶ浦	Lake Kasumigaura
中川	Nakagawa River
八重干瀬	Yabiji Coral Reef

9.1.3 Administrative Divisions

Replace words indicating administrative divisions with their English equivalents, unless it would lead to confusion. As a general rule, omit “village,” “town,” and “city.” Capitalize official terms, but do not capitalize unofficial terms, such as “domain.”

奈良市	Nara		
奈良県	Nara Prefecture		
出雲国	Izumo Province		
加賀藩	Kaga domain		
国分寺市	Kokubunji City	*or*	city of Kokubunji

9.1.4 Stations

Use the official/established English translation/romanization to avoid confusion. When the local bus stop is written differently from how it is written on the website of the bus line, use the one from the website as tourists will most likely use the Internet to find their way around Japan.

佐紀町・大極殿	Saki-cho/Daigokuden
大和西大寺駅	Yamato-Saidaiji Station

9.1.5 Roads and Highways

For names of roads and highways refer to available online maps but add macrons to the romanized part of the names.

9.1.6 Names of Parks, Schools, Museums, etc.

Whenever available, always use the official English translation.

平城宮跡歴史公園	Nara Palace Site Historical Park
平城宮跡資料館	Nara Palace Site Museum

奈良先端科学技術大学大学院　Nara Institute of Science and Technology

9.1.7 Names of Shinto and Buddhist Religious Institutions

As a general rule, replace the suffixes indicating the type of institution with the appropriate translation. When retaining the suffixes, do *not* hyphenate them, and add the relevant English translation. Always retain "*ji*," "*gū*," "*in*," and "*dera*." For Buddhist institutions, only add the relevant English noun on maps. In running text, add an explanatory phrase, such as "the temple of," on first mention. If a religious institution indicates a specific preference when lending a work of art or sponsoring an exhibition, follow that.

	On maps:	*In running text*:
八幡宮	Hachimangū Shrine	Hachimangū Shrine
熱田神社	Atsuta Shrine	Atsuta Shrine
出雲大社	Izumo Grand Shrine	Izumo Grand Shrine
東大寺	Tōdaiji Temple	Tōdaiji
清水寺	Kiyomizudera Temple	Kiyomizudera

9.2 Non-Japanese Geographical Names

Use the standard modern English term and spelling for city and region names.

北京	Beijing	*not*	Peking
ブルターニュ	Brittany	*not*	Bretagne

Refer to regions with multiple possible readings in standard English using all possible readings separated by slashes, unless specifically told not to do so.

渤海　Balhae/Bohai

10 Literary Works

Use established English translations for titles of literary works, chapter titles within works, and names of characters when published translations exist.

11 Dates, Times, Periods

11.1 Dates

11.1.1 Gregorian Calendar

Follow the American standard month-day-year style specified in *CMOS* for writing dates. Separate the day of the week, the date, and the year with a comma, but not the month and the day or the month and the year. Do *not* include days of the week or regnal years, unless they are contextually important or further the understanding of the subject at hand.

1990年1月1日	January 1, 1990
2021年4月	April 2021
令和3年1月1日（金）	January 1, 2021

If including the day:

2021年4月22日（木）	Thursday, April 22, 2021

Use “BCE” and “CE” abbreviated without periods to indicate dates before and after year one according to the Gregorian calendar.

前10000年頃	ca. 10, 000 BCE
662年	662 CE

11.1.2 Lunar Calendar

Do *not* use Gregorian calendar months to describe lunar calendar months, i.e., for dates prior to 1873. Use the regnal years when mentioning lunar calendars months. Convert the date to the Gregorian calendar and put it in parenthesis. (Refer to the *Japanese Calendar Database* published by the National Astronomical Observatory of Japan: *https://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/caldb_en.cgi*)

延暦13年10月22日	tenth month, twenty-second day of Enryaku 13 (November 18, 794)
not	October 22, 794

11.2 Times

Use a.m./p.m. notation for museum times.

8時	8:00 a.m.
17：00	5:00 p.m.

11.3 Date Spans and Time Spans

Use an en dash (–) to indicate date and time spans. Do *not* repeat month, year, a.m./p.m., and BCE/CE designation when the specified dates and times fall under the same category. Do *not* repeat words referring to time spans, such as "millennium," "century," or "decade," unless one is BCE while the other is CE.

令和3年（2021年）1月2日（土）～1月31日（日）
January 2–31, 2021

2020年6月16日（火）～2020年7月23日（木）
June 16–July 23, 2020

2019年12月19日（木）～2020年1月15日（水）
December 19, 2019–January 15, 2020

前5世紀頃～後3世紀頃	ca. 5th century BCE–3rd century CE
7世紀頃～10世紀頃	ca. 7th–10th century CE
前6千年紀～前2千年紀	6th–2nd millennium BCE
9：30～17：00	9:30 a.m.–5:00 p.m.
13時半～14時	1:30–2:00 p.m.

Do *not* repeat numbers indicating centuries and decades when a span of years falls within the same century or decade.

1823～80	1823–80
1861～63	1861–3

11.4 Japanese Time Periods

Whenever context allows, replace names of Japanese time periods with the appropriate centuries to facilitate understanding.

奈良時代　eighth century　*not*　Nara period

If using Japanese time periods in running text, always include the year span in parentheses on the first instance. See the following chart for established time periods.

旧石器時代	(Japanese) Paleolithic (ca. 35,500–14,000 BCE)
縄文時代	Jōmon period (ca. 14,000–800 BCE)
続縄文時代	Epi-Jōmon period (ca. 5th century BCE–7th century CE)
（沖縄）貝塚時代	Shellmound period (ca. 14,000 BCE–10th century CE)
弥生時代	Yayoi period (ca. 8th century BCE–3rd century CE)
古代	Classical Japan (ca. 6th–12th century)
古墳時代	Kofun period (ca. 3rd–6th century)
オホーツク文化期	Okhotsk period (ca. 5th–9th century)
飛鳥時代	Asuka period (592–710)
擦文時代	Satsumon period (ca. 7th–13th century)
奈良時代	Nara period (710–794)
平安時代	Heian period (794–1185)
トビニタイ文化期	Tobinitai period (ca. 10th–13th century)
グスク時代	Gusuku period (ca. 10th–15th century)
アイヌ文化期	Ainu period (ca. 13th–19th century)
中世	Feudal Japan (ca. 12th–16th century)
鎌倉時代	Kamakura period (1185–1333)
南北朝時代	Nanbokuchō period (1333–1392)
室町時代	Muromachi period (1392–1573)
戦国時代	Warring States period (ca. 15th–16th century)
琉球王朝	Ryūkyū Kingdom (ca. 15th–19th century)
安土桃山時代	Azuchi-Momoyama period (1573–1603)
近世	Early modern Japan (ca. 16th–19th century)
江戸時代	Edo period (1603–1868)
近代	Modern Japan (ca. 19th century–1945)
明治期	Meiji era (1868–1912)
大正期	Taishō era (1912–1926)
昭和期	Shōwa era (1926–1989)
平成期	Heisei era (1989–2019)
令和期	Reiwa era (2019–)

12 Historical Events

Treat major historical events as proper names, capitalize but do *not* italicize.

Meiji Restoration, Genpei War, Siege of Odawara, Battle of Sekigahara

13 Numbers and Units of Measurement

13.1 General Rules

Spell out whole numbers from zero through one hundred. Spell out whole numbers followed by "hundred," "thousand," and "hundred thousand." Use numerals for whole numbers followed by "million," "billion," and so forth. Do not spell out dates. For ease of reading, it is acceptable to use numerals for any number when multiple numbers appear in a single text (refer to the *CMOS* for details).

78歳	seventy-eight years old
221か所	221 places
2億	200 million

Always spell out numbers that appear at the beginning of a sentence or recast the sentence to avoid starting with a number.

	The year 2022 marks the 70th anniversary of...
not	2022 is the 70th anniversary of...

Use commas in numerals with four or more digits, including ordinal numbers, but excluding years. However, use commas in years of five digits or more.

1200周年	1,200th anniversary
1989年	1989
前22000年頃	22,000 BCE
前3200年頃	3200 BCE

13.2 Ordinals

Spell out ordinals, excluding centuries in tombstone details and centuries in parentheses. Do not use superscripts.

樂家第四代	the fourth head of the Raku family
7日目	the seventh day
15世紀	the fifteenth century

Use the plural form when denoting more than one century with ordinals combined with the term “and,” and when denoting a span of centuries with the term “through.” However, use the singular form for ranges expressed with “to,” alternatives expressed with “or,” and in compound modifiers.

12世紀および18世紀		in the twelfth and eighteenth centuries
8〜10世紀		in the eighth through tenth centuries
	but	from the eighth to tenth century
16世紀または17世紀		in the sixteenth or seventeenth century
17世紀と18世紀のファッション		seventeenth- and eighteenth-century fashions

13.3 Units of Measurement and Currency

Do *not* include the original measurement or currency unless the inclusion is contextually justified.

一尺	one *shaku* (about 29.7 cm)

Do *not* use periods for metric abbreviations but do use periods for imperial abbreviations.

12 in.
1 ft.
10 mm
1 m

Do *not* add a space between numbers and symbols of units of measurements (such as percentage, degree, prime, double prime), but do add a space between numbers and abbreviations of units of measurements.

50%
34° 41′ 30″ N 135° 47′ 17″ E
90°
23 kg

108 cm

14 Symbols and Punctuation

14.1 CJK-specific Characters in English Text

Do *not* use CJK-specific symbols, punctuation, or alphanumerics in English text. Either replace or omit as appropriate. When lenticular brackets (【】) are used for emphasis in the Japanese text, omit them in the English version and consider changing the font style for the emphasized words. In time spans, replace the wave dash (〜) with an en dash (–). Use letters to represent Roman numerals and do *not* use pre-combined Roman numerals, i.e., use "I," "II," "III," or "i," "ii," "iii," and do *not* use "Ⅰ," "Ⅱ," "Ⅲ."

Examples of CJK-specific characters:

、。：．…・／）－１２３①②③ⅠⅡⅢ「」【】『』〜※■○◆

14.2 Quotation Marks

Place punctuation inside quotation marks, excluding cases where the punctuation is part of a verbatim quote.

The term *shintō* is often translated as "the way of the gods."

Many Japanese words, such as "bonsai," "rickshaw," "origami," or "Bunraku" have entered the English language.

14.3 Parentheses

Always precede opening parentheses with a space. Do *not* follow opening parentheses with a space. Do *not* precede closing parentheses with a space. Always follow closing parentheses with a space, excluding cases where the next character is punctuation.

More information is available on our website (in Japanese).

The mythological bird *fenghuang* (Jp. *hōō*) is often, misleadingly, called "Chinese phoenix."

15 Lists

15.1 Ordered Lists

Use numerals or alphabetic characters for ordered lists.

1. 2. 3.　　1) 2) 3)　　a) b) c)　　I II III　　i ii iii

15.2 Unordered Lists

Use bullet points or hyphens for unordered lists. Stars, hearts, or other unorthodox shapes should be limited to publications aimed at children. In either case, consistent use of the same symbol is preferred. However, if a list is nested within another list, a change in symbol may be a useful visual cue to the reader.

Both of these are right:

Low-Pressure Mount
- Acrylic panel
- Backboard
  - pH-neutral honeycomb board

Low-Pressure Mount
- Acrylic panel
- Backboard
  - pH-neutral honeycomb board

15.3 Series Comma

Use the series comma (Oxford comma) when listing three or more items. The Oxford comma is falling out of favor in certain circles, but museum texts often include lengthy lists of motifs or techniques, and the Oxford comma removes any ambiguity that might be created by not using it.

Porcelain, gold, glass, jade, etc., were placed in the tombs of elite rulers.

15.4 Use of “etc.”

When using “etc.” in a list in running text, precede and follow it with a comma. If it comes at the end of a sentence, a second period is not needed.

Common floral motifs include peonies, chrysanthemums, camellias, etc.

Write the title of all relevant books, articles, presentations, etc., in the space provided.

Japanese texts use the term *tō/nado* much more often than the term "etc." is used in English. As noted in the *CMOS*, the term "etc." is not typically used in formal writing in English. When possible, recast the sentence as a list of examples to avoid using the term "etc." The terms "such as," "including," and "like" can often be used to achieve a similarly open-ended meaning.

Original:

Porcelain, gold, glass, jade, etc., were placed in the tombs of elite rulers.

Recast:

Valuable objects such as porcelain, gold, glass, and jade were placed in the tombs of elite rulers.

16 Exhibition and Object Titles

16.1 Capitalization

Follow the *CMOS* headline-style capitalization for titles of exhibitions, artworks, books, etc., but use sentence-style capitalization for descriptive object names.

Box-shaped clay artifact

Great Perfection of Wisdom Sutra

Italicize any word that would be italicized in running text. If the whole title is italicized, use roman type for words that would be italicized in running text.

Deities Depicted in the *Records of Ancient Matters*
or *Deities Depicted in the* Records of Ancient Matters

16.2 Punctuation of Titles

Use a colon to separate multipart titles written on the same line. An em dash (—) may be used in place of a colon when aesthetically preferable, but should be avoided as a general rule. When modifiers are displayed on the same line as the title, an em dash is permitted to avoid using two colons in one line. Also consider changing the spacing or font, or adding a new line, for a more readable arrangement. Do *not* use colons or em dashes if you add a new line.

文化財多言語化のための英文タイポグラフィ入門

Peter Yanase†
†奈良文化財研究所

キーワード：タイポグラフィ、デザイン、多言語化

Typography for English Texts Related to Cultural Heritage

Peter Yanase†
† Nara National Research Institute for Cultural Properties

Keywords: typography, design, multilingualization

はじめに

近年は文化庁と観光庁の取り組みの影響で良質な多言語解説文は増えてきている。その一方で、最終的に公開されている成果物には、それぞれの言語の基本的なタイポグラフィのルールを守らないため、大変読みにくくなっているものが多い。これを改善するために文化庁は令和２年に「文化財の多言語解説案内の制作指針」を公開し、解説案内板の制作指針と英文タイポグラフィの基本マナーを簡略に解説している。ただ、本指針には英文タイポグラフィに関する具体的なアドバイスが述べられていない。そのため、本稿は、日本で最も広く使われている日本語版 Adobe InDesign の設定に沿って基本的な英文タイポグラフィを解説する。

InDesignの基本設定

日本でよく見かける残念な英文組版のほとんどは、デザイナーがそもそもソフトを英文組版用に設定していないことから生じたと考えられる。逆に言えば、基本設定さえしっかり行えば、熟練したタイポグラファーが作る文字組と同じにはならないものの、致命的なミスがほとんどない改善された組版が出来上がる。

1 文字パネル

1.1 フォントと文字サイズ

読みやすいタイポグラフィの第一歩は適切なフォントと文字サイズの選択である。文字サイズは用途とテキストの読者との距離などに合わせて選ぶものであるが、本文の文字サイズの目安としては、刊行物の場合は9～12ポイント、展示室の題箋などの場合は18～20ポイントが一般的である。ただし、同じポイントサイズでも、書体によっては大きさは全く違って見えることに注意が必要である。

Our Institute was established in 1952 as an auxiliary organization under the National Commission for Cultural Properties (the later Agency for Cultural Affairs).

Our Institute was established in 1952 as an auxiliary organization under the National Commission for Cultural Properties (the later Agency for Cultural Affairs).

図1　左右の文字組はフォントだけが異なり、文字サイズ、行送り、カーニングなどの設定は全く同じである。

つまり、ポイントサイズより、エックスハイト（小文字の高さ）の方が書体の視覚的な大きさを決める。とはいえ、エックスハイトが大文字の高さに近すぎると、今度は大文字と小文字の区別が難しくなる。また、解説文にはローマ字表記を入れるならマクロンが必要となるし、仏教用語をサンスクリット語で表記するなら専用のダイアクリティカルマークが必要となるかもしれない。各条件を満たしたフォントを選ぶ必要があるので、選択肢を慎重に検討しよう。ちなみに、奈文研の多言語化チームはNotoとSourceの二つのフォントファミリーをよく使用する。（実は、NotoとSourceはかなり複雑に絡み合っている。具体的に説明すると話が長くなるので、Noto Sans/SerifとNoto Sans/Serif JP【別名：源ノ明朝/Source Han Serifと源ノ角ゴシック / Source Han Sans】に含まれている英語のフォントは全くの別物であることだけを覚えていただきたい。JPの方には、ダイアクリティカルマークも、後程に述べるオルドスタイル数字も含まれていない。そもそも、太さ、サイズはもちろんのこと、デザインまで違う。そのためJPと無印の間には代替性が全くないので、取り扱いの際は注意が必要である。）

1.2 言語

言語は「英語：米国」を選択しよう。文化庁・観光庁が多言語化に関しては様々なガイダンスを公開しているが、どれも米国の英語の使用を前提しているのが一

貫している。何らかの事情であえて別の地域の方言を使いたい場合は、該当する方言を選択しよう。

1.3 カーニング

カーニングは迷わず「メトリクス」を選択しよう。「メトリクス」はフォントデザイナーがフォントに組み込んだ最良の設定である。

1.4 行送り

最新版の日本語版 InDesign の行送りの初期設定は文字サイズの 175 %になっている。これは英語にしては広すぎる。行送りをいったん英語版 InDesign の初期設定である文字サイズの 120 %に設定し、必要に応じて微調整しよう。例えば、エックスハイトが高いフォントを使う場合、1 行が長い場合や文字サイズが小さい場合は行送りをもっと広く設定する必要がある。テキストを実際読んでみて、行を読んでいる途中で目が違う行に飛ぶか、間違えて同じ行を二回読んでしまいそうになったら、行送りが狭すぎる可能性が高い。ちなみに、読みやすい行の長さは 45 ～ 75 文字ぐらいと言われているので、1 行が 90 文字を超えたら、二段組に切り替えるか、レイアウトを思い切り見直した方がよい。野外に設置された文化財の解説版には小文字で延々と続く長い行で組まれたレイアウトはよく見かけるが、大変読みづらく、集中力があっという間に削られてしまう。

1.5 欧文合字

「欧文合字」は初期設定で「オン」になっているはずだが、念のために設定が変わっていないかを確認しよう。

1.6 OpenType機能

OpenType 機能がついているフォントを使用する場合、「プロポーショナルオールドスタイル数字」を選ぶと、本文によくなじむ数字の書体に切り替えることができる。ただし、オールドスタイル数字はキャプションや表に合わないので、何もかもオールドスタイル数字にしていいわけではない。

2 段落パネル

InDesign のコンポーザーには「日本語」、「欧文」と「多言語対応」の三つのモードがある。名前だけ見ると、「多言語対応」を選択すれば何もかも対応できる

ように思われるかもしれないが、実はそういうわけではない。「多言語化対応」コンポーザーは日本語でも英語などのラテン言語でもない、インド、中東、東南アジアなどの言語用のモードである。英語の場合、「欧文」が正解である。また、それぞれのモードには「単数行」と「段落」が選べられるが、英語の場合は「段落」を選択しよう。

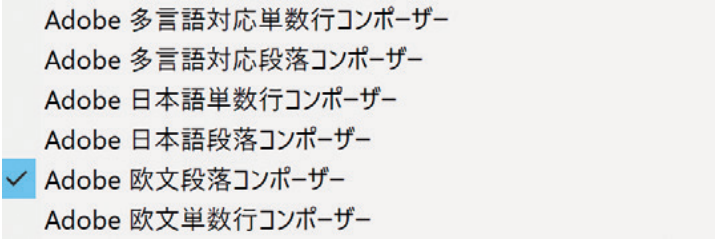


図2　コンポザーの選択メニュー

2.1 文字組

本文は「左揃え」と「均等配置（最終行左／上揃え）」のどちらかを選択しよう。日本の組版のほとんどが「箱組」（＝「均等配置（最終行左／上揃え）」）なので、多くの方が行末が凸凹している左揃えに違和感を感じているようだが、英文では左揃えと箱組のどちらも普通である。箱組は行の長さがそろっているため、そのリズムに乗って読み進めることが楽であるが、ロービジョンや読書慣れしていない人にはワードスペースが均等な左揃えの方が読みやすいと言われている。また、文字組は左揃えの方が簡単なので、タイポグラフィに自信がない方は、左揃えの方が無難であろう。ただし、本稿の解説を最後まで読んでいただくと、箱組もさほど怖くなくなるであろう。

2.2 インデント

「1行目左／上インデント」は、フォントサイズをコピペしてまず同じサイズに設定しよう。ただ、英文のインデントは日本語のように「1文字」のサイズに統一されているわけではない。インデントを小く感じたらもっと広くしてもいい。というより、行幅が長い場合はもっと広くした方がよい。とはいえ、無駄に広いのも見栄えが良くない。目安としては、レイアウトをパッと見て段落の数がすぐには言えなかったら、インデントを広げたほうがよい。

また、日本語はすべての段落に1文字のインデントを付けるのが一般的だが、英語は最初の段落と見出しの直後の段落をインデントしない。

インデントの代わりに段落間を１行を空けることもできるが、インデントと段落間の１行空けの併用は英文タイポグラフィの重大なマナー違反なので、絶対にやめよう。

2.3 ハイフネーション

「ハイフネーション」は初期設定で「オン」になっているはずである。文字組が左揃えの場合は、ハイフネーションを「オフ」にして、必要に応じて手動でハイフンを付けるのが一般的である。他方、箱組はハイフネーションが必須である。日本ではありがちなハイフネーションを「オフ」にした箱組のレイアウトは、非常に醜く、読みづらい。組版の他のところでいくら頑張っても、箱組でハイフネーションを「オフ」にしたら、全部台無しになってしまう。

2.3.1 左揃えの場合

先ほど述べた通り、基本的には手動で行うものだが、それが難しかったら、「ハイフネーション」を「オン」にして、「ハイフネーション設定」で「単語の最小文字数」を「8」に、「先頭の後」と「最後の前」を「3」に、「最大ハイフン数」を「3」に設定してみよう。また、「大文字の単語をハイフンで区切る」、「段落末尾の単語をハイフンで区切る」と「段間、フレームにわたる単語をハイフンで区切る」の三つを「オフ」にしよう。これで異常に長い単語の場合のみ、ハイフネーションが発動する。

図3　ハイフネーション設定の画面

2.3.2 箱組の場合

箱組にはハイフネーションが必須である。「ハイフネーション設定」は上記に述べた左揃えの設定とほぼ同じで、唯一の違いは「単語の最小文字数」を「8」では

なく「6」に設定するところである。

2.4 ジャスティフィケーション

「ジャスティフィケーション」は両端揃え専用設定である。ここは本来、フォントのサイズやデザイン等に配慮して慎重に設定するところだが、とりあえず「単語間隔」の最小値を「90 %」、最大値を「110%」に、「文字間隔」の最小値を「-2%」、最大値を「+2%」に、「文字幅拡大／縮小」の最小値を「98 %」、最大値を「102 %」に設定してみよう。

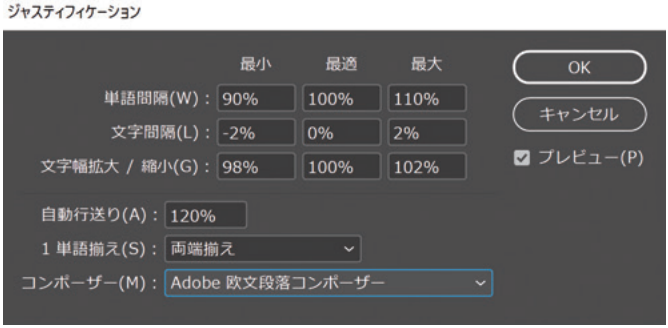


図4　ジャスティフィケーション設定の画面

おわりに

英文／欧文タイポグラフィは歴史が長い分ルールも多い。ここで紹介した設定とルールは氷山の一角にすぎない。本稿の目的は英文タイポグラフィの詳細な紹介でも、想定できるすべてのレイアウトとユースケースの対応でもなかった。そもそも、なぜこのような設定をお勧めするのかさえ、意図的に述べていない。とりあえず機械的に本稿で述べた通りの設定を行い、足並みをそろえよう。本当の英文タイポグラフィはこれからの先にある。日本語で書かれている欧文タイポグラフィに関する本が決して多くはないが、どれも分かりやすく、入手しやすい。以下何冊かをリストアップするので詳細はそれらに参照していただきたい。

- 『MORISAWA PASSPORT：英中韓組版ルールブック』
  モリサワのウェブサイトから無料でダウンロードできるマニュアル。英語に加えて中国語、韓国語とタイ語の組版のルールと設定も解説されている貴重な資料。

- 『欧文組版：タイポグラフィの基礎とマナー』（増補改訂版）
  日本人デザイナーがやりがちなマナー違反を取りあげながら英文タイポグラフィの基本的な考え方が述べられている一冊。
- 『新標準・欧文タイポグラフィ入門：プロのための欧文デザイン＋和欧混植』
  日本でデザイナーとして仕事している著者たちが InDesign の細かい設定を紹介しながら英文タイポグラフィの詳細を語る教科書。
- 『ディテール・イン・タイポグラフィ：読みやすい欧文組版のための基礎知識と考え方』
  著者が読みやすい欧文組版を追求してたどり着いた答えが簡潔に書いてある小さなマニュアル。
- 『1ページずつ学ぶ 文字レイアウトの法則』
  英文タイポグラフィの基本ルールから出版物のレイアウトの決まり事まで１つずつ図解する本。
- 『タイポグラフィ・ハンドブック』（第2版）
  和・英文タイポグラフィのほぼ全てを網羅している一冊。

2022年度文化財関連用語日中対訳集

吳 修喆†

† 奈良文化財研究所

Japanese-Chinese Glossary on Cultural Properties: FY 2022

Wu Xiuzhe†

† Nara National Research Institute for Cultural Properties

凡例

(1) この対訳集は、奈良文化財研究所が2022年4月から2023年1月までの間に行われていた多言語化業務の中、吳修喆が作成したものであり、対訳の決定版ではない。
(2) リストは五十音順で整理した。
(3) 本対訳集の作成にあたり、所内から幅広い助言を得た。
(4) 繁体字の校閲は魏佳瑢が担当した。

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
合端	あいば	砌石接口	砌石接口
青石	あおいし	青石	青石
赤玉石	あかだまいし	赤玉石	赤玉石
頚甲	あかべよろい	颈甲	頸甲
秋里籬嶋	あきさとりとう	秋里篱岛	秋里籬島
亜字形墓	あじけいぼ	亚字形墓	亞字形墓
味経宮	あじふのみや	味经宫	味經宮
網代垣	あじろがき	编席围篱	編席圍籬
飛鳥寺式	あすかでらしき	飞鸟寺式	飛鳥寺式
四阿	あずまや	亭	亭
校倉(造)	あぜくら(づくり)	校仓(式建筑)	校倉(式建築)
アニミズム	あにみずむ	泛灵论	泛靈論
天橋立	あまのはしだて	天桥立	天橋立
編笠門	あみがさもん	竹编木顶门	竹編木頂門
荒池瓦窯	あらいけがよう	荒池瓦窑	荒池瓦窯
霰くずし	あられくずし	散状大卵石铺地	散狀大卵石鋪地
霰こぼし	あられこぼし	散状卵石铺地	散狀卵石鋪地
安居石	あんきょせき	安居石	安居石

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
生垣	いけがき	生篱	生籬
池庭	いけにわ	池园	池園
石垣	いしがき	石墙	石牆
石鎌	いしがま	石镰刀	石鐮刀
石屑	いしくず	石屑	石屑
石組	いしぐみ	石组	石組
石鍬	いしぐわ	石锄	石鋤
石立僧	いしだてそう	石立僧	石立僧
石積	いしづみ	石砌	石砌
石灯籠	いしどうろう	石灯笼	石燈籠
石庭	いしにわ	石庭	石庭
石鑿	いしのみ	石凿	石鑿
石浜	いしはま	铺石水滨	舖石水濱
磯島	いそしま	海岸形岛屿	海岸形島嶼
遺存地割	いそんじわり	遗存区划	遺存區劃
板状鉄斧	いたじょうてっぷ	板状铁斧	板狀鐵斧
一乗谷朝倉氏遺跡庭園群	いちじょうだにあさくらしいせきていえんぐん	一乘谷朝仓氏遗址园林群	一乘谷朝倉氏遺址園林群
糸落ち	いとおち	丝状瀑布	絲狀瀑布
稲作農耕	いなさくのうこう	水稻耕种	水稻耕種
稲籾	いねもみ	稻壳	稻殼
岩座/磐座	いわくら	岩座/磐座	岩座/磐座
岩島	いわじま	岩岛	岩島
磐舟柵	いわふねのき/いわふねさく	磐舟栅	磐舟柵
磐余池辺双槻宮	いわれのいけのべのなみつきのみや	磐余池边双槻宫	磐余池邊雙槻宮
印山越王陵	いんざんえつおうりょう	印山越王陵	印山越王陵
陰石	いんせき	阴石	陰石
印紋硬陶	いんもんこうとう	印纹硬陶	印紋硬陶
陰陽石	いんようせき	阴阳石	陰陽石
植木屋	うえきや	园丁	園丁
植込み	うえこみ	植栽群	植栽群
魚溜	うおだまり	鱼洼	魚塭
鶯垣	うぐいすがき	黄莺围篱	黃鶯圍籬
請花	うけばな	仰莲	仰蓮

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
羽状紋	うじょうもん	羽状纹	羽狀紋
太秦形燈籠	うずまさがたとうろう	太秦形灯笼	太秦形燈籠
内垣	うちがき	内围篱	內圍籬
内露地	うちろじ	内露地	內露地
写し	うつし	摹本/仿作	摹本/仿作
馬形帯鈎	うまがたたいこう	马形带钩	馬形帶鉤
埋甕	うめがめ	埋瓮	埋甕
雲上袖垣	うんじょうそでがき	云霄翼篱	雲霄翼籬
瀛州	えいしゅう	瀛洲	瀛洲
駅三洞式土器	えきさんどうしきどき	驿三洞式陶器	驛三洞式陶器
抉り	えぐり	抉入部	抉入部
抉入石器	えぐりいりせっき	凹刃石器	凹刃石器
エツリ穴	えつりあな	牵引孔	牽引孔
園苑源流考	えんえんげんりゅうこう	园苑源流考	園苑源流考
鴛鴦石	えんおうせき	鸳鸯石	鴛鴦石
円蓋形銅器	えんがいがたどうき	圆盖形铜器	圓蓋形銅器
円形削器	えんけいさっき	圆刮削器/盘状刮削器	圓刮削器/盤狀刮削器
円形有文銅器	えんけいゆうもんどうき	圆形有纹铜器	圓形有紋銅器
円月橋	えんげつきょう	圆月桥	圓月橋
猿猴松	えんこうまつ	猿猴松	猿猴松
縁先手水鉢	えんさきちょうずばち	廊前洗手钵	廊前洗手缽
遠州形燈籠	えんしゅうがたとうろう	远州形灯笼	遠洲形燈籠
円星宿形手水鉢	えんしょうしゅくがたちょうずばち	圆星宿形洗手钵	圓星宿形洗手缽
円窓机帳	えんそうきちょう	圆窗围屏	圓窗屏風
円窓菱袖垣	えんそうひしそでがき	圆窗菱格翼篱	圓窗菱格翼籬
円池	えんち	圆池	圓池
園池司	えんちし/そのいけのつかさ	园池司	園池司
羨道	えんどう/せんどう	羡道	羨道
円筒形土器	えんとうがたどき	圆筒形陶器	圓筒形陶器
沿辺烽火	えんぺんほうか	沿边烽火	延邊烽火
押圧剥離	おうあつはくり	压制法	壓製法
鴎宿石	おうしゅくせき	鸥宿石	鷗宿石
扇形銅斧	おおぎがたどうふ	扇形铜斧	扇形銅斧
大沢池	おおさわのいけ	大泽池	大澤池

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
置燈籠	おきどうろう	可移式灯笼	可移式燈籠
奥の院形燈籠	おくのいんがたとうろう	奥之院形灯笼	奥之院形燈籠
尾崎石	おさきせき	尾崎石	尾崎石
押縁	おしぶち	木压条	木壓條
帯金具	おびかなぐ	金属带饰	金屬帶飾
下り蹲踞	おりつくばい	低洼型矮洗手钵	低窪形矮洗手鉢
織部燈籠	おりべどうろう	织部灯笼	織部燈籠
陰陽五行説	おんみょうごぎょうせつ	阴阳五行说	陰陽五行說
外折口縁高坏/外折口縁高杯	がいせつこうえんたかつき	外折沿豆形器	外折沿豆形器
廻遊式庭園/回遊式庭園	かいゆうしきていえん	廻游式园林	迴游式園林
廻立宮(殿)	かいりゅうきゅう(でん)	廻立宫(殿)	迴立宮(殿)
火炎形透孔高坏/火炎形透孔高杯	かえんがたとうこうたかつき	火焰形镂空豆形器	火焰形鏤空豆形器
鏡石	かがみいし	镜石	鏡石
蟄石	かがみいし	蛰石	蟄石
懸樋/筧	かけひ	竹水管	竹水管
筧水形手水鉢	かけひみずがたちょうずばち	竹水管形洗手钵	竹水管形洗手鉢
笠(燈籠部材)	かさ	灯顶	燈頂
笠形銅器	かさがたどうき	笠形铜器	笠形銅器
重ね落ち	かさねおち	层叠瀑布	層疊瀑布
飾石	かざりいし	饰石	飾石
茄子文土器	かじもんどき	茄纹陶器	茄紋陶器
火舎	かしゃ	火舍	火舍
加速器質量分析法/AMS法	かそくきしつりょうぶんせきほう/AMSほう	加速器质谱法/AMS法	加速器質譜法/AMS法
片落ち	かたおち	单侧瀑布	單側瀑布
堅塩	かたしお/きたし	粗盐	粗鹽
刀掛石	かたなかけいし	挂刀石	掛刀石
片流形島	かたながれがたしま	细流形岛	細流形島
片刃石斧	かたはせきふ	单刃石斧	單刃石斧
堅魚煎/堅魚煎汁	かつおのいろり	鲣鱼高汤	鰹魚高湯
滑石混入系土器	かっせきこんにゅうけいどき	夹滑石陶器	夾滑石陶器
合葬墓	がっそうぼ	合葬墓	合葬墓
桂垣	かつらがき	桂离宫式竹篱	桂離宮式竹籬

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
桂離宮庭園	かつらりきゅうていえん	桂离宫庭园	桂離宮庭園
火燈垣	かとうがき	钟形围篱	鐘形圍籬
金手水鉢	かなちょうずばち	青铜洗手钵	青銅洗手鉢
鉄鉗	かなばし	铁钳	鐵鉗
冑/兜/甲	かぶと	头盔	頭盔
蝸羅石	がらんせき	蜗罗石	蝸羅石
伽藍石	がらんせき/がらんいし	础形石	礎形石
刈込み	かりこみ	修剪	修剪
枯山水	かれさんすい	枯山水	枯山水
枯滝	かれたき	枯瀑布	枯瀑布
枯流れ	かれながれ	枯溪	枯溪
龕室	がんしつ	龛室	龕室
間接打法	かんせつだほう	间接剥离	間接剝離
竿頭鈴	かんとうれい	竿头铃	竿頭鈴
木裏	きうら	树木背面	樹木背面
木表	きおもて	树木正面	樹木正面
基壇式積石塚	きだんしきつみいしづか	阶坛式积石冢	階壇式積石冢
木戸	きど	栅栏门	柵欄門
木橋	きばし	木桥	木橋
騎馬人物形土器	きばじんぶつがたどき	骑马人物形陶器/骑马俑	騎馬人物形陶器/騎馬俑
貴船石	きぶねいし	贵船石	貴船石
鬼面文	きめんもん	兽面纹	獸面紋
曲水	きょくすい	曲水	曲水
曲池	きょくち	曲池	曲池
銀閣寺垣	ぎんかくじがき	银阁寺式围篱	銀閣寺式圍籬
草止め	くさどめ	草皮护坡	草皮護坡
草葉文鏡	そうようもんきょう	草叶纹镜	草葉紋鏡
崩れ石積み	くずれいしづみ	不规则砌石	不規則砌石
九山八海石	くせんはっかいいし	九山八海石	九山八海石
百済大井宮	くだらおおいのみや	百济大井宫	百濟大井宮
百済大寺	くだらのおおでら	百济大寺	百濟大寺
沓脱石/履脱石	くつぬぎいし	脱鞋石	脫鞋石
口分田	くぶんでん	口分田	口分田
組合わせ式人形	くみあわせしきひとがた	组合式人偶	組合式人偶
雲形島	くもがたじま	云形岛	雲形島

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
鞍馬石	くらまいし	鞍马石	鞍馬石
群集墳	ぐんしゅうふん	群集坟	群集墳
慶雲石	けいうんせき	庆云石	慶雲石
脛甲	けいこう	胫甲	脛甲
型式分類	けいしきぶんるい	型式分类	型式分類
計帳	けいちょう	征税账簿	徵税賬簿
景養木	けいようぼく	景养木	景養木
袈裟形手水鉢	けさがたちょうずばち	袈裟纹洗手钵	袈裟紋洗手缽
月桂樹葉形尖頭器	げっけいじゅようがたせんとうき	桂叶形石锥尖状器	桂葉形石錐尖狀器
結合式釣針	けつごうしきつりばり	组合型鱼钩	組合型魚鉤
毛彫	けぼり	细纹雕刻/细雕	細紋雕刻/細雕
厳海形手水鉢	げんかいがたちょうずばち	桥形洗手钵	橋形洗手缽
厳海橋	げんかいばし	严海桥	嚴海橋
原人/猿人	げんじん/えんじん	猿人	猿人
乾政官院	けんせいかんいん	乾政官院	乾政官院
賢庭	けんてい	贤庭	賢庭
口唇刻目文土器	こうしんきざみめもんどき	口唇刻目纹陶器	口唇刻目紋陶器
高地性集落	こうちせいしゅうらく	高地村落	高地村落
高麗袖垣	こうらいそでがき	高丽式翼篱	高麗式翼籬
光琳作り	こうりんつくり	光琳式修剪	光琳式修剪
孔列土器	こうれつどき	孔列陶器	孔列陶器
護岸石組	ごがんいしぐみ	护岸石组	護岸石組
黒釉鶏首壺	こくゆうけいしゅこ	黑釉鸡首壶	黑釉雞首壺
苔	こけ	苔藓	苔蘚
苔庭	こけにわ	苔园	苔園
腰掛	こしかけ	坐凳	坐凳
五色の賤	ごしきのせん	五色贱民	五色賤民
琥珀玉	こはくぎょく	琥珀珠	琥珀珠
盈梅袖垣	こぼれうめのそでがき	盈梅翼篱	盈梅翼籬
籠/込み	こみ	整形修剪	整形修剪
採集	さいしゅう	采集	採集
栽培	さいばい	栽培	栽培
彩文土器	さいもんどき	彩陶	彩陶
竿(燈籠部材)	さお	灯柱	燈柱
盃石	さかずきいし	酒杯石	酒杯石

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
作庭記	さくていき	作庭记	作庭記
冊封体制	さくほうたいせい	册封体制	冊封體制
砂紋	さもん	砂纹	砂紋
左右落ち	さゆうおち	左右式瀑布	左右式瀑布
猿戸	さるど	猿门	猿門
沢飛石	さわとびいし	渡水石	渡水石
沢渡	さわわたり	水滨步石	水濱步石
三蓋松	さんがいまつ	三盖松	三蓋松
三角形石包丁	さんかくけいいしぼうちょう	三角形石刀	三角形石刀
三角形透孔高坏/三角形透孔高杯	さんかくけいすかしたかつき	三角形镂空豆形器	三角形鏤空豆形器
残山剰水	ざんざんじょうすい	残山剩水	殘山剩水
三段垣	さんだんがき	三层围篱	三層圍籬
山腰石	さんようせき	山腰石	山腰石
三稜大型尖頭器	さんりょうおおがたせんとうき	三棱大尖状器	三棱大尖狀器
潮入の庭	しおいりのにわ	潮水之园	潮水之園
枝折戸	しおりど	菱格竹扉	菱格竹扉
敷石	しきいし	铺石	鋪石
識名園	しきなえん	识名园	識名園
四季の庭	しきのにわ	四季之园	四季之園
敷松葉	しきまつば	铺松叶	鋪鬆葉
枝形石	しぎょうせき	树桩石	樹樁石
仕切垣	しきりがき	院内围篱	院內圍籬
地瘤	じこぶ	地瘤	地瘤
鹿おどし	ししおどし	添水	添水
四耳長頸壺	しじちょうけいこ	四耳长颈壶	四耳長頸壺
之字文	しじもん	之字纹	之字紋
柴垣	しばがき	细杂木围篱	細雜木圍籬
芝生	しばふ	草坪	草坪
島庄遺跡庭園遺構	しまのしょういせきていえんいこう	岛庄遗址园林遗迹	島莊遺址園林遺構
借景	しゃっけい	借景	借景
車輪形土器	しゃりんがたどき	轮形陶器	輪形陶器
重層門	じゅうそうもん	双层楼门	雙層樓門
十二支神像	じゅうにししんぞう	十二生肖像	十二生肖像

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
十六羅漢石	じゅうろくらかんいし	十六罗汉石	十六羅漢石
守護石	しゅごせき	守护石	守護石
縮景園	しゅっけいえん	缩景园	縮景園
寿命石	じゅみょうせき	寿命石	壽命石
馴化	じゅんか	驯化	馴化
書院造	しょいんづくり	书院式建筑	書院式建築
書院造庭園	しょいんづくりていえん	书院式园林	書院式園林
清浄石	しょうじょうせき	清净石	清淨石
正真木	しょうしんぼく	主景树	主景樹
浄土(式)庭園	じょうど(しき)ていえん	净土(式)园林	淨土(式)園林
小児墓	しょうにぼ	儿童墓	兒童墓
条坊計画線	じょうぼうけいかくせん	条坊规划线	條坊規劃線
縄文タタキ	じょうもんたたき	拍印绳纹	拍印繩紋
飾履	しょくり	饰履	飾履
女墻	じょしょう/ひめがき	女墙	女牆
白川砂	しらかわすな	白川砂	白川砂
白太夫形燈籠	しらたゆうがたとうろう	白太夫形灯笼	白太夫形燈籠
白水阿弥陀堂庭園	しらみずあみだどうていえん	白水阿弥陀堂庭园	白水阿彌陀堂庭園
神泉苑	しんせんえん	神泉苑	神泉苑
神仙炉形土器	しんせんろがたどき	神仙炉形陶器	神仙爐形陶器
心体石	しんたいせき	心体石	心體石
寝殿	しんでん	寝殿	寢殿
寝殿造	しんでんづくり	寝殿式建筑	寢殿式建築
寝殿造庭園	しんでんづくりていえん	寝殿式园林	寢殿式園林
水禦石	すいぎょせき	水御石	水禦石
水琴窟	すいきんくつ	水琴窟	水琴窟
水鳥岩	すいちょうがん	水鸟岩	水鳥岩
垂釣石	すいちょうせき	垂钓石	垂釣石
水門	すいもん	水门	水門
透渡殿	すいわたどの	游廊	遊廊
双六	すごろく	双陆	雙陸
砂雪隠	すなせっちん	砂雪隐	砂雪隱
洲浜/州浜	すはま	沙洲	沙洲
洲浜形島	すはまがたしま	沙洲形岛	沙洲形島
隅寺/角寺	すみでら	隅寺/角寺	隅寺/角寺

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
星雲文鏡	せいうんもんきょう	星云纹镜	星雲紋鏡
晴月石	せいげつせき	晴月石	晴月石
青苔石	せいたいせき	青苔石	青苔石
青銅鼎	せいどうてい	青铜鼎	青銅鼎
石英混入系土器	せきえいこんにゅうけいどき	夹石英陶器	夾石英陶器
赤漆	せきしつ	赤漆	赤漆
石室封土墳	せきしつふうどふん	石室封土墓	石室封土墓
石室墓	せきしつぼ	石室墓	石室墓
石刃	せきじん	石刃	石刃
石錐	せきすい	石锥/石钻	石錐/石鑽
石槍	せきそう	石矛	石矛
石鏃	せきぞく	石镞	石鏃
関守石	せきもりいし	守关石	守關石
石核	せっかく	石核	石核
石槨墓	せっかくぼ	石椁墓	石槨墓
絶対年代	ぜったいねんだい	绝对年代	絕對年代
雪隠	せっちん	雪隐(厕所)	雪隱(廁所)
施釉陶器	せゆうとうき	施釉陶器	施釉陶器
穿孔具	せんこうぐ	钻孔工具	鑽孔工具
洗骨葬	せんこつそう	拣骨葬/二次葬	揀骨葬/二次葬
禅室	ぜんしつ	禅室	禪室
全地球測位システム(GPS)	ぜんちきゅうそくいしすてむ(じいぴいえす)	全球定位系统	全球定位系統
塼築城	せんちくじょう	砖筑城	磚築城
塼室墓/磚室墓	せんしつぼ	砖墓	磚墓
尖頭器	せんとうき	尖状器/石锥	尖狀器/石錐
象嵌	ぞうがん	镶嵌	鑲嵌
造宮職	ぞうぐうしき	造宫职	造宮職
相対年代	そうたいねんだい	相对年代	相對年代
双頭鈴	そうとうれい	双头铃	雙頭鈴
僧房	そうぼう	僧房	僧房
側室	そくしつ	侧室/耳室	側室/耳室
袖垣	そでがき	翼篱	翼籬
外露地	そとろじ	外露地	外露地
稜落ち	そばおち	偏斜形瀑布	偏斜形瀑布

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
反石橋	そりいしばし	石拱桥	石拱橋
反橋	そりばし	拱桥	拱橋
退化沈線文	たいかちんせんもん	退化刻划纹	退化刻劃紋
焚き口	たきぐち	窑门/灶坑	窯門/竈坑
竹穂垣	たけほがき	竹梢围篱	竹梢圍籬
蛇行状鉄器	だこうじょうてっき	蛇形铁器/蛇行状铁器	蛇形鐵器/蛇行狀鐵器
多歯具	たしぐ	多齿具	多齒具
敲石	たたきいし	石杵/石锤	石杵/石錘
叩き目文	たたきめもん	拍印纹	拍印紋
立合垣	たちあいがき	竖编束状围篱	豎編束狀圍籬
多鈕細文鏡	たちゅうさいもんきょう	多钮细纹镜	多鈕細紋鏡
多鈕粗文鏡	たちゅうそもんきょう	多钮粗纹镜	多鈕粗紋鏡
楯	たて	盾牌	盾牌
立子	たてこ	竖棂	豎欞
楯築墳丘墓	たてつきふんきゅうぼ	盾筑坟丘墓	楯築墳丘墓
縦長板冑	たてながいたかぶと	纵长板胄	縱長板胄
玉石	たまいし	卵石	卵石
玉石積	たまいしづみ	卵石堆砌	卵石堆砌
玉刈り	たまかり	灌木半球形修剪	灌木半球形修剪
玉作り	たまつくり	枝叶半球形修剪	枝葉半球形修剪
玉縁	たまぶち	竹围篱顶缘	竹圍籬頂緣
段落ち	だんおち	多层瀑布	多層瀑布
短頸壺	たんけいこ	短颈罐	短頸罐
単歯具	たんしぐ	单齿具	單齒具
単室墓	たんしつぼ	单室墓	單室墓
単葬墓	たんそうぼ	单葬墓	單葬墓
知識寺	ちしきじ	知识寺	知識寺
雉城	ちじょう	雉城	雉城
注口土器	ちゅうこうどき	注口陶器	注口陶器
鋳造品	ちゅうぞうひん	铸造品	鑄造品
彫金	ちょうきん	金属镂刻/雕金	金屬鏤刻/彫金
長頸壺	ちょうけいこ	长颈罐	長頸罐
手水鉢	ちょうずばち	洗手钵	洗手鉢
長胴甕	ちょうどうがめ	长腹瓮/长体瓮	長腹甕/長體甕
長卵甕	ちょうらんかめ	长卵瓮	長卵甕

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
直接打法	ちょくせつだほう	直接剥离/锤击法	直接剝離/錘擊法
貯蔵穴	ちょぞうけつ	贮存坑	貯存坑
直口広肩壺	ちょっこうひろかたつぼ	直口广肩壶	直口廣肩壺
伝い落ち	つたいおち	滑落式瀑布	滑落式瀑布
筒形器台	つつがたきだい	筒形器台/筒形器座	筒形器臺/筒形器座
筒形高坏/筒形高杯	つつがたたかつき	筒形豆形器	筒形豆形器
筒形銅器	つつがたどうき	筒形铜器	筒形銅器
妻問婚	つまどいこん	访妻婚	訪妻婚
積石塚	つみいしづか	积石冢	積石冢
釣殿	つりどの	水榭	水榭
鉄鎌	てつがま	铁镰	鐵鎌
鉄戟	てつげき	铁戟	鐵戟
鉄剣	てっけん	铁剑	鐵劍
鉄滓	てっさい	铁渣	鐵渣
鉄鑿	てつのみ	铁凿	鐵鑿
鉄鏃	てっし/てつやりがんな	铁鏃	鐵鏃
鉄錘	てっすい	铁锥/铁钻	鐵錐/鐵鑽
鉄鋌	てってい	铁铤	鐵鋌
点列文	てんれつもん	戳纹/戳点纹	戳紋/戳點紋
銅鏡	どうきょう	铜镜	銅鏡
洞窟遺跡	どうくついせき	洞穴遗址	洞穴遺址
銅釦	どうこう	铜泡	銅釦
銅滓	どうさい	铜渣	銅渣
銅鑿	どうさく/どうのみ	铜凿	銅鑿
銅匙	どうさじ	铜匙/铜匕	銅匙/銅匕
灯盞	とうさん	灯盏	燈盞
銅鏃	どうぞく	铜镞	銅鏃
銅鐸	どうたく	铜铎	銅鐸
胴部	どうぶ	腹部/体部	腹部/體部
銅鍑	どうふく	铜鍑	銅鍑
胴部最大径	どうぶさいだいけい	最大腹径	最大腹徑
銅鏃	どうやりがんな	铜鏃	銅鏃
銅鈴	どうれい	铜铃	銅鈴
東濊	とうわい	东濊	東濊
弩機	どき	弩/弩机	弩/弩機

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
土壌楔	どじょうくさび	土楔	土楔
土製耳飾り	どせいみみかざり	素陶耳饰	素陶耳飾
弩台	どだい	弩台	弩臺
凸字形住居	とつじがたじゅうきょ	凸字形房址/凸字形居住址	凸字形房址/凸字形居住址
刻目突帯文土器	きざみめとったいもんどき	附加堆纹陶器	附加堆紋陶器
巴形銅器	ともえがたどうき	巴形铜器	巴形銅器
渡来系氏族	とらいけいしぞく	渡来系氏族	渡來系氏族
内城	ないじょう	内城	內城
流れ	ながれ	溪流	溪流
流れ蹲踞	ながれつくばい	流水型矮洗手钵	流水型矮洗手鉢
難波津の歌	なにわづのうた	难波津歌	難波津歌
二室墓	にしつぼ	双室墓	雙室墓
二段茎石鏃	にだんけいせきぞく	二段茎式石镞	二段莖式石鏃
丹塗磨研土器/赤色磨研土器	にぬりまけんどき/せきしょくまけんどき	红衣陶	紅衣陶
塗り絵	ぬりえ	填色画	著色畫
根入れ	ねいれ	基部	基部
根締め	ねじめ	固土灌木	固土灌木
燃焼室	ねんしょうしつ	燃烧室/火膛/烧火坑	燃燒室/火膛/燒火坑
粘土帯土器	ねんどたいどき	叠唇陶器	疊唇陶器
野筋	のすじ	旷野式带状缓丘	曠野式帶狀緩丘
排水溝	はいすいこう	排水沟/排水沟渠	排水溝/排水溝渠
白村江の戦い	はくそんこうのたたかい	白江口之战/白村江之战	白村江海戰
剥片石器	はくへんせっき	石片石器/剥片石器	石片石器/剝片石器
馬甲	ばこう	马甲	馬甲
橋挟石	はしはさみいし	稳桥石	穩橋石
橋引石	はしびきいし	引桥石	引橋石
把手	はしゅ/とって	器耳/把手	器耳/把手
把手付壺	はしゅつきつぼ	把手壶	把手壺
波状線文	はじょうせんもん	水波纹/波浪纹	水波紋/波浪紋
馬鐸	ばたく	马铃/马铎	馬鈴/馬鐸
鉢形器台	はちがたきだい	钵形器台/钵形器座	缽形器臺/缽形器座
鉢巻式山城	はちまきしきやまじろ	山顶式山城	山頂式山城
馬冑	ばちゅう	马胄	馬胄

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
発火石	はっかいし	燧石	燧石
八角燈籠	はっかくとうろう	八角灯笼	八角燈籠
抜歯	ばっし	拔牙(习俗)	拔齒(習俗)
八省院	はっしょういん	八省院	八省院
八頭鈴	はっとうれい	八珠铃	八珠鈴
離れ落ち	はなれおち	悬空式瀑布	懸空式瀑布
浜北人	はまきたじん	滨北人	濱北人
蛤刃石斧	はまぐりばせきふ	蛤刃石斧	蛤刃石斧
バリ銭	ばりせん	披锋钱	披鋒錢
半月形石包丁	はんげつがたいしぼうちょう	半月形石刀	半月形石刀
班田収授法	はんでんしゅうじゅほう	班田收授法	班田收授法
半両銭	はんりょうせん	半两钱	半兩錢
稗田遺跡	ひえだいせき	稗田遗址	稗田遺址
火口/灯口	ひぐち	灯门	燈門
灯障りの木	ひざわりのき	障灯木	障燈木
臂甲	ひじよろい	臂甲	臂甲
被葬者	ひそうしゃ	被葬者/墓主人	被葬者/墓主人
火袋	ひぶくろ	灯膛	燈膛
氷室	ひむろ	冰窖	冰窖
広形銅戈	ひろがたどうか	广形铜戈	廣形銅戈
広形銅矛	ひろがたどうほこ	广形铜矛	廣形銅矛
風葬	ふうそう	风葬/天葬	風葬/天葬
武具	ぶぐ	兵器/甲胄	兵器/甲胄
藤坪	ふじつぼ	紫藤中庭	紫藤中庭
襖垣	ふすまがき	推拉门式围篱	推拉門式圍籬
伏造り	ふせづくり	伞状塑形	傘狀塑形
仏足石	ぶっそくせき	佛足石	佛足石
不定形都城	ふていけいとじょう	不规则形都城	不規則形都城
太環式耳飾り	ふとかんしきみみかざり	粗环耳饰	粗環耳飾
太線沈線文	ふとせんちんせんもん	刻划粗线纹	刻劃粗線紋
舟底形石核	ふなぞこがたせっかく	扇形石核/船形石核	扇形石核/船形石核
舟着/船着	ふなつき	泊船台	泊船臺
踏石	ふみいし	落脚石	落腳石
踏分石	ふみわけいし	岔路口铺石	岔路口鋪石
夫余	ふよ	夫余/扶余	夫餘/扶餘

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
平行線文	へいこうせんもん	平行线纹	平行線紋
扁額	へんがく	匾额	匾額
編年	へんねん	编年	編年
方格規矩鏡	ほうかくきくきょう	方格规矩镜	方格規矩鏡
防御具	ぼうぎょぐ	铠装/防护具/防御具	鎧裝/防護具/防禦具
包谷式山城	ほうこくしきやまじろ	盆谷式山城	盆谷式山城
棒状鉄斧	ぼうじょうてっき	棒状铁斧	棒狀鐵斧
棒状把手	ぼうじょうとって	棒状柄部/棒状把手	棒狀柄部/棒狀把手
倣製鏡	ほうせいきょう	仿制镜	仿製鏡
封土	ふうど	封土	封土
烽墩	ほうとん	烽墩/烽火台	烽墩/烽火臺
防牌形銅器	ぼうはいがたどうき	盾形铜器	盾形銅器
望楼	ぼうろう	望楼/瞭望塔	瞭望台/瞭望臺
鉾	ほこ	矛	矛
墓誌	ぼし	墓志	墓誌銘
星形石斧	ほしがたせきふ	齿轮状环形石斧	齒輪狀環形石斧
細形銅剣	ほそがたどうけん	细形铜剑	細形銅劍
細環式耳飾り	ほそかんしきみみかざり	细环耳饰	細環耳飾
墓道	ぼどう	墓道	墓道
本歌	ほんか	原型	原型
埋葬主体部	まいそうしゅたいぶ	埋葬主体部	埋葬主體部
交ぜ垣/混ぜ垣	まぜがき	混植生篱	混植生籬
見越木	みこしぼく	衬景树	襯景樹
見越松	みこしまつ	衬景松	襯景松
見込み	みこみ	側面	側面
見立て	みたて	比拟/象征	比擬/象徵
見立物	みたてもの	废旧石材再加工品	廢舊石材再加工品
道識形燈籠	みちしるべがたとうろう	路标式灯笼	路標式燈籠
見付	みつき	正面	正面
三又鍬	みつまたぐわ	铁叉/铁耙	鐵叉/鐵耙
見通垣	みとおしがき	开口型翼篱	開口型翼籬
蓑垣	みのがき	蓑衣形围篱	蓑衣形圍籬
民部卿	みんぶきょう	民部卿	民部卿
向落ち	むかいおち	对望式瀑布	對望式瀑布
向ヶ岡貝塚	むこうがおかかいづか	向冈贝冢	向岡貝塚

日本語	ふりがな	中国語(簡体字)	中国語(繁体字)
明刀銭	めいとうせん	明刀钱/刀币	明刀錢/刀幣
目地	めじ	接缝	接縫
木心乾漆	もくしんかんしつ	木心干漆	木心乾漆
木槨墓	もっかくぼ	木椁墓	木槨墓
銛頭	もりがしら	铦头/鱼叉头	銛頭/魚叉頭
盛矢具	もりやぐ	箭囊/箭筒	箭囊/箭筒
門冠り	もんかぶり	门冠树	門冠樹
門号氏族	もんごうしぞく	门号氏族	門號氏族
薬園宮	やくおんのみや	药园宫	藥園宮
八色の姓	やくさのかばね	八色姓	八色姓
柳葉形石鏃	やなぎばがたせきぞく	柳叶形石镞	柳葉形石鏃
山里	やまざと	山村/山庄	山村/山莊
有棘利器	ゆうしりき	有刺利器	有刺利器
有肩銅斧	ゆうけんどうふ	有肩铜斧	有肩銅斧
有溝石斧	ゆうこうせきふ	有沟石斧	有溝石斧
邑城	ゆうじょう	邑城	邑城
有段石斧	ゆうだんせきふ	有段石斧	有段石斧
洋風庭園	ようふうていえん	西式园林	西式園林
沃沮	よくそ	沃沮	沃沮
翼廊	よくろう	翼廊	翼廊
横落	よこおち	横落式瀑布	横落式瀑布
喇叭形銅器	らっぱがたどうき	喇叭形铜器	喇叭形銅器
乱杭	らんぐい	乱桩	亂樁
龍首原	りゅうしゅげん	龙首原	龍首原
龍尾道	りゅうびどう	龙尾道	龍尾道
龍鳳文環頭大刀	りゅうほうもんかんとうたち	龙凤纹环首大刀	龍鳳紋環首大刀
両耳付壺	りょうじつきつぼ	双系壶	雙系壺
緑釉	りょくゆう	绿釉	綠釉
連弧文鏡	れんこもんきょう	连弧纹镜	連弧紋鏡
炉形土器	ろがたどき	炉形陶器	爐形陶器
炉跡	ろあと	灶址	竈址
露天窯	ろてんよう	露天窑	露天窯
呂字形住居	ろのじがたじゅうきょ	吕字形房址/吕字形居住址	呂字形房址/呂字形居住址

日本語	ふりがな	中国語（簡体字）	中国語（繁体字）
蕨手	わらびて	涡卷	渦卷
藁巻	わらまき	稻草席卷	稻草席卷
椀	わん	碗/木碗	碗/木碗

Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 3

Preface 4

I. Theoretical Framework

[1] Wooden Tablets in Japan, China, and Korea: Naming Conventions and Translations
Fang Guohua 6

[2] Tips on Translating Cultural Heritage Information 3: Exercise & Reference Materials
Wu Xiuzhe 18

[3] From "Cultural Properties" to "National Heritage:" On the Ongoing Transformation of Korea's Cultural Heritage System
Ho Soyeon 26

[4] The Impact of Cultural and Technological Shifts on English Texts Related to Cultural Heritage
Rebekah Harmon 40

[5] The Impact of Cultural and Technological Shifts on English Texts Related to Cultural Heritage (Japanese Translation)
Rebekah Harmon 45

II. Reports

[6] International Collaboration for Japanese Archaeological Site Information: ARIADNE and SEADDA
Yuichi Takata 52

[7] On the English Translation of "doseong" in Korea: Focusing on UNESCO Advisory Board Evaluations
Ho Soyeon 56

III. Experiments

[8] An Introductory Course on Python for Translating Cultural Heritage Information: Korean Morphological Analysis
Peter Yanase 66

IV. Reference Materials

[9] Style Manual for Chinese Texts on Cultural Heritage: Punctuation
Wu Xiuzhe 74

[10] Style Manual for Korean Texts on Cultural Heritage: Punctuation
Ho Soyeon 80

[11] Style Manual for English Texts on Cultural Heritage (English ed.)
Rebekah Harmon & Peter Yanase 87

[12] Typography for English Texts Related to Cultural Heritage
Peter Yanase 109

[13] Japanese-Chinese Glossary on Cultural Properties: FY 2022
Wu Xiuzhe 116

奈良文化財研究所研究報告　第38冊

文化財多言語化研究報告 3

Japanese Cultural Heritage and Global Audiences 3

Issued on March 17, 2023

Edited and Published by
Nara National Research Institute for Cultural Properties,
Nara

発行日　2023年3月17日
編集・発行　独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良県奈良市二条町2-9-1
印刷者　能登印刷株式会社
〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7-10

ISBN: 978-4-909931-96-2

Nara National Research Institute for Cultural Properties
https://www.nabunken.go.jp